SHOGAKUKAN

劉氏攻撃

# 史記

## 横山光輝

14

CHINESE HISTORY[SHIKI]

MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS

BIG GOLD COMICS

史記 14 横山光輝 MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS CHINESE HISTORY SHIKI

小学館

ISBN4-09-189194-2

C0379 ¥648E

定価：本体648円＋税

CHINESE HISTORY[SHIKI]

高祖・劉邦の死によって権力を得た呂后の、すさまじい専横政治は、
やがて、呂氏一族の帝位簒奪の企みへと発展した。
劉邦の遺志を告ぐ忠臣、周勃、陳平は、ひそかに手を組み、
劉氏一族の巻き返しのため、立ち上がった。
反乱は鎮圧され、漢は新しい時代へと突入。急激な世代交代の中、
新時代の立役者、袁盎、晁錯の対立が注目を浴びはじめた!!

**横山光輝**

MITSUTERU YOKOYAMA PROFILE

昭和29年に「音無しの剣」でデビュー。「鉄人28号」「おてんば天使」「伊賀の影丸」等で不動の地位を確立する。昭和42年より「水滸伝」を連載、さらに昭和46年からライフワークともいえる「三国志」の連載を開始する。「バビル2世」「時の行者」等、SFの傑作も多い。「史記」は、古代中国史全体を見極めようとする新しいライフワークだ。

ビッグゴールド・コミックス

史記 全15巻 ……横山光輝
平成野球草子 全10巻 ……水島新司
無限界漂流記①～②……松本零士
妖怪博士の朝食 全4巻…水木しげる
ゼンマイ仕掛けの犯罪白書 全2巻 …青柳裕介
青柳裕介作品集①～②……青柳裕介
ケースハード①～⑥ ……松本零士
アトンの娘 全3巻 ……里中満智子
博愛の人 全8巻 ……ジョージ秋山
齋藤なずな作品集 全4巻 齋藤なずな
紅(くれなる)にほふ 全3巻 ……竹宮恵子
トワイライト・ミュージアム……岡崎二郎
理想宮 全2巻……畑中 純
HATAGO〈旅籠〉 全2巻 石ノ森章太郎
石ノ森版立川文庫①～③…石ノ森章太郎
心の迷宮①～②……近藤ようこ
ワールド漂流記 全1巻 ……藤子不二雄Ⓐ
たらちねストリート 全2巻 面家哲郎&高井研一郎
野性伝説①～⑤ …戸川幸夫&矢口高雄
職人尽百景①～③……村野守美
新・藩翰譜 森一族 全2巻 久保田千太郎&ほんまりう

SHOGAKUKAN

劉氏攻撃

# 史記

横山光輝

14

BIG GOLD COMICS

BIG GOLD COMICS

史記

14

横山光輝 MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS/CHINESE HISTORY[SHIKI]

小学館

BIG GOLD COMICS

CHINESE HISTORY[SHIKI]

SHOGAKUKAN

劉氏反撃

# 史記

横山光輝

14

BGC

BIG GOLD COMICS

# 史記 14 劉氏反撃 目次

CHINESE HISTORY [SHIKI]

MITSUTERU YOKOYAMA PRESENTS


第1話 呂氏の陰謀……5

第2話 呂氏誅伐……65

第3話 栄光と恐怖……127

第4話 直言居士・袁盎……177

第1話
呂氏の陰謀

前一八一年に
起こった日食は
呂后の心に
大きな不安を
与えた。
劉氏を次々と
謀殺していった
祟りだと思った
のである。

2

呂后はすぐに
灞水のほとりに
祭壇を作らせた。

翌年三月、そこで厄祓いを行ったのである。

3

その帰途のことである。

4

？

呂太后さま
どうなされ
ました。

今 青い犬が
わたしに
咬みついた。

はて？
わたしどもは
お側におりましたが、
そのようなものは
見ませんでした。
わたしも
見ており
ませぬ。

5
いや、
わたしのここに
咬みついたのじゃ。

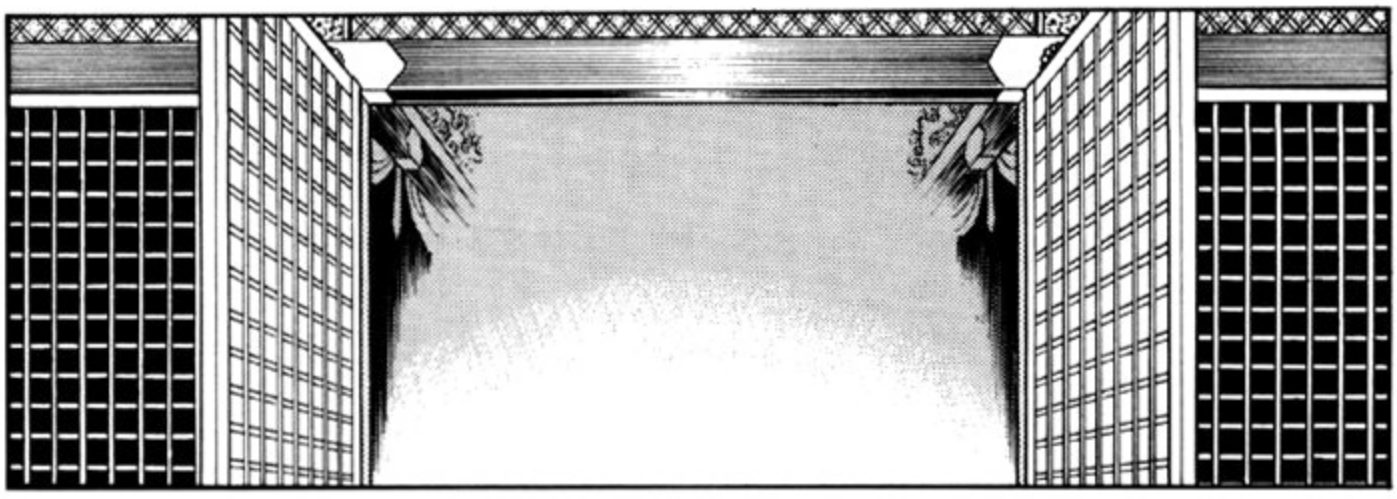
うん
？

咬まれた
跡がない。
わたしは夢でも
見ていたので
あろうか。

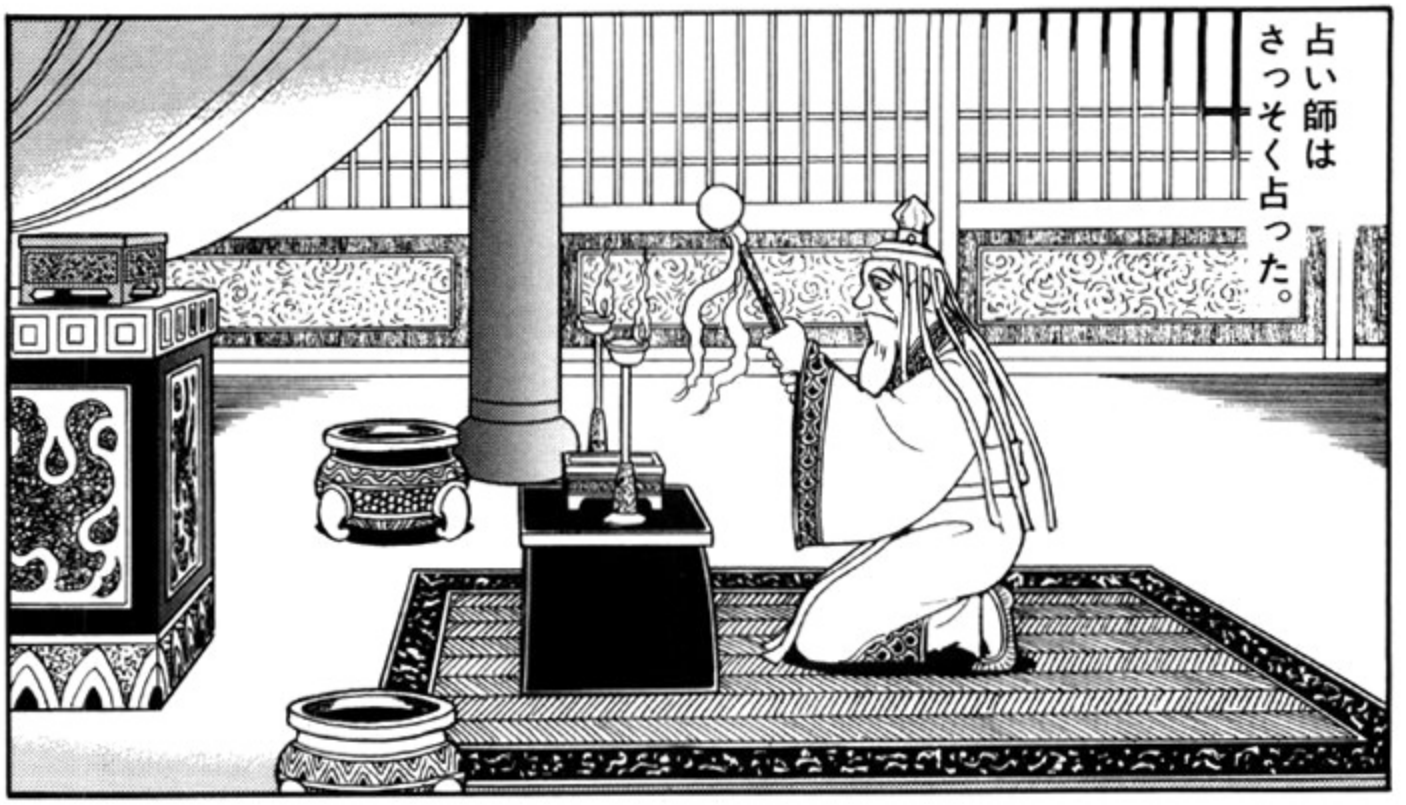
ほほほ、
わたしは夢を
見ていたようじゃ。

6

呂后は何事も
なかったように
都に引き返した。
だが心の中では
気になっていた…



これ、わたしは厄祓いの帰り道 青い犬に咬まれる夢を見た。気になってならぬ。なんの前兆か占ってもらっておくれ。
ははーっ。



8

趙王如意は戚夫人の子供で呂后が毒殺した一人である。

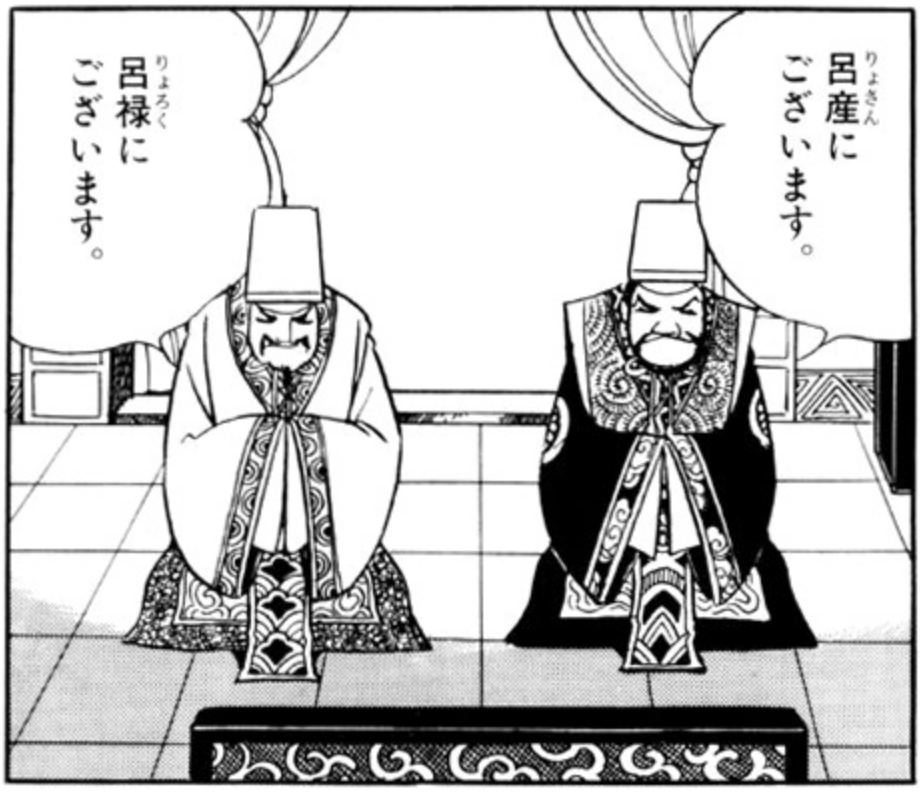
それから二、三日後
青い犬に咬まれた
場所に腫(は)れ物が
出来た。

腫れ物は日増しに
大きくなり
呂后の容態も
悪くなっていった。

10

これ、
趙王(ちょうおう) 呂禄(りょろく)と
梁王(りょうおう) 呂産(りょさん)を
呼んでおくれ。

はっ。



11

何を気の弱いことを仰せられます。

いや、わたしはもうそう長くあるまい。だから生きているうちに呂氏のために手を打っておく。

高祖は生前、劉氏以外の者が王になったら、力を合わせてこれを討てと重臣達に誓わせた。
だからそちたちが王になったことを重臣達は心よく思ってはいまい。わたしが死ねば、かならず反撃してこよう。

そこで、今のうちに国政の実権をそちたちに握らせておく。

12

まず、呂禄を北軍の上将軍に任じる。呂産は南軍の上将軍じゃ。これで関中百万の軍勢はそち達で握れる。重臣達は手も足も出せぬであろう。

13

あとはそちたちの力で呂氏一族の繁栄をはかるがよい。

ははっ。

ははーっ。

前一八〇年七月
呂后は悪女の
汚名を残したまま
この世を去った。

14

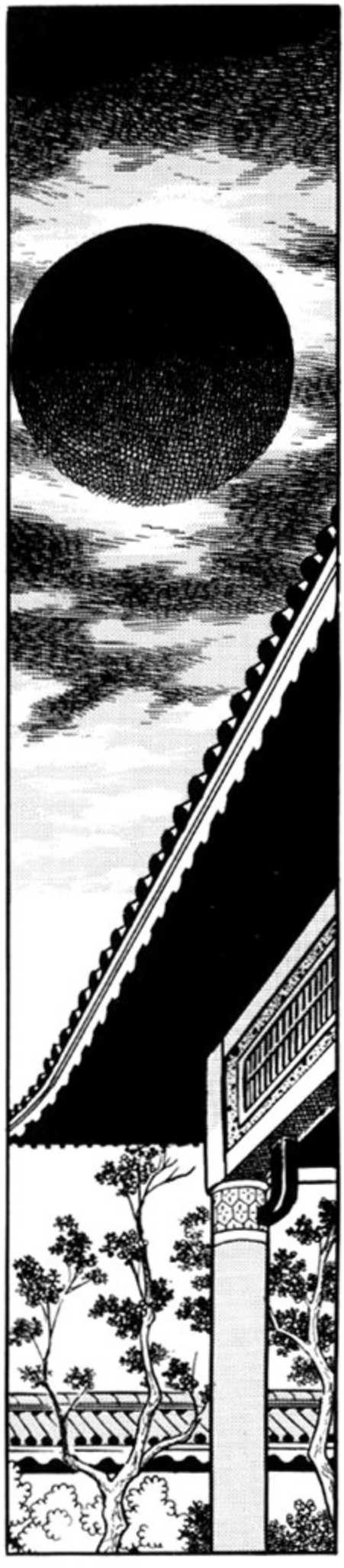
葬儀は
盛大におこ
なわれた。

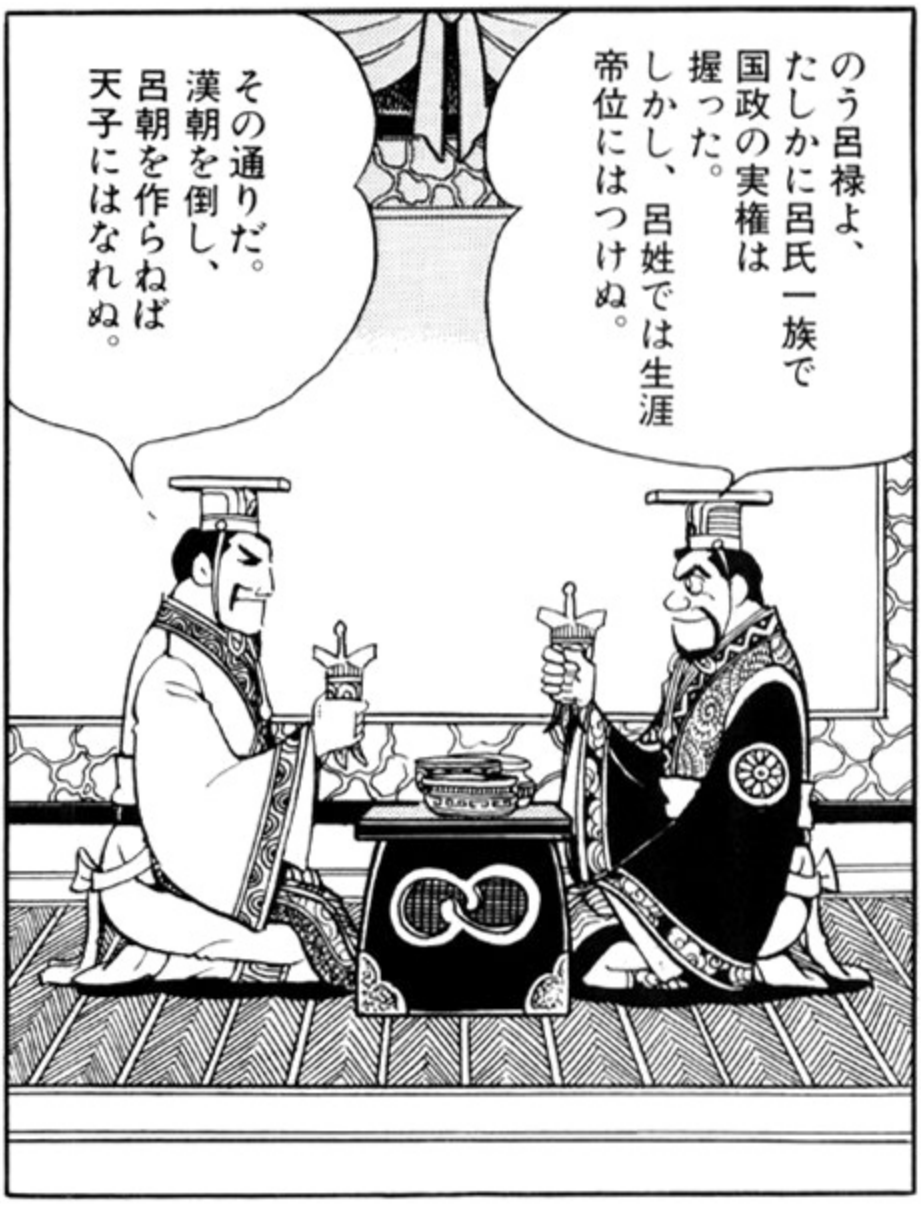
呂后の遺詔(いしょう)により呂産が相国となり、呂禄(ろろく)の娘が幼帝の后となった。

15

右丞相陳平(ちんぺい)はあいもかわらず酒と女に溺れ……

絳侯周勃(こうこうしゅうぼつ)は太尉(軍事長官)でありながら一兵も動かせぬ立場となった。




のう呂禄よ、たしかに呂氏一族で国政の実権は握った。しかし、呂姓では生涯帝位にはつけぬ。
その通りだ。漢朝を倒し、呂朝を作らねば天子にはなれぬ。

16

どうだ、われらは関中の百万の軍勢を握っている。漢朝を倒し呂氏から皇帝を出そう。

それは考えている。しかし呂太后が逝去されてまだ十日だ。劉一族や群臣は今はおとなしくしているが、これからどう動くかわからぬ。

斉や楚の力もあなどりがたいし、長安にも周勃や灌嬰などの将軍もまだ健在だ。あまり事を急ぐのも考えものだ。

近いうちに帝位は奪うが、反乱分子が出ないようにしてからだ。
なるほど。

17

時きたらば、一気にやる。その時には長安の劉氏や重臣も一挙に片付ける。
よしわかった、いつでも動けるように準備しておこう。

斉の哀王の弟
朱虚侯劉章は
長安に住んでいた。
妻は呂禄の娘で
あった。

劉章は関中の
実権をほとんど
呂氏が握って
いることに
腹を立てていた。

18

すると呂氏一門から帝が出るのですか。
はい、間もなくです。

そこで劉章さまの動きも、よく監視するようにとお父上さまのお言葉です。
わかりました。何かあればすぐ報告いたします。

では。

19

呂氏から帝が出る…？そんなことは出来っこない。

そうか呂産や呂禄は帝位まで奪うつもりなのだ。

これは一大事だ。
すぐに兄上に
知らせねば。

チリ
チリ

20

お呼びに
ございますか。

近う参れ。

そなた
これを斉の兄上に
渡してくれ。

よいか。
われらの動きは
監視されている。
買物でも
するふりをして
屋敷を出よ。

漢朝の
一大事だ、
頼むぞ。
はっ。

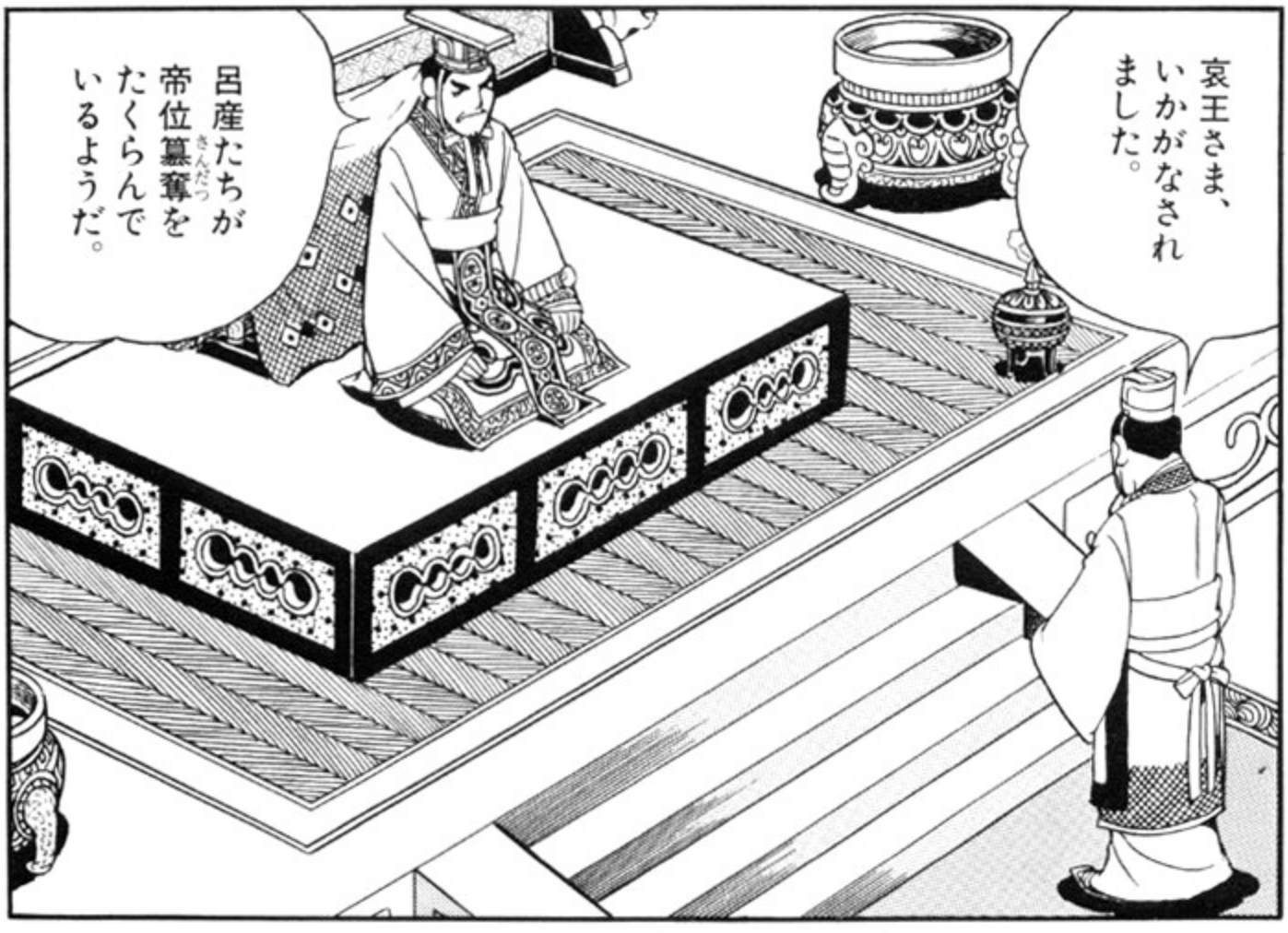
21

部下はそれが
重大な役目である
ことにすぐ気づき、
商人に姿を変えて
長安を出た。

22

使者、ご苦労であった。弟によろしく伝えてくれ。

ははーっ。


哀王さま、いかがなされました。
呂産たちが帝位簒奪をたくらんでいるようだ。

23

なんですと!?
まさかそこまで……

もし呂氏が帝位を奪えば劉氏はことごとく誅滅される。

劉章は一日も早く挙兵し、長安に攻め入り呂氏一族を討つよう申して参った。劉章も重臣達と力を合わせて内部から呼応するという。

すぐに出兵の準備をいたせ！ぐずぐずは出来ぬ！

ははっ。

24

宰相、なにか異議があるか。

哀王さま、お待ち下され。

長安には百万の軍勢がいます。今のわが斉では二十万が限度、とても歯が立ちませぬ。無謀な戦はおやめ下さい。

そなた、このままでは漢朝が滅ぶのを承知で申しているのか！

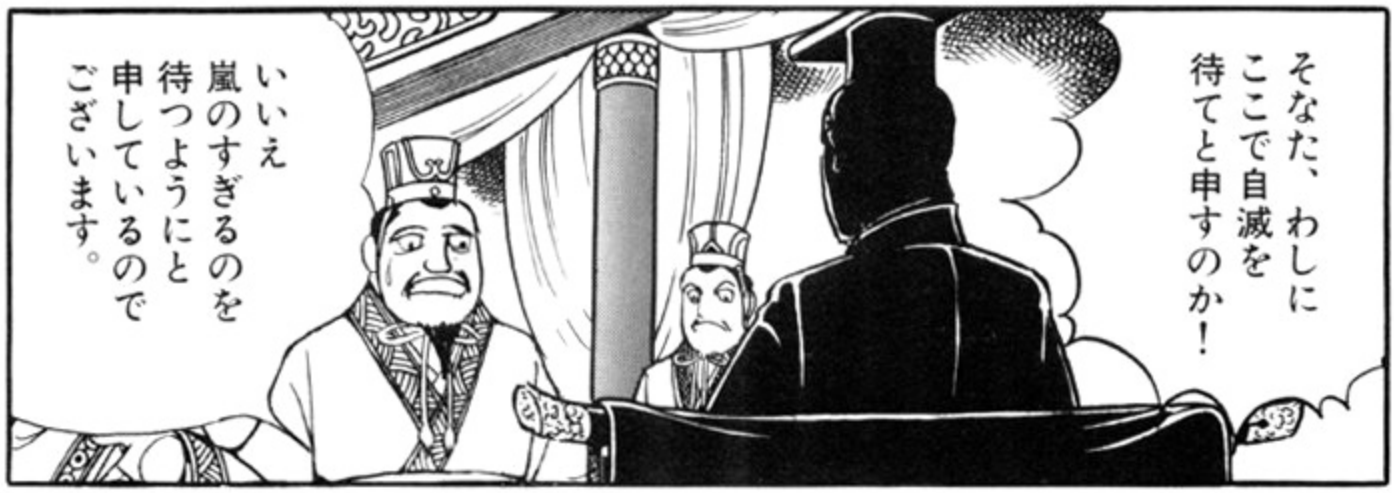
25

考えてもみよ。斉と趙は高祖が国を守る要として重視していた領土だ。その斉は呂后によって四つに分割され力を弱められた。

そればかりか呂后は趙王となった三人の王を殺し、呂禄を趙王にすえてしまった。このままでは各国の王はすべて呂氏がなる。

しかし首都に兵を向けるなど、反乱軍としてあつかわれますぞ。

呂氏に帝位を奪われては劉一族がすべて誅殺されるぞ！


そなた、わしにここで自滅を待てと申すのか！
いいえ嵐のすぎるのを待つようにと申しているのでございます。

26

馬鹿を申せ、われらは呂太后の時には息をひそめておった。だが今、嵐は去った。いまこそ立ち上って漢朝を立直す時なのだ！

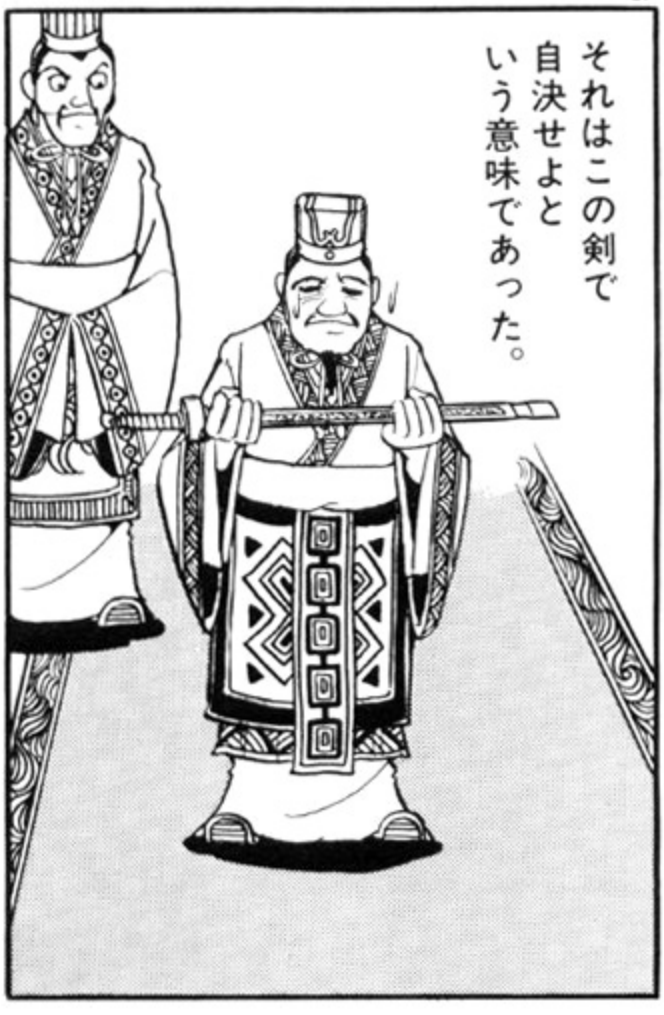
そなた斉の宰相でありながら、今の事態と重大さがわからぬか!!

そうか、
そなたの屋敷には
呂氏の出入りも多い。
いつから呂氏の
言いなりになった。

宰相という役目がら、
わが家には
色んな人が出入り
いたします。

もうよい、
そなたに
これを授ける。

27


それはこの剣で
自決せよと
いう意味であった。

斉の宰相は
無理やり
自決させられた。

よし、天下の諸侯に檄をとばせ。

はっ。

使者は檄を持って諸国に走った。

28

恵帝崩ずるや、呂太后は国政をほしいままにあやつり呂氏一門だけをとり立てた。

さらに次々と
三趙王を殺し、
梁・趙・燕の後継者まで
殺し呂氏を王とした。

呂太后が崩じても
呂氏は一門の官位を
高めることに専念し
劉侯忠臣を
おびやかす。

29

このままでは
漢の祖廟は絶える。
われは軍をひきいて
都にのぼり呂氏一族を
誅伐す。

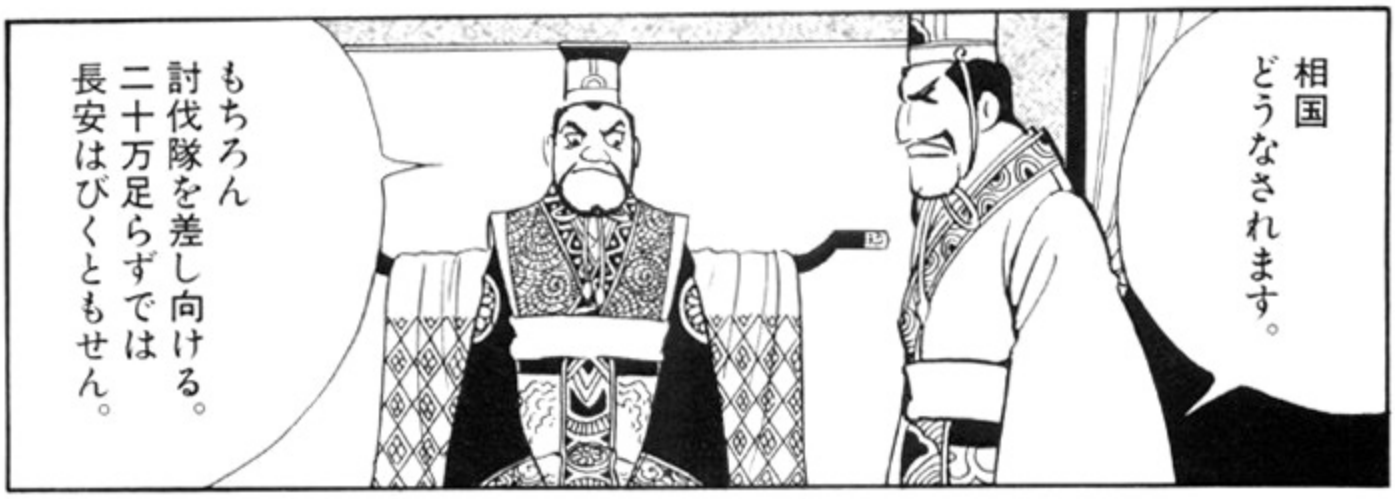
30

長安

31

なにっ
斉が軍勢を
長安に向けただと。

はっ、
総勢二十万と
思われます。


相国
どうなされます。
もちろん
討伐隊を差し向ける。
二十万足らずでは
長安はびくともせん。

しかし大事の前だ。
われらが出陣
するわけには
いかぬ。
誰か斉討伐に
向かわせよ。

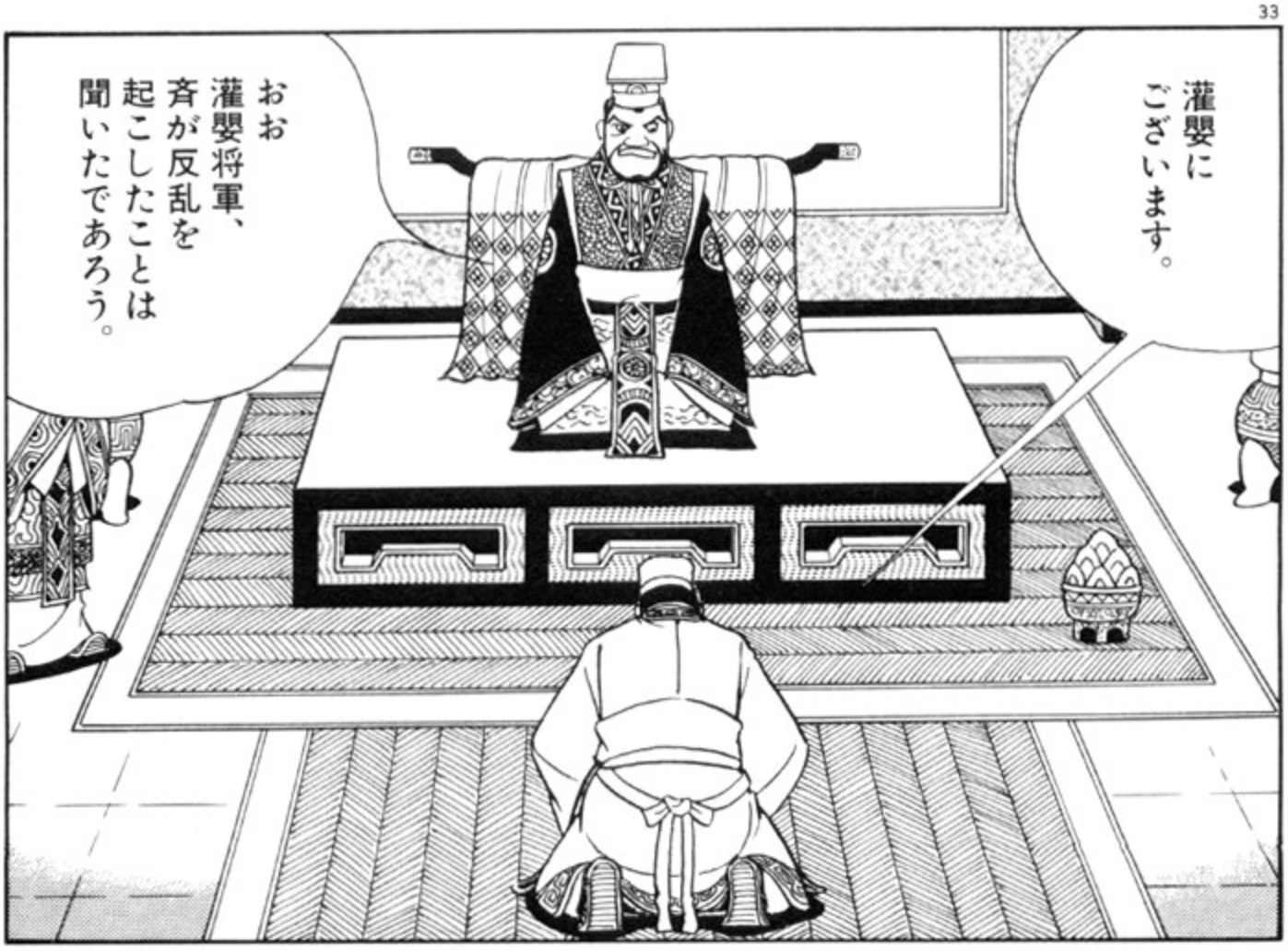
潁陰侯灌嬰が
よかろう。
彼は楚の項羽と戦って
きた歴戦の猛者だ。

まてまて、
灌嬰は高祖の
片腕として
戦っていた将軍だ、
裏切る恐れがある。
だがのう、
灌嬰が留守のほうが
われらは事が
起こしやすい。

32

灌嬰が斉軍と
戦いを始めれば、
われらは一気に
帝位を奪う。
灌嬰が裏切ったら
われらは朝敵として
大軍を繰り出し
斉も灌嬰も
討ち取ればよい。
なるほど。

これ 灌嬰を呼べっ。
ははっ。


33
灌嬰にございます。
おお 灌嬰将軍、斉が反乱を起こしたことは聞いたであろう。

そなたに十万の兵を授ける。ただちに出陣し、反乱軍を討て。これは勅命である。

ははーっ。

34

灌嬰はただちに出陣した。

そして
滎陽(けいよう)城に入り
兵を休ませた。

35

そなた達に
相談したい
ことがある。

われらがこれから
戦おうとする相手は
帝室の一族だ。
匈奴でも呂氏でもない。
天子の勅命というが
呂氏の命であることは
誰の目にも
明らかである。

高祖が逝去される前に、
劉氏以外の者が
王になったならば、
天下力を合わせて
これを討てと
遺詔された。

だが今や
三人の呂氏が王となり、
さらに関中の兵権を
一手に握り、
その強大な軍事力で
列侯をおどし、
国を欲しいままに
している。

36

呂産や呂禄が
王となりながら
領地に帰らぬのは、
まず帝位を奪う
魂胆があるからと見て
間違いなかろう。
もしわれらが斉を
討てば呂氏の野望を
助けることになる。

わしは斉と手を組んで呂氏を討伐しようと思っている。

将軍の憤りはよくわかります。しかし関中の軍勢はあまりにも多く、斉とわれらだけで討てましょうか。

それは無理だ。だが楚や代、淮南などの劉一門の王が手を組み連合軍を結成すれば、充分に勝算はある。

37

そこで斉をはじめとして諸侯に連合を組むよう使者を送る。一国だけでは無理だが連合となれば話は変ってくる。
いままで呂氏の軍事力におびえていた諸侯も勇気を持って立ち上がるであろう。

なるほど、これならば勝算が立ちまする、呂氏を誅伐できまする。

そち達は協力してくれるのか。

もちろん喜んで協力いたします。

異議なし。

異議なし。

いまこそ呂氏に天誅を。

38

よし。ではすぐに諸侯に使者を送れ。事は急ぐぞ。

はっ。

こんどは
滎陽城から
あわただしく
使者が飛び出し
……

39

四方に散って
いったのである。

斉陣

斉

斉

斉

斉

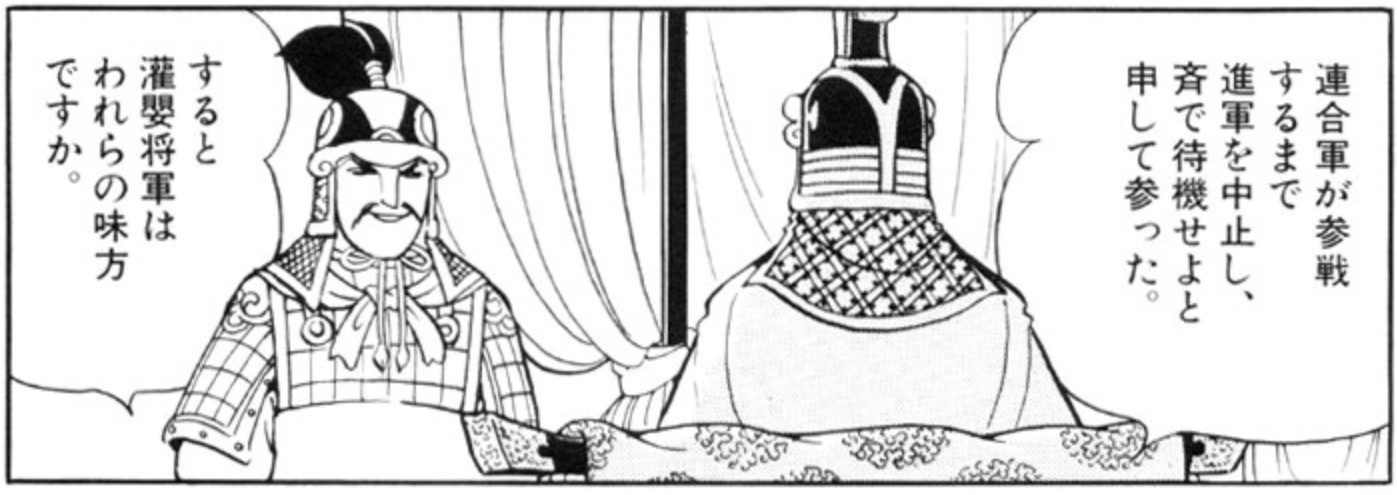
40

哀王さま、灌嬰からなんと言って参ったのです。

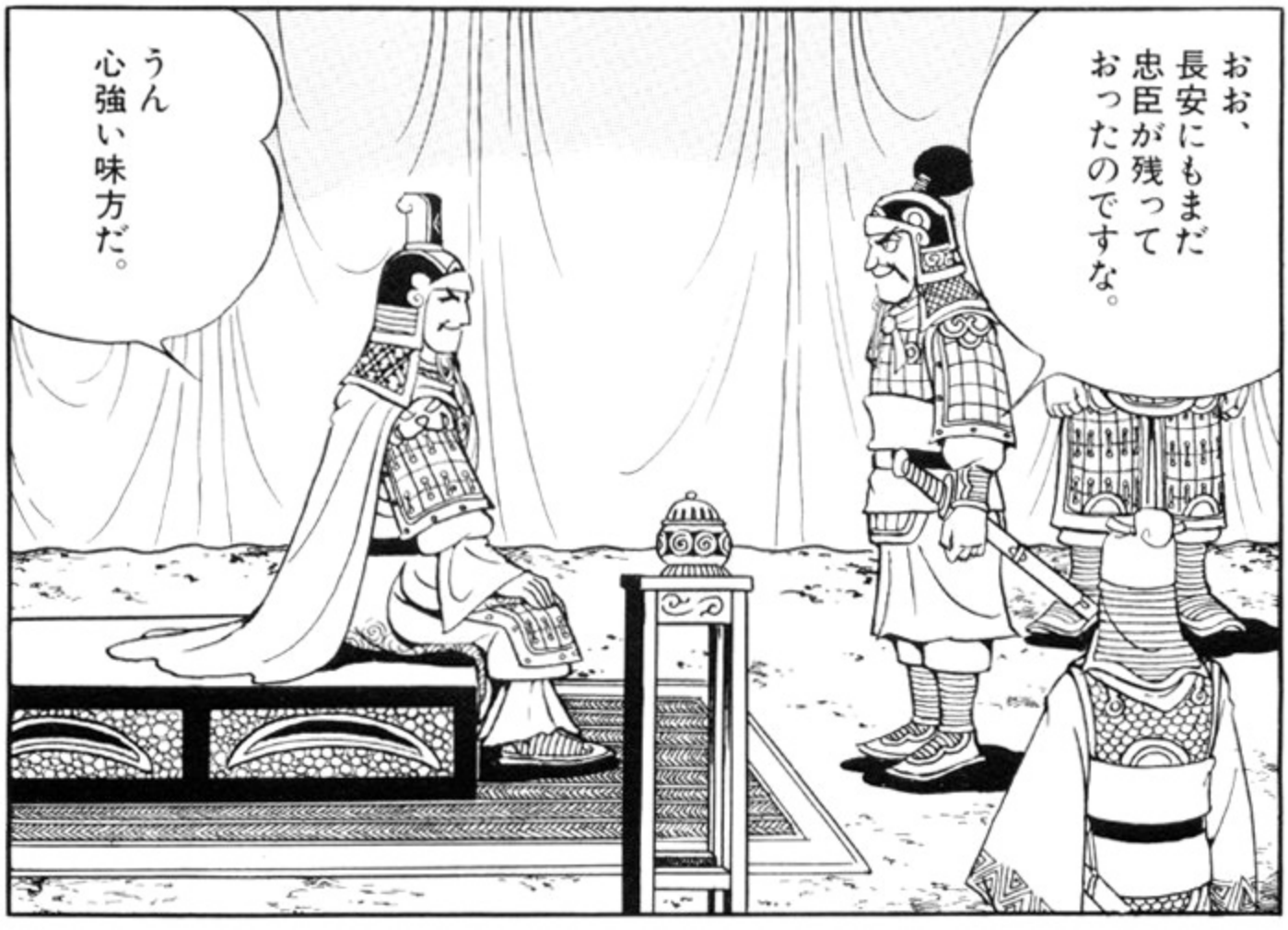
灌嬰は斉一国で呂氏を討つのは無理である。あせって事を為損(しそん)じてはならぬと申して参った。

どういう
ことでございます。

灌嬰は諸侯と
連合を組まねば、
関中の軍とは
互角に戦えぬ。
今 諸侯に連合に
加わるよう使者を
送っている。


連合軍が参戦
するまで
進軍を中止し、
斉で待機せよと
申して参った。
すると
灌嬰将軍は
われらの味方
ですか。

41


おお、
長安にもまだ
忠臣が残って
おったのですな。
うん
心強い味方だ。

よし灌嬰の申す通りにいたそう。進軍は中止し、斉の国境まで退き連合軍の集結を待とう。

わかりました。

42

斉王はただちに斉の国境まで軍勢を退かせた。

右丞相　陳平邸

陳平も呂后の死を待ってた一人である。

いまこそ漢朝を立直す時だ…だが今わしはどう動けばよいのだ。

43

右丞相ずい分お悩みのようですな。

44

陸賈は劉邦が秦打倒のため、咸陽を目ざした時から側に仕えた説客である。

陸賈も他の
説客と同じように
諸侯を説得し、
味方につけていった
人物である。

その功により
劉邦が天下を
統一した時には、
太中大夫(宮中顧問官)
として迎えた。

45

だが劉邦の死後、
呂后のやり方を見て、
いや気がさして
しまった。

なに、隠居したいと申すのか。

はい。近頃は体の調子も思わしくなく隠居して余生を送りたいと思います。

病ならば仕方ない許そう。体をいたわるがよいぞ。

ありがとうございます。

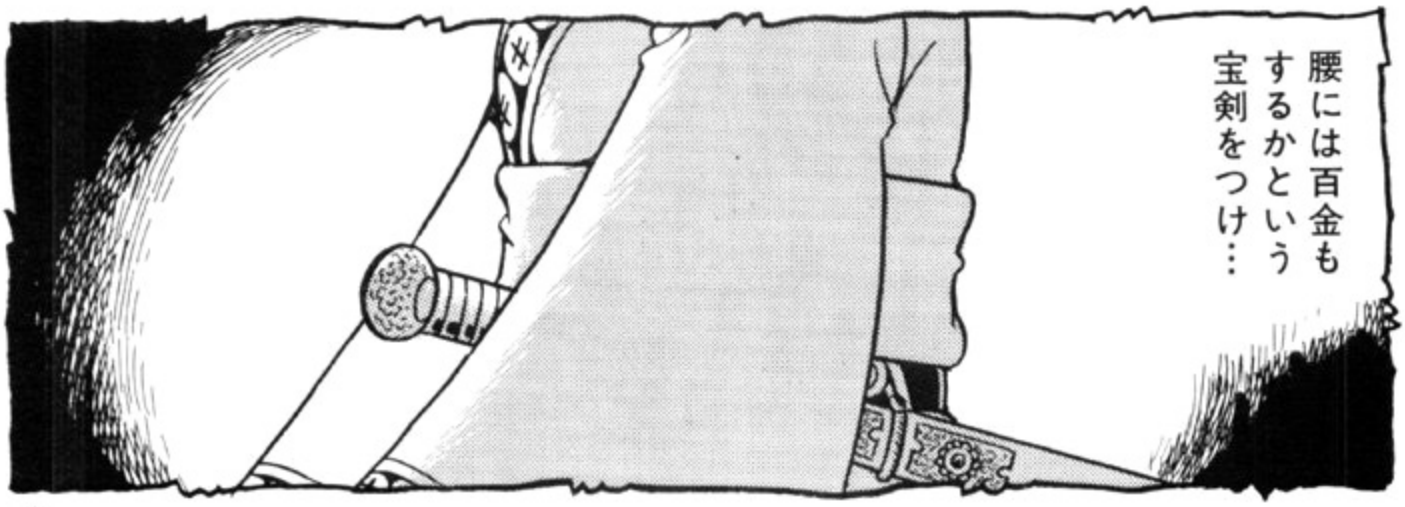
46

呂后にすればうるさい重臣はできるだけ遠ざけておきたかったので喜んで認めたのである。

陸賈は手柄によって与えられた土地を千金(一万両)で売り五人の子供に分け与えた。

47

これ以後陸賈は
四頭立ての
馬車に乗り…


腰には百金も
するかという
宝剣をつけ…

48

楽士を七、八人
つれて子供達の
家を順番に
まわる生活を
つづけていたので
あった。

先生
いつ長安に
お見えに
なったのです。

今日じゃ。

陳平どのは
封地三万戸の侯の身分。
それに丞相。
臣としては、これ以上の
富貴はない。
それがお悩みとは
呂氏一族の専横と
幼帝の身の上の
ことでござろうかな。

先生に
かかっては
何も隠せませぬ。

49

先生のことですから
噂も耳にして
おられましょう。
呂氏は帝位の
簒奪をたくらんで
いるようなのです。

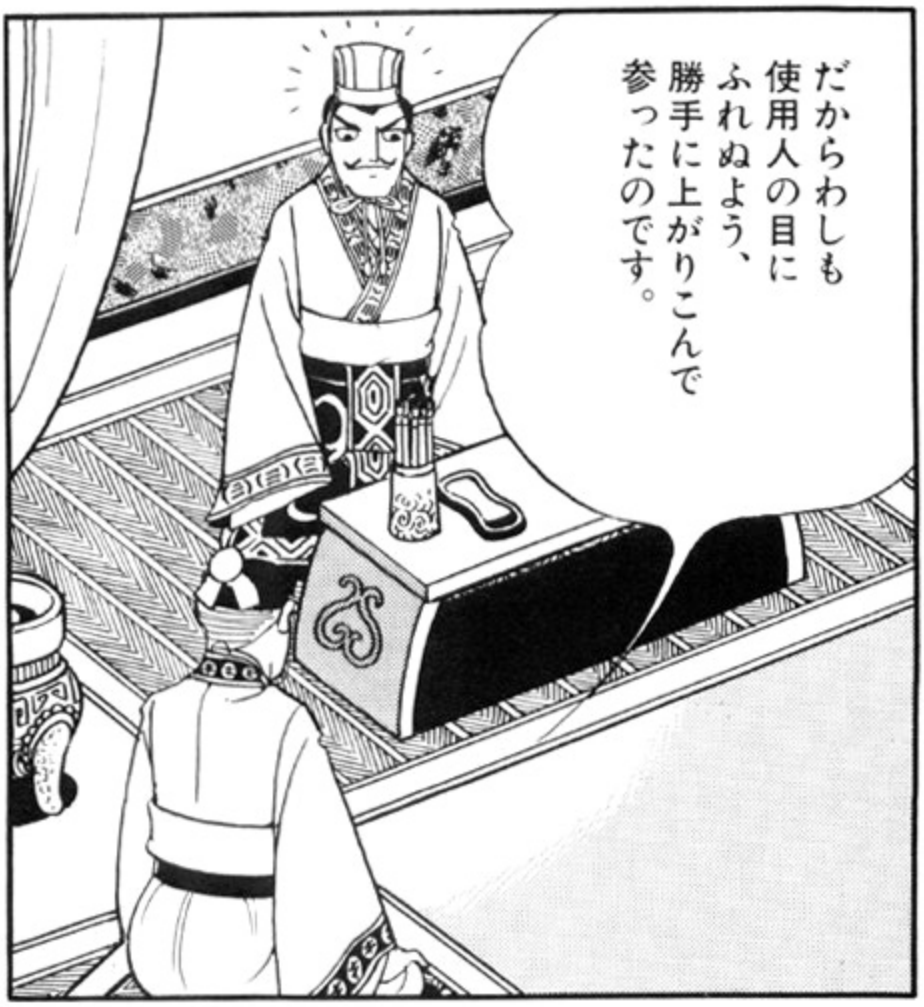
うむ、欲望と
いうものには限度が
ないからのう。

わたしは右丞相で国を守らねばなりません。しかし、今は何の力もない肩書きだけの存在です。

それに近頃は監視の目もきびしくなりました。わたしは使用人にも気を配らねばなりません。これで漢朝のために何が出来ましょう。

陳平どのが酒と女に溺れたふりをするのは、呂氏一族の嵐を避けるためだと睨んでおりました。

50


だからわしも使用人の目にふれぬよう、勝手に上がりこんで参ったのです。

今立ち上がらねば、立ち上がる時機を失います。先生、何か良い知恵があればお貸し下さい。

陳平どのは、周勃どのと親しくはありませんな。

はい、職務上顔はよく存じておりますが、親しい付き合いはしておりませぬ。

ならば、これからは親交を深めることですな。
はあ？

士人は泰平の世には宰相に期待し、天下危うければ将軍に期待するものなのです。その宰相と将軍が力を合わせるならば、士人はみなついてまいります。

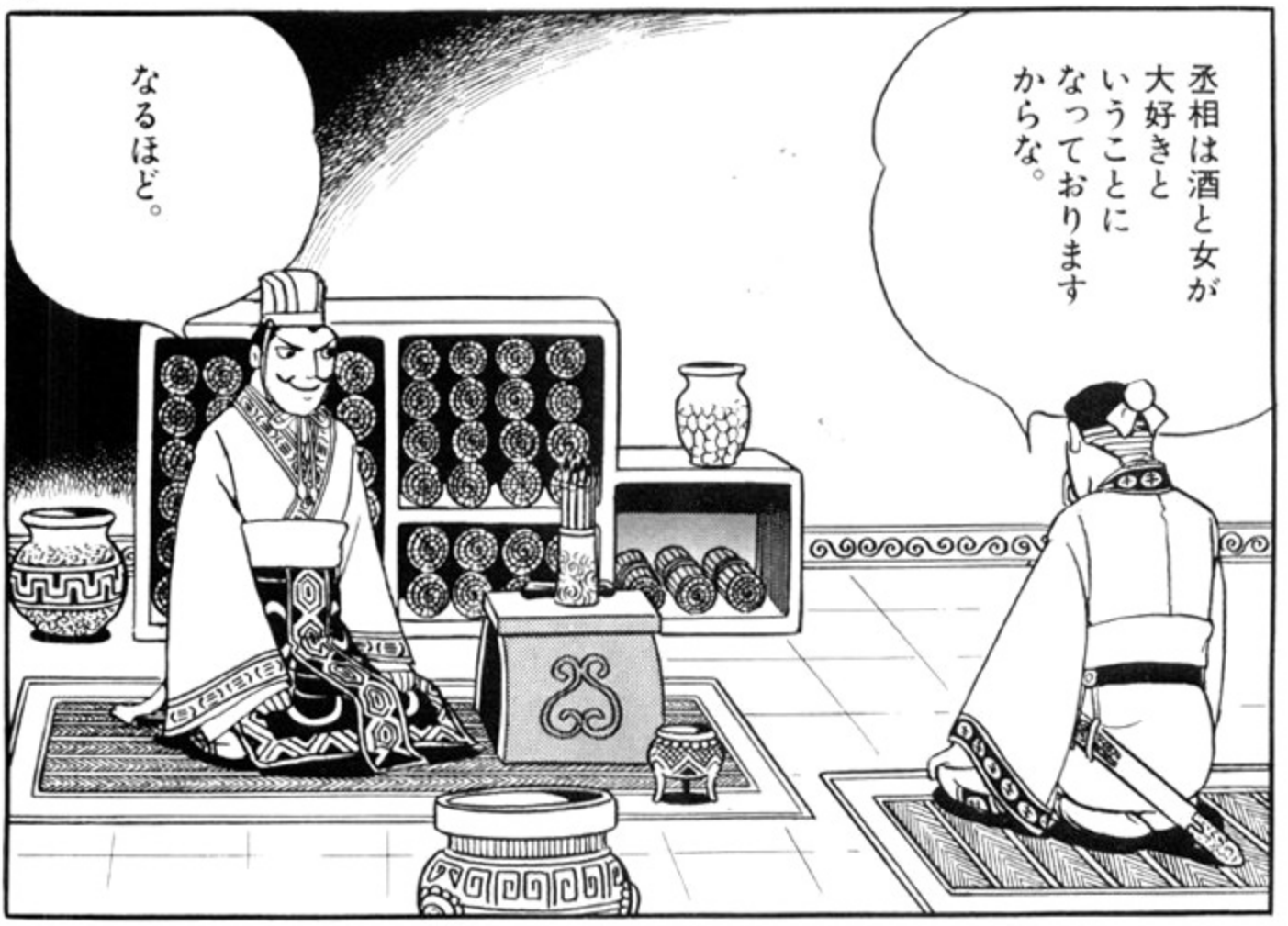
51

士人の支持があるかぎり天下に乱があろうと帝室の崩壊はありませぬ。今、漢朝の運命は丞相と周勃将軍のお二人にかかっているのです。

これからは、ご親交を密にして連絡をとりあうのです。
なるほど。

まず宴会を開いて周勃将軍を招待するのです。宴会ならば呂氏もそれほど気にいたしますまい。

52

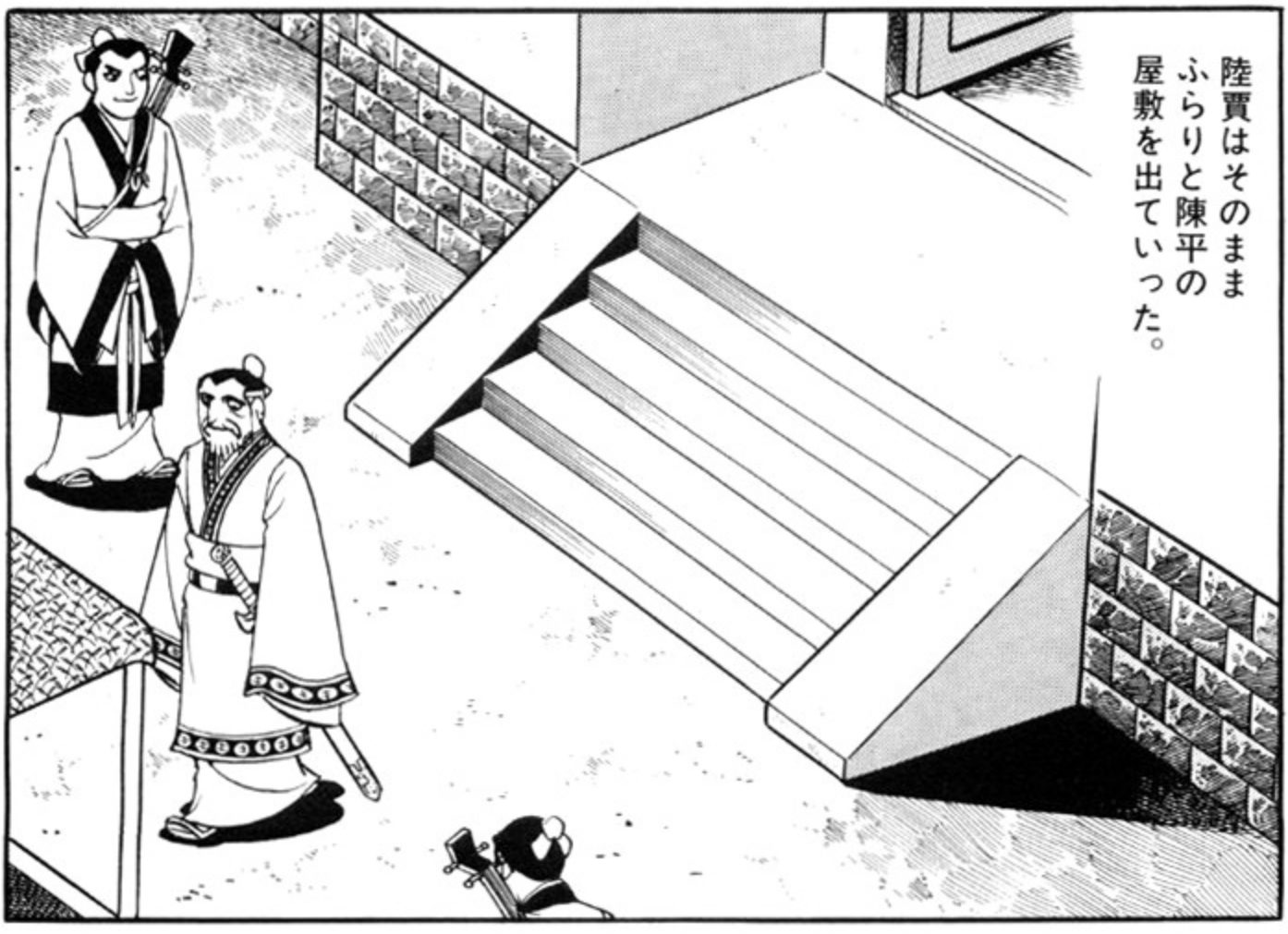

丞相は酒と女が大好きということになっておりますからな。
なるほど。

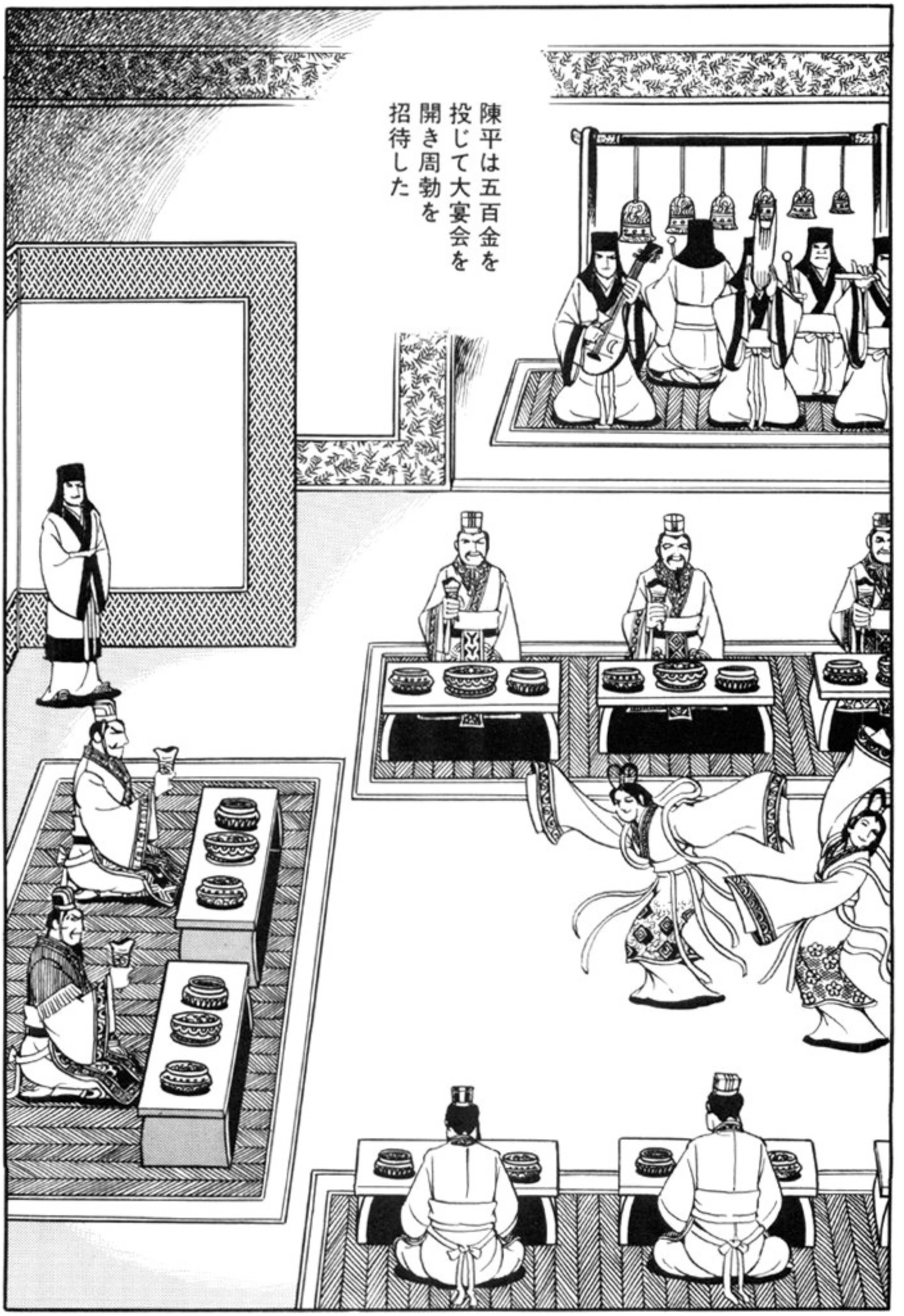
周勃どのは、生一本の男ですから、返礼として宴を開きましょう。その宴会を利用して打ち合わせをしていくのです。
わかりました。すぐに派手に宴会を開きましょう。

わしも旧友をたずね、ひそかに打ち合わせをしておきましょう。

なにとぞご協力をお願いいたします。

53


陸賈はそのままふらりと陳平の屋敷を出ていった。

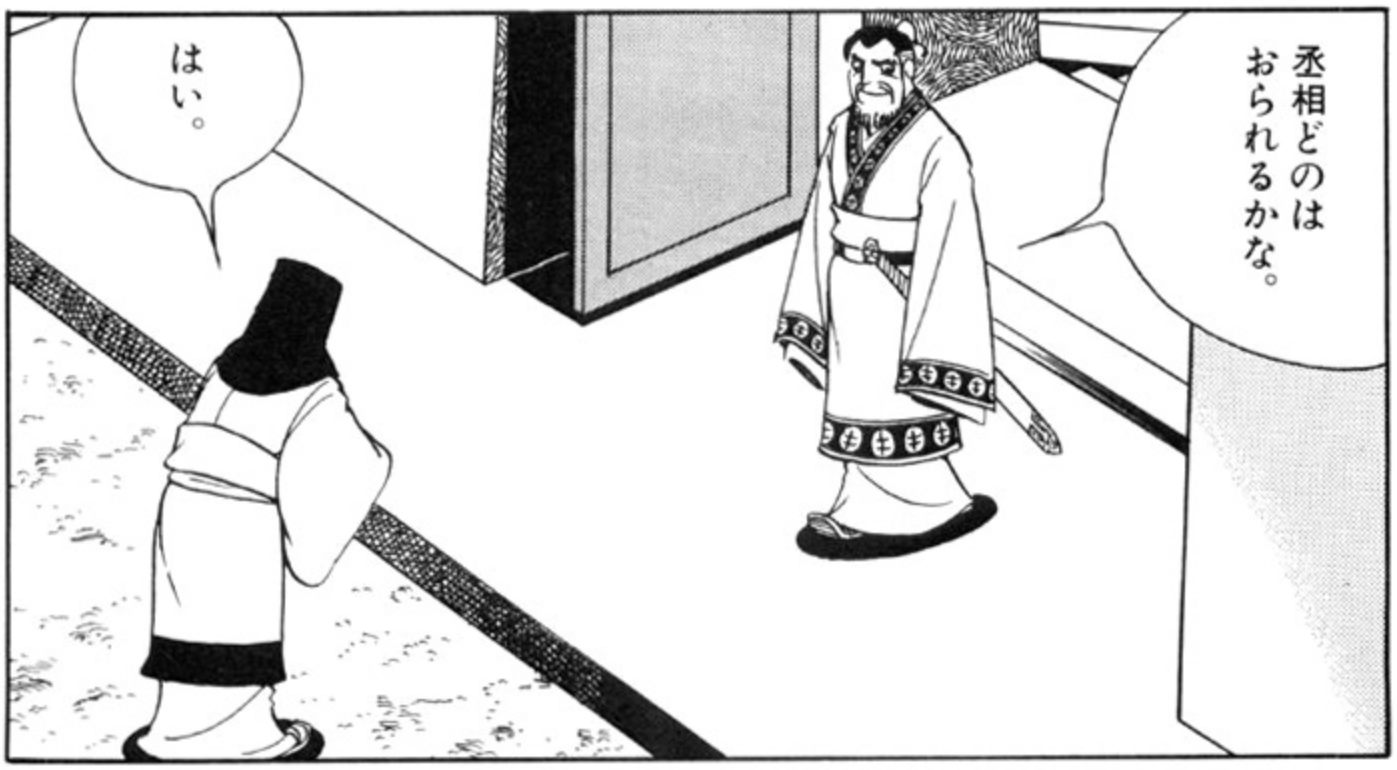



54

周勃も返礼として
宴会を開いた。

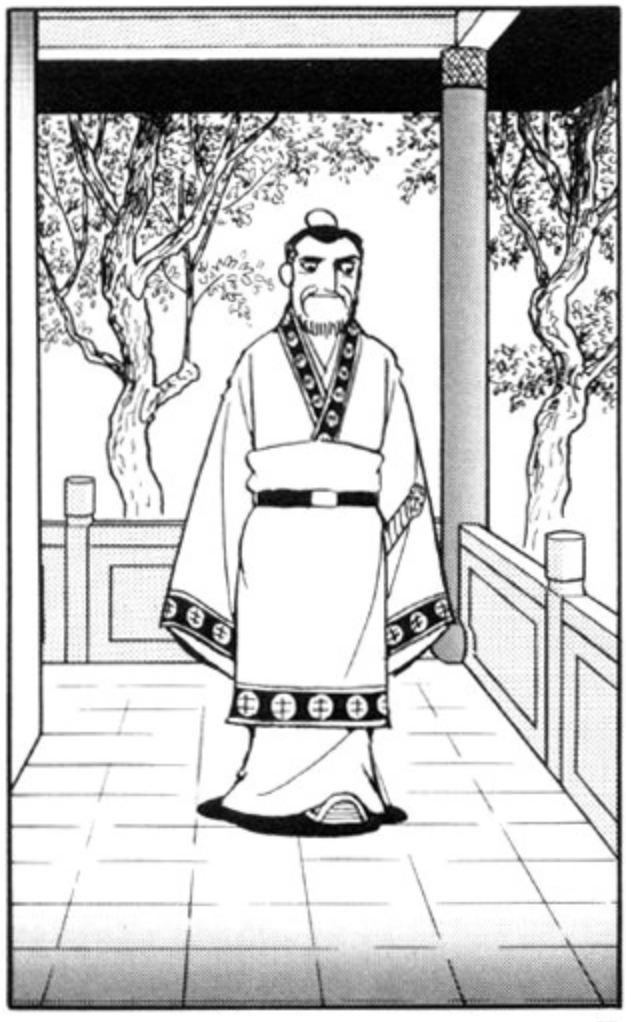
55

陳平と周勃は
そうしながら
秘かに打ち合わせを
進めていった。




56

丞相。



あっ先生。

57

前よりも顔色がよくなりましたな。
先生のお知恵のおかげです。

先生にはお礼として、召使い百人車馬五十乗銭五百万をお贈りいたします。

先生にはもっと交際を広めていただくために、用意いたしました。

ははは、それだけあれば屋敷をかまえてもっと人を招待できますわい。

58

陸賈はその金を使って宴会を開き、信頼出来る人物に近づいていったのである。これが大きく役立つことになるのである。

なにっ
灌嬰が斉と
連合軍を
結成したと！

やはりのう、
まだまだ
呂氏に心服
してないものが
いると見ねば
ならんのう。

そればかりか、
天下諸侯も
連合軍に参加
しはじめました。

なにっ、
諸侯も斉に
味方するのか!?

59

ムムム、
関中に百万の
軍勢ありといえども、
天下の諸侯が
勅命を無視しだすと
少々やっかいな
ことになる。

呂太后が死んで
まだ一か月である。
それを待ってた
ように劉一族や
群臣は動き
はじめたのである。

# 第2話 呂氏誅伐

周勃どの、灌嬰将軍が斉王と手を結んだため呂氏は帝位簒奪の時期を早めるやもしれませぬぞ。

丞相、わたしもそれを心配しております。

2

それで高祖の旧臣、曲周侯酈商の息子酈寄を利用し呂禄を領国の趙に帰らせてしまうのです。

酈商どのの息子を……？

3

それで、こういう策でいかがでござろう。ヒソヒソ……

ふむふむ、それはよい。

鄙商邸

4

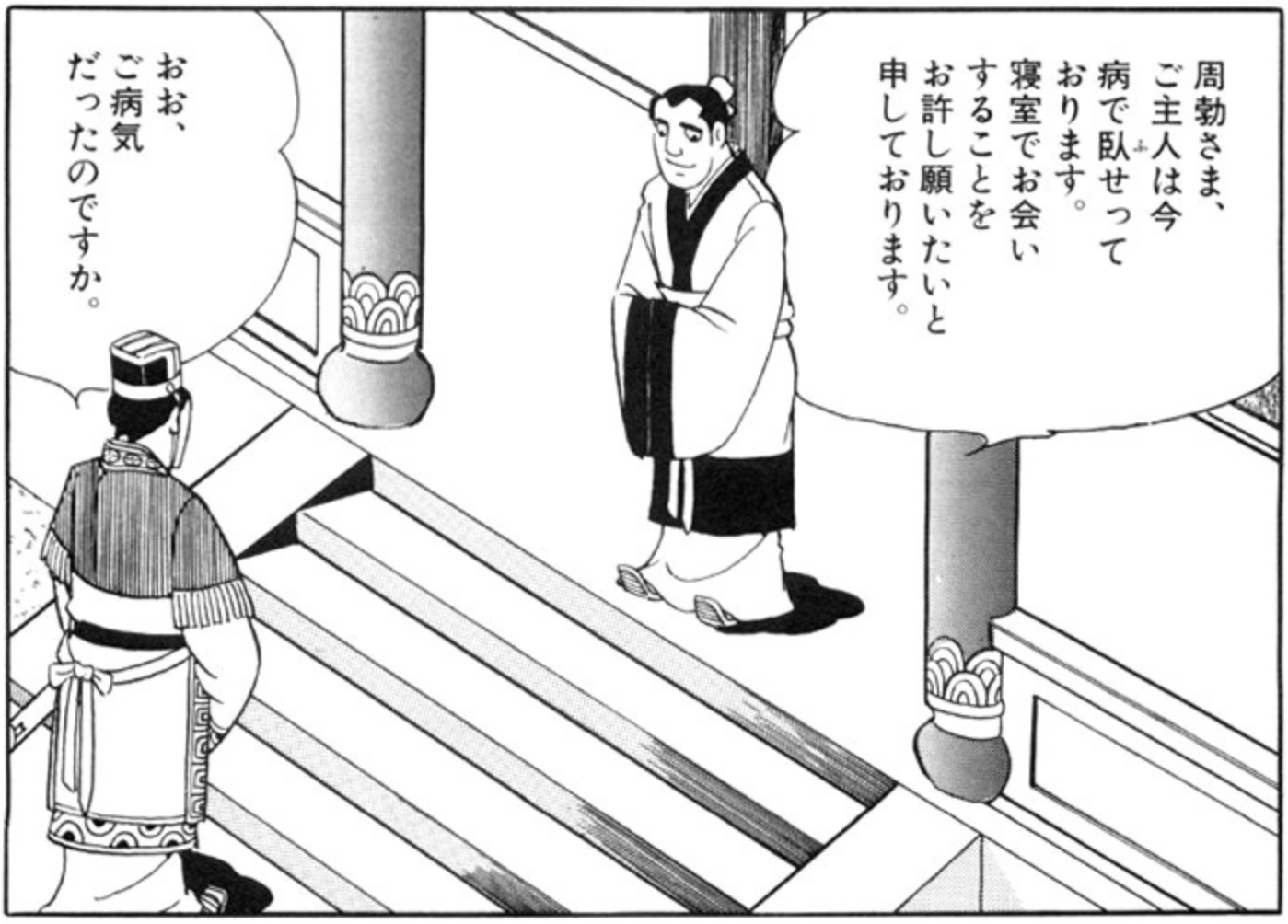
鄙商さま、太尉(軍事長官)の周勃さまがお見えでございます。

周勃どのが？

突然のお越しとは何事であろう？

わしは病の身じゃ、ここでお会いすることをお許し願って通してくれ。
はい。

5


周勃さま、ご主人は今病で臥せっております。寝室でお会いすることをお許し願いたいと申しております。
おお、ご病気だったのですか。

わしはお会い出来るならば、どこでもかまわぬ。
では、こちらへ……

ご主人さま、周勃さまをご案内いたしました。

6

おお、どうぞお入り下され。

酈商どの、お病気だとは知らず、突然参りましたことをお許し下され。
いやいや。

もう年じゃ、高祖さまとともに、楚軍と戦っていた頃の元気はなく、昔が懐かしゅうござる。

ところで、突然のお越しには何か理由がございましょう。

酈商どのは、近頃の朝廷内の動きをどうご覧になっております。

7

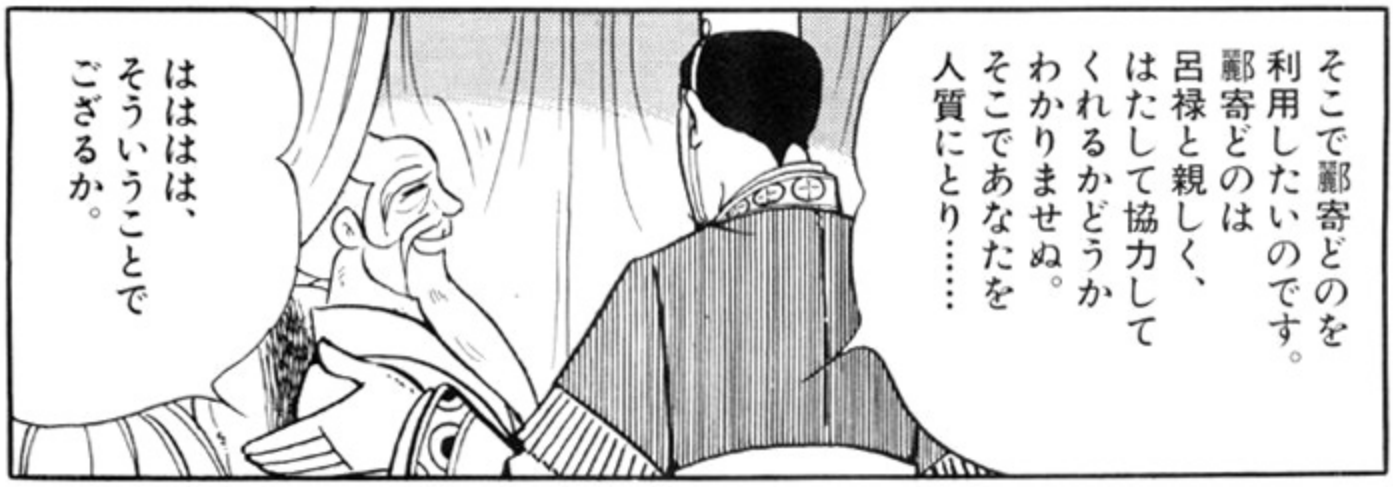
呂氏一族の支配じゃ。高祖も墓の下で怒っておられよう。悲しいことじゃがこの老体では何も出来ん。
高祖への忠誠心は昔と変わりありませぬな。

あたり前じゃ、わしは高祖に従って楚軍と戦い、高祖はその功を認めてくだされて、曲周侯に封じて下された。このご恩は忘れませんわい。

それならば、高祖さまのためにもうひと肌脱いで下さりませぬか。

8

そこで酈寄どのを利用したいのです。酈寄どのは呂禄と親しく、はたして協力してくれるかどうかわかりませぬ。そこであなたを人質にとり……

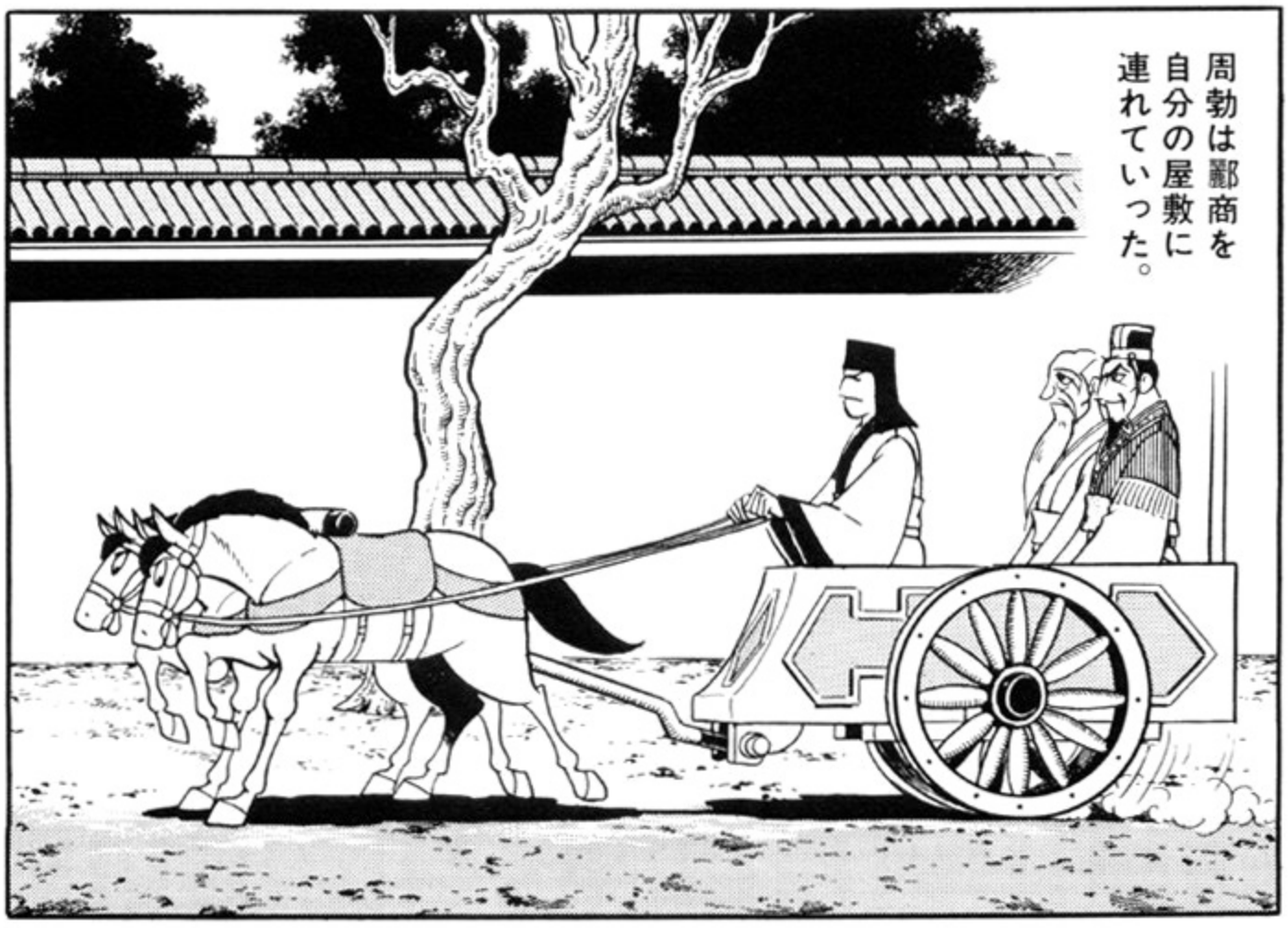


確かに鄙寄は
呂禄と親しく
付き合ってるようじゃが、
漢朝に対する忠誠心は
変わらぬし、
親孝行な子で
わしの言葉にも
従うであろう。

よろしい、
喜んで人質に
なり申そう。
さあ連れて
いきなされ。

勝手なことを申し、
申し分け
ござらぬ。

9


周勃は鄙商を
自分の屋敷に
連れていった。

周勃邸

10

太尉どの、お呼びだそうでうかがいました。

おお、鄙寄どの呼んだのはほかでもない、お父上のことだ。

そなたの
お父上はしばらく、
わが家の客と
なっていただく。

父は病身で
ございます。
どういうことで
ございましょう。

それは
お父上から
お聞き下され。

11

おお、
鄙寄参ったか
……
お父上、
具合はいかがで
ございます。

いや、いい医者をつけてもらい、なかなか気分がいいぞ。わしはいつまでもここの客でいたい。

……

酈寄よ、呂氏は帝位簒奪を企んでいるようじゃ、漢朝の臣としてそれは防がねばならん。
わが家が今日あるのも、高祖さまのおかげじゃ。こういう時に働かねばならん。

わたしにどうしろと申されます。

そなたは呂禄と親しい、その呂禄を説き帝位簒奪をあきらめさせ、領国に帰すのじゃ。

12

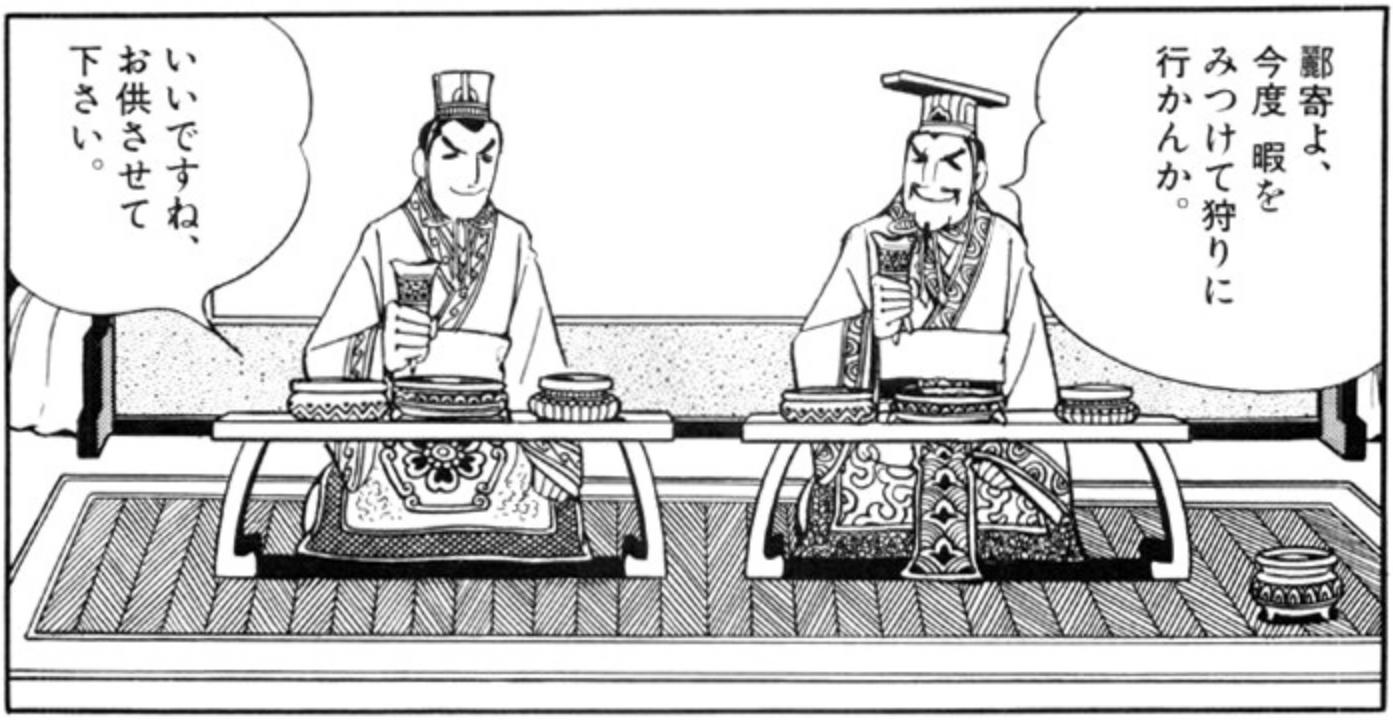
よいか、私情は捨て漢朝の臣として働き、わが家の名を汚すでないぞ。あとは周勃どのの指示に従え。
はい。

北軍本営

13

おう
酈寄、
酒の相手が
欲しかった
ところじゃ。

わたしも、
一献と思い、
酒を持って
参りました。


酈寄よ、今度 暇をみつけて狩りに行かんか。
いいですね、お供させて下さい。

ところで呂禄さまは、斉が反乱を起こしたことで重臣達の間に不安が広がっているのをご存知でございますか。

うむ、少し耳にいたしておる。

高祖が呂后とともに天下統一してから、劉氏から九人呂氏から三人が王に立ちました。

14

これはすべての重臣が認め、その旨は諸侯に通達され、諸侯も承認いたしました。それなのになぜ斉が乱を起こし、重臣達が不安がるかお考えになられたことがありますか。

それは、帝がまだ幼く、あなたは趙王でありながらいっこうに領国に帰らず、上将軍として都にいすわったまま軍を握っておられます。これでは重臣や諸侯に疑われても仕方ありませぬ。

なぜ呂禄さまは上将軍を辞し、軍を太尉に預け帰国なさらぬのですか。
ムム……

15

梁王呂産さまも相国の印綬を返して重臣達と盟約して領国に帰るのです。そうすれば、斉や連合軍の反乱は治まり重臣達も安心いたします。
呂禄さまも劉氏一族の反乱を心配せずに大国趙の王としてのんびりと暮らせます。これこそ万世の利というものでしょう。

なるほど、もっともな話だ。さっそく呂産や長老達に相談してみよう。

なにっ、呂禄が上将軍の印綬を返して領国に帰ると申したのか。

はい、それがしに相談してまいれと申されました。

16

劉氏一族が一致団結して反乱を起こせば、認められた自分達の領国まで危機におちいる。今帰国すれば、反乱も治まり領国も安泰であると考えられたようです。

ムムム……

呂禄に伝えい、勝手に上将軍の印綬を返してはならん、長老達と相談してからじゃ！

はっ。

17

呂氏の長老達はすぐに集まって会議を開いた。

いや、呂禄の考えも道理じゃ。いまの呂氏一族に与えられた領土は重臣や諸侯も認めた領土じゃ。黙って帰国すれば劉氏の反発は買わん。
ムニャムニャ……

その通りじゃ。いま関中の兵権はわれらが握っている。反乱軍など恐るるに足りん。

しかしそれでは呂氏からは帝は出せぬ！

関中は今の軍勢で充分に守れる。だが与えられた領国はどうなる。劉氏一族に滅ぼされるぞ。
ムニャムニャ……

18

そんなことを言っておれば、呂氏の天下は来ぬぞ。

天下を敵にまわした時、秦でさえ滅んだことをお忘れなさるな。

しかし関中の兵が
すべて味方に
つくとは考えられぬ、
灌嬰将軍とて
さっさと斉と
手を結んだではないか。

問題は現在の
呂氏の安泰か、
呂朝をつくるために
危険を犯すかじゃ。

どうであろう、
斉と灌嬰が
どれだけの連合軍を
結成するか見てから
結論を出しては
……
しかし
のう、
それで間に
あうのか。

19

長老会議は
賛否両論で
まとまらなかった。

周勃邸

周勃さま、呂禄どのは上将軍の印綬を返し、帰国する気になっています。
おお、さようか。

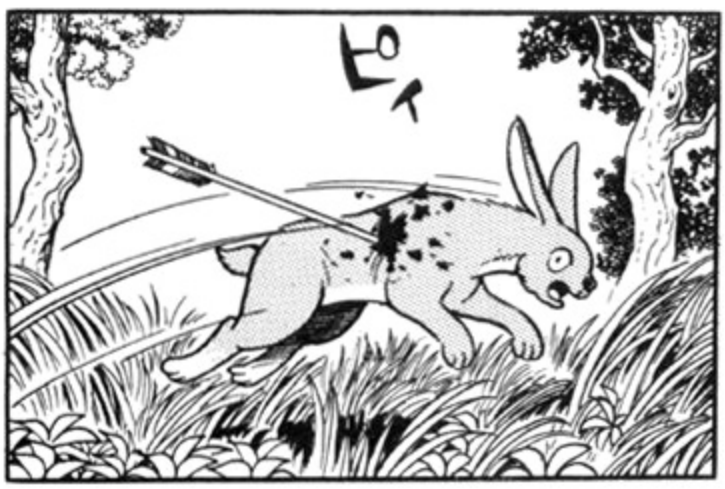
20

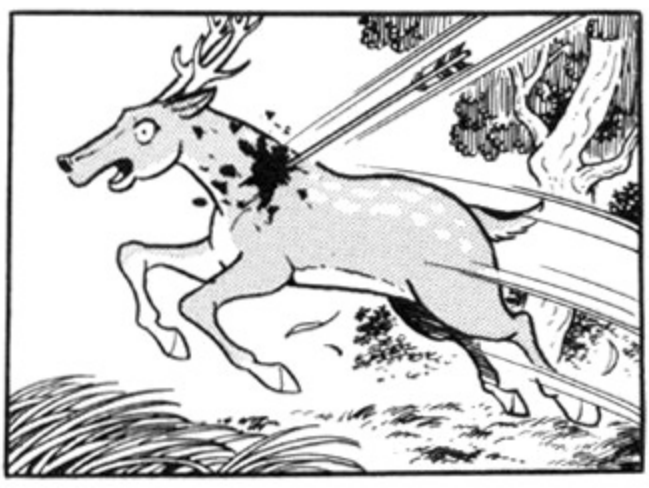
酈寄どの、心中の苦しさはお察し申すが、漢朝のためにがんばって下され。

はっ。

それから間もなく、
呂禄と酈寄は
狩りに出た。

21



ははははは、鄙寄よ今日は獲物が多いぞ。
ははははは、そうですね、今日は充分満足しました。

そろそろ帰るとするか。

おっとこの近くは叔母の呂嬃(りょしゅ)(呂后の妹)の屋敷だ。一言挨拶をしていこう。
はい。

22

23

叔母上、この近くまで狩りに参りましたのでご挨拶に参りました。

呂禄よ、そなた北軍の上将軍の印綬を返し帰国すると申しているそうじゃな。

いやいや、いまの呂氏一族の王は重臣達も諸侯も認めた王でございます。劉氏一族に口実を与えぬかぎり反乱も治まり、領国も安泰にございます。

愚かな！呂太后が劉一族に罪をきせ、次々と誅殺していったのはなんのためじゃ！

24

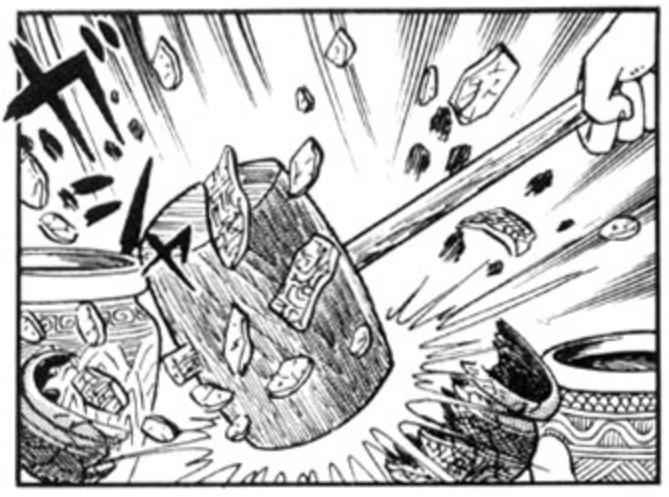
呂太后が呂氏一族の繁栄をはかり、われらが手に入れたものをすべて失うつもりですか！

これ、わが家の宝物をすべて庭に捨てなさい！
はっ。

こんな頼りない者にまかせていれば、今まで呂氏が手に入れた財宝、領地はすべて劉氏のものとなる。それならば今のうちに捨てなさい！
は、はい。

25

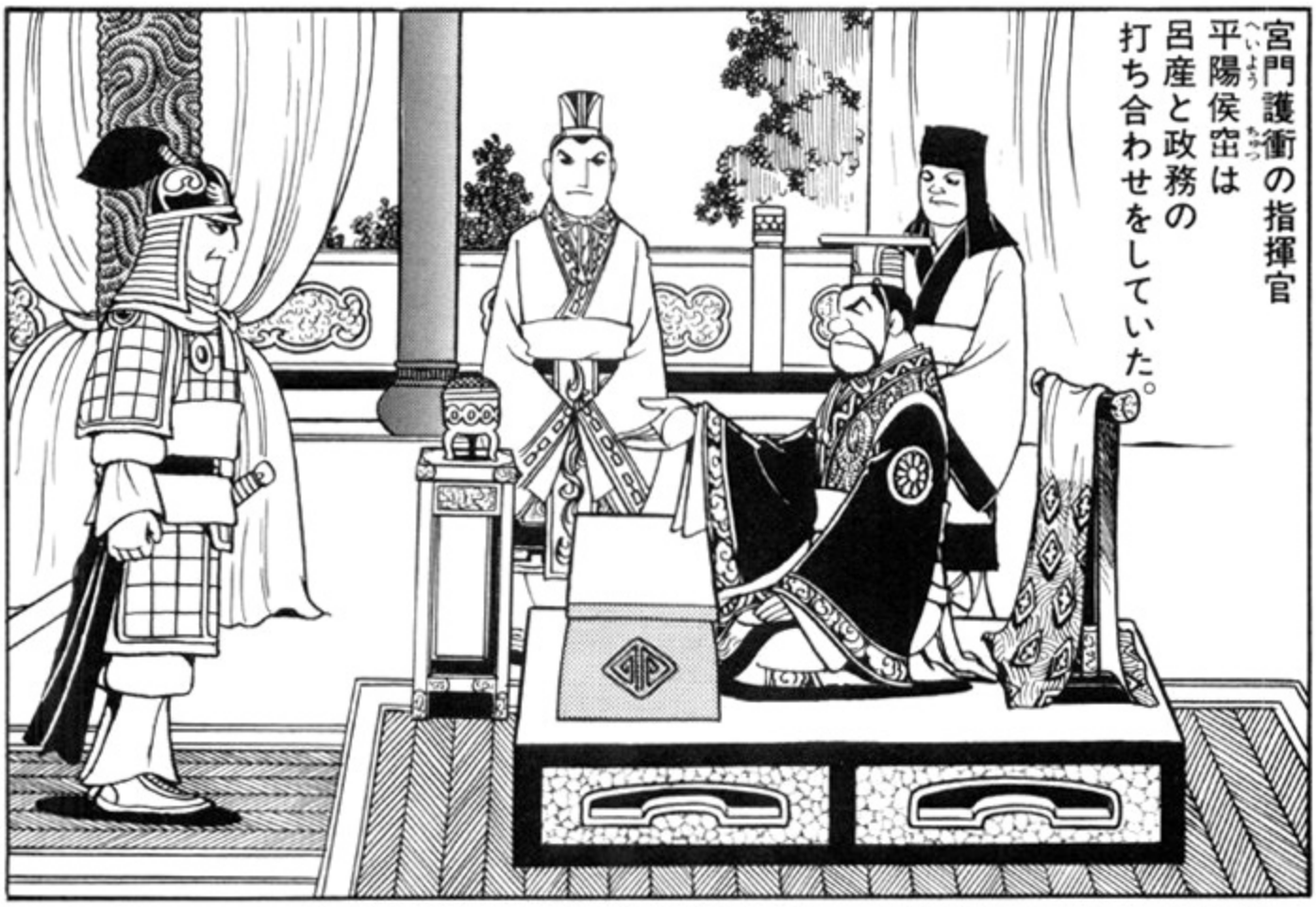
26



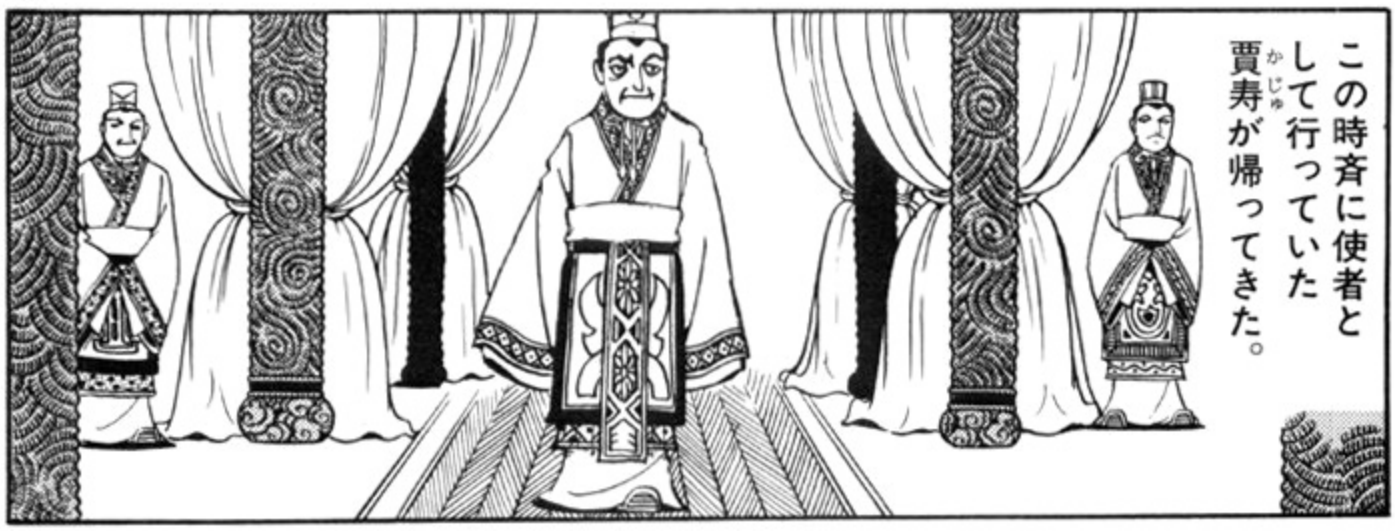

27

呂禄よ、兵権を手放したら、これが呂氏一族の末路じゃ。

ガシャ


宮門護衛の指揮官
平陽侯窋は
呂産と政務の
打ち合わせをしていた。

28


この時斉に使者と
して行っていた
賈寿が帰ってきた。

相国！なぜ早く領国に帰らなかったのです。もう今からでは遅すぎます。相国の行く国はなくなりました！

な、なに!?

灌嬰と斉、楚は連合し、東は完全に反乱軍に握られました。それに合わせるように諸侯も動いております。彼らは呂氏一族の討伐を企てていますぞ。

そ、そんなに早い動きなのか……

29

こうなれば、一刻も早く宮中を掌握するしか道は残っておりません。

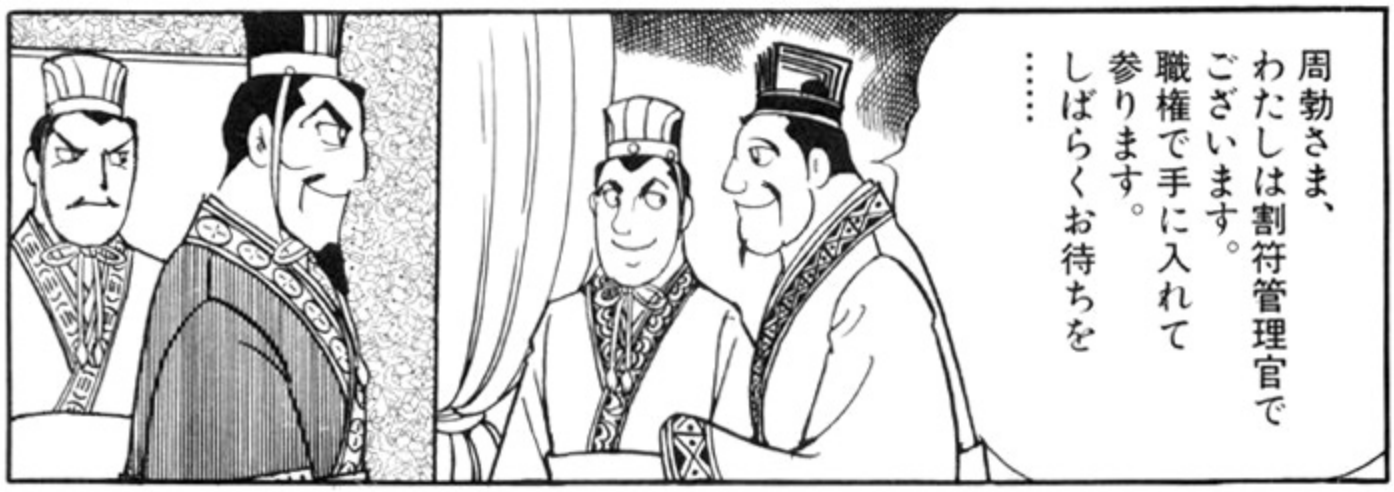
ムムム……

30

灌嬰、斉、楚は連合軍を結成し東を押さえました。呂産はただちに宮中掌握に動き出します。

そうか。

31


周勃さま、
わたしは割符管理官で
ございます。
職権で手に入れて
参ります。
しばらくお待ちを
……

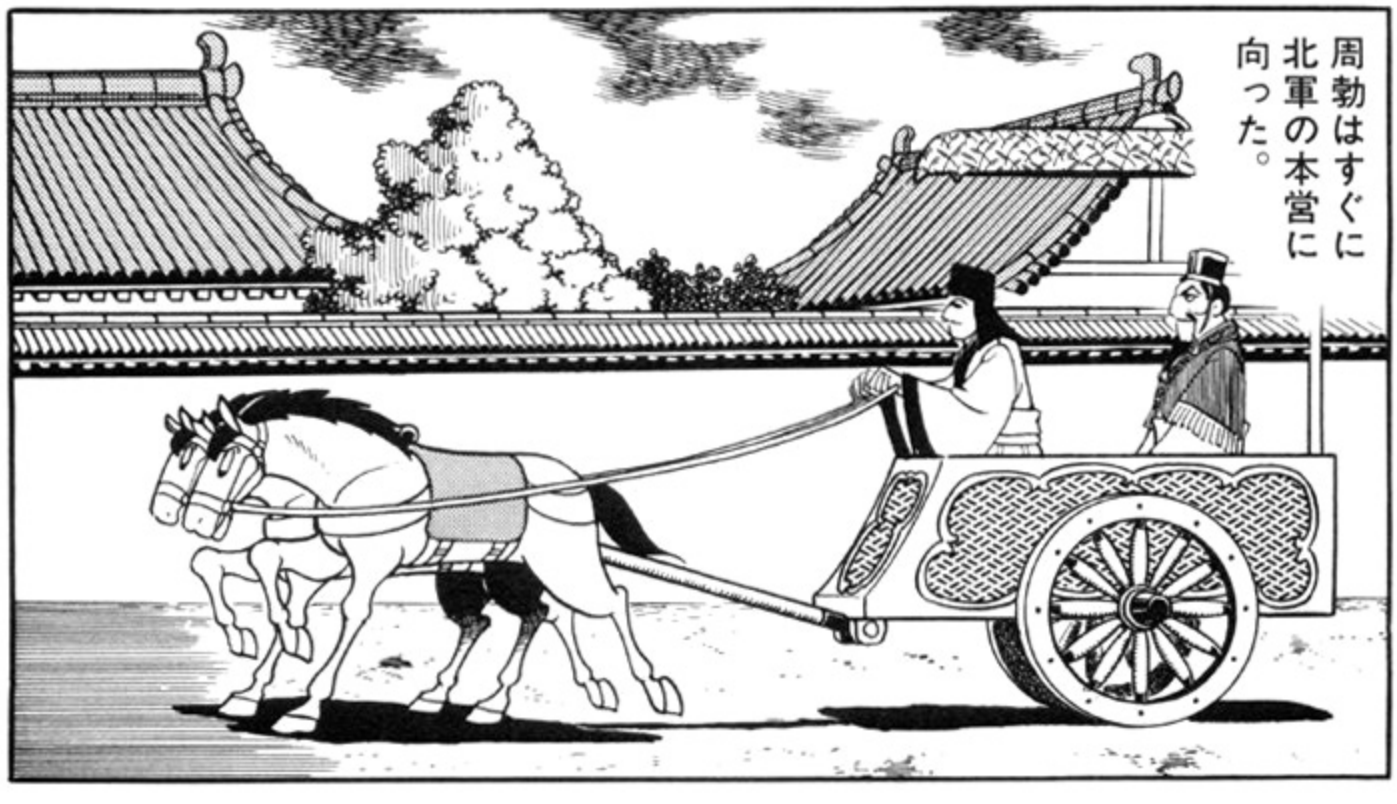
これに
ございます。

これ、
陛下のご命令だ、
北軍の割符を
出せ。
はっ。

32

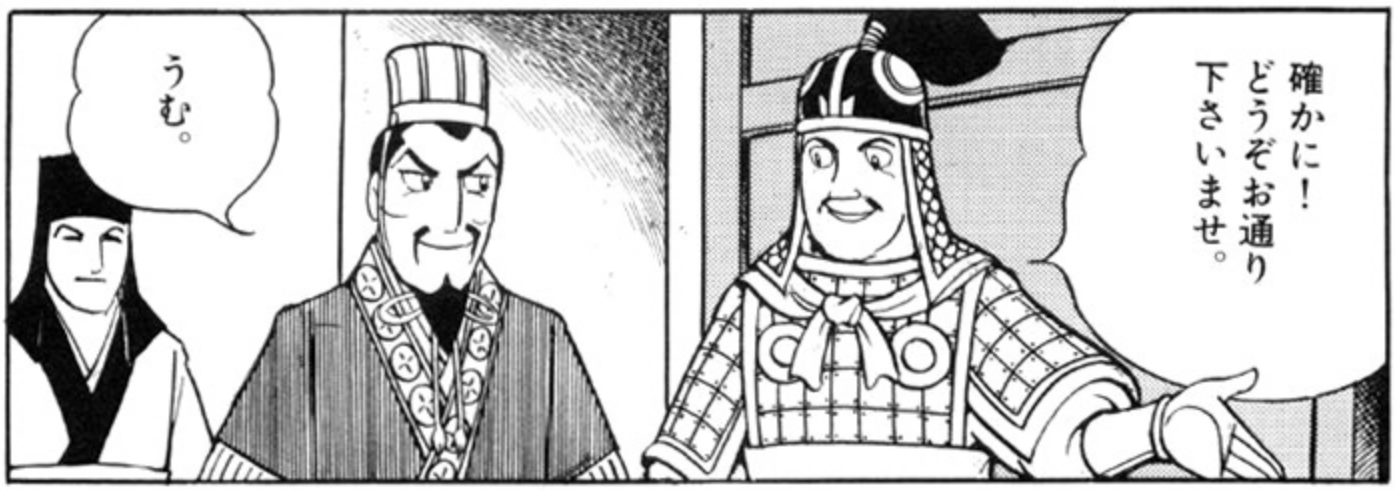
うむ。

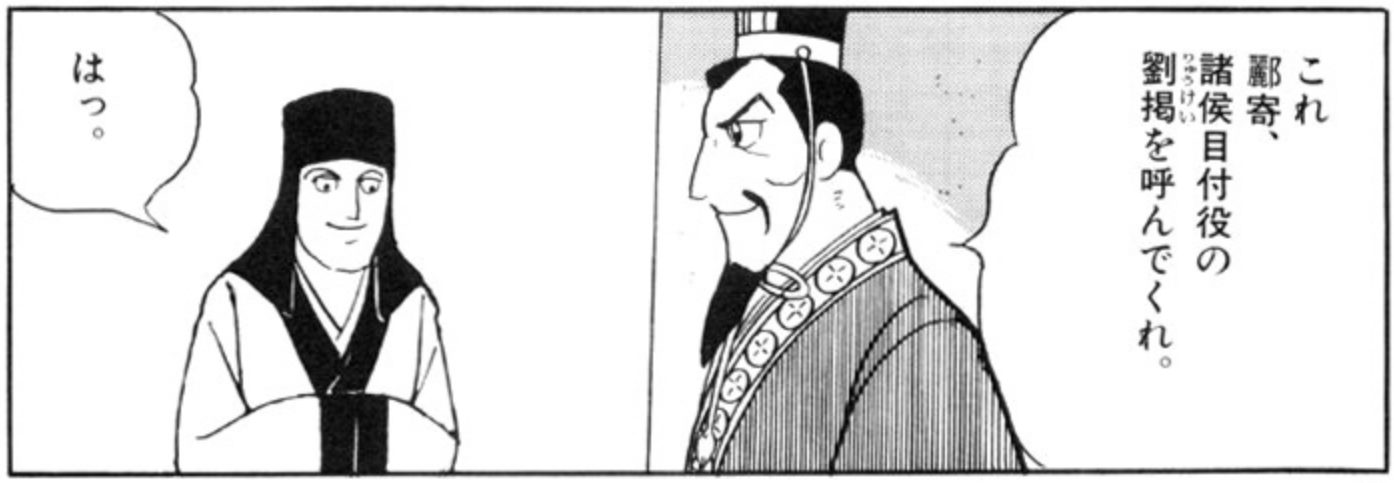
33



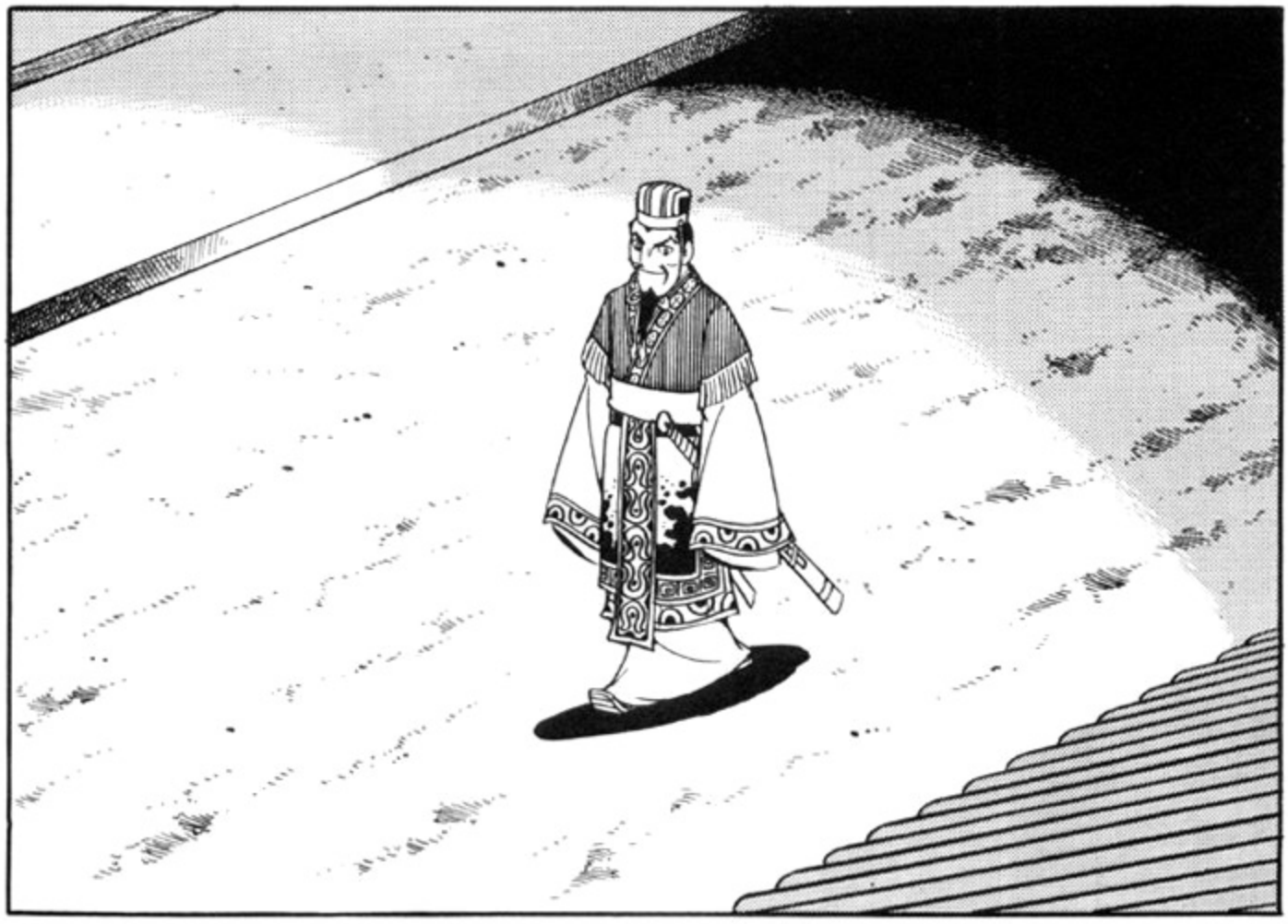
北軍本営

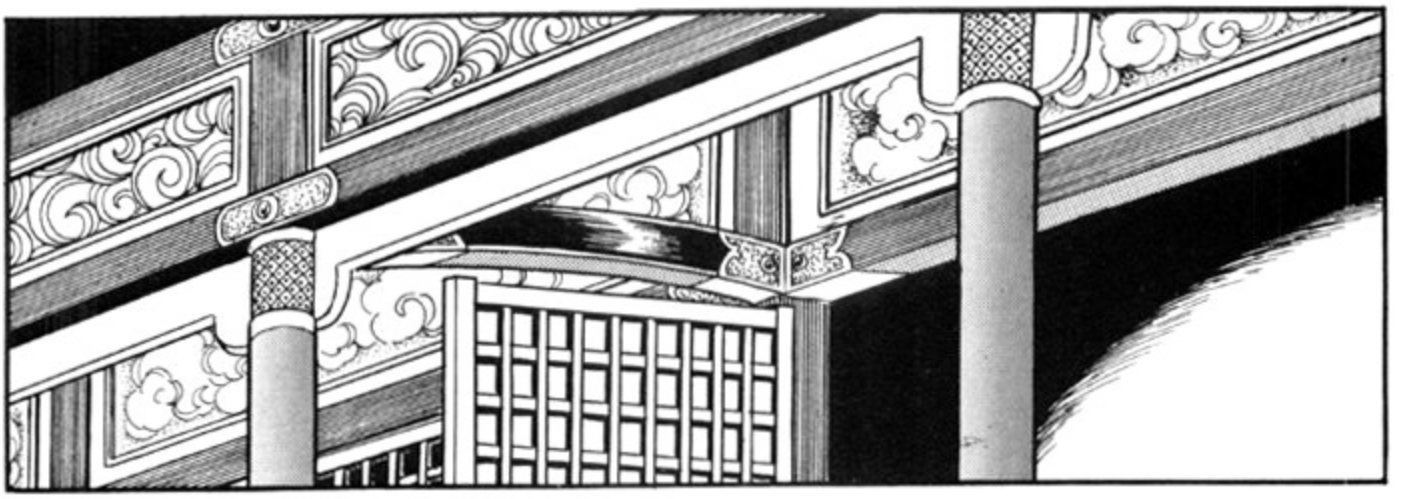
34




35





お二人を呼んだのは
ほかでもない。
わしは勅命と
いつわって
ここに入ったが、
ここにはまだ呂禄が
上将軍の印綬を持って
住んでいる。
これを取り上げねば
指揮権はない。

そこで、帝の勅命で
あるとして、
呂禄に上将軍の
印綬を返上するよう
話を持ちかけて
くれぬか、
諸侯目付が一緒ならば
呂禄も信用いたそう。

36

わかりました。
やってみましょう。

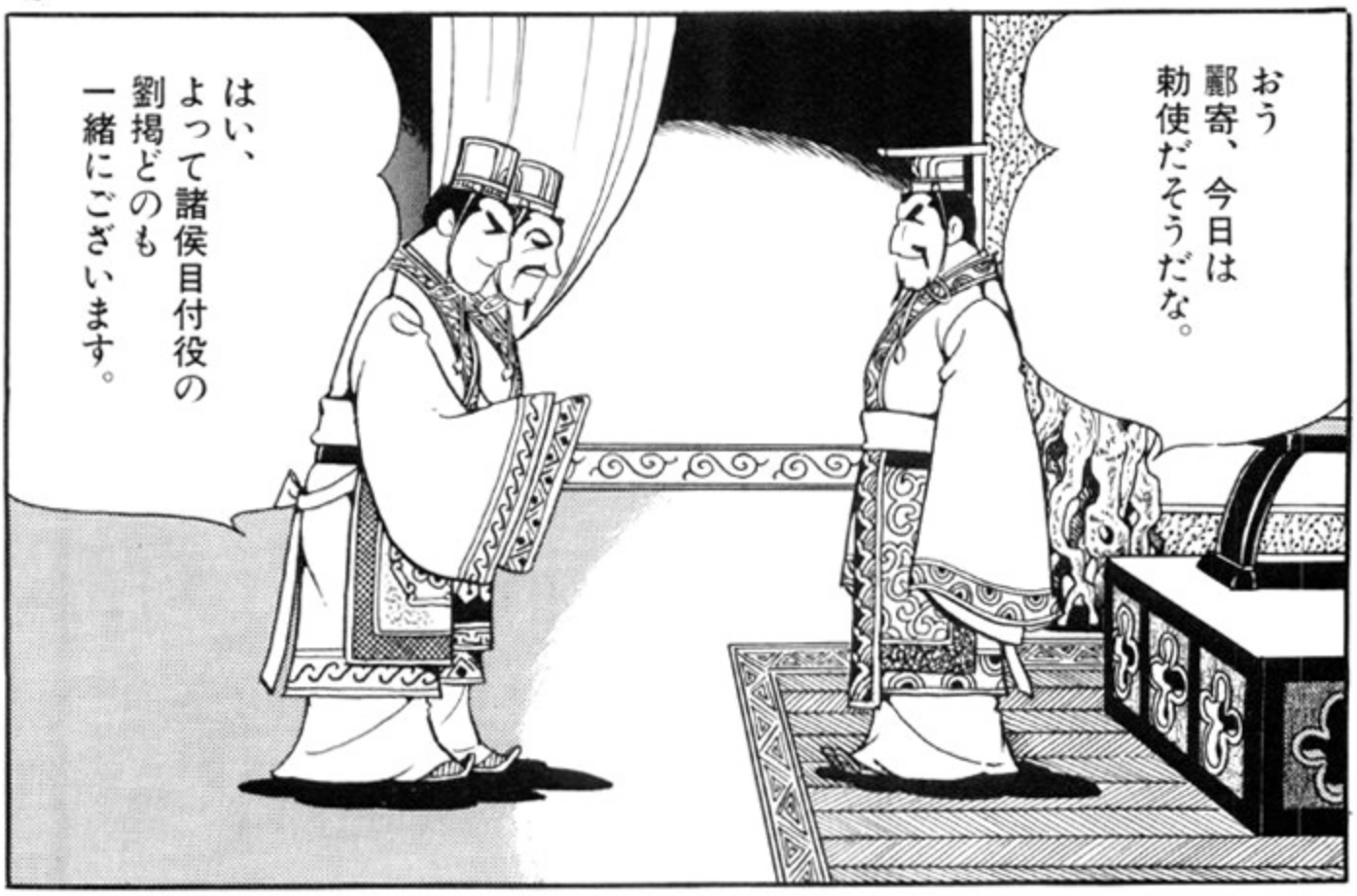
本日は勅使として参りました。呂禄さまに酈寄と諸侯目付役の劉揭が参ったとお伝え下され。
はっ、しばらくお待ち下され。

37

どうぞ
お通り下さい
ませ。

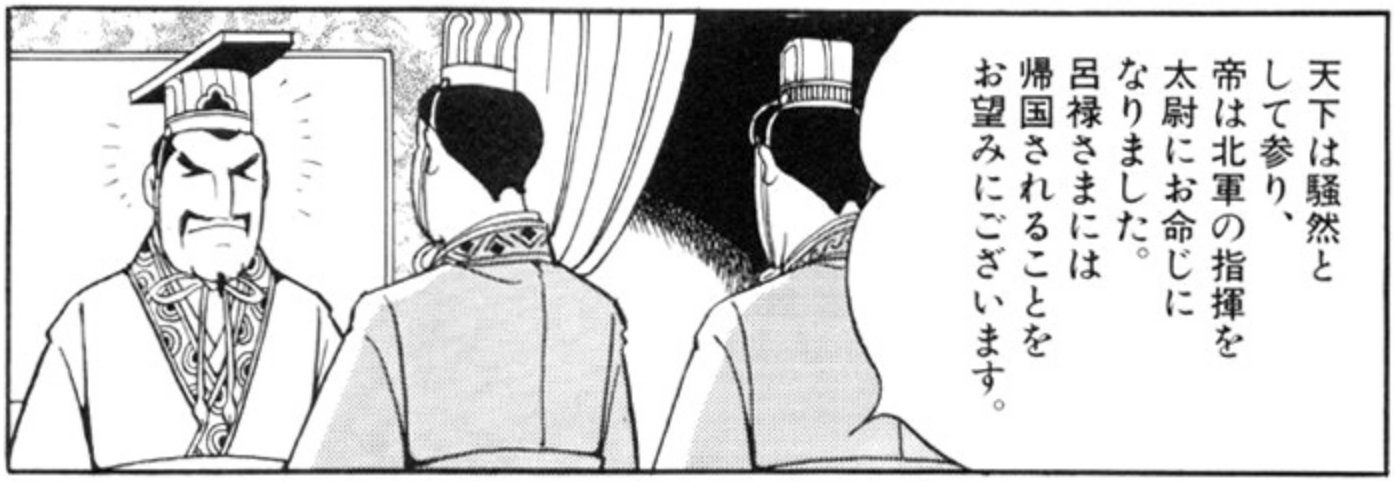
ご苦労。

38


おう
酈寄、今日は
勅使だそうだな。
はい、
よって諸侯目付役の
劉揭どのも
一緒にございます。

今日、太尉周勃さまが本営に入られたのをご存知でございますか。

うむ、報告を受けたところじゃ。


天下は騒然として参り、帝は北軍の指揮を太尉にお命じになりました。呂禄さまには帰国されることをお望みにございます。

呂禄さま、ここは上将軍の印綬を返上し、すぐ帰国なされたほうがよいと思われます。さもないと一大事が起きましょう。

39

よしわかった、印綬は返上し、すぐに領国に帰ろう。

それがあらぬ疑いを晴らす一番の近道です。

40

そして早々に
北軍本営を
立ち退いた。
連合軍の動きを
聞き、領国の
ほうも心配だった
からである。

おう
お二方、
よくぞやって
下された。
これで北軍の
指揮権は手に入れた。

だが、南軍は
まだ呂産の手にある。
これでは力は五分と五分、
それに北軍の中にも
呂氏に味方する者も
いるやも知れぬ……

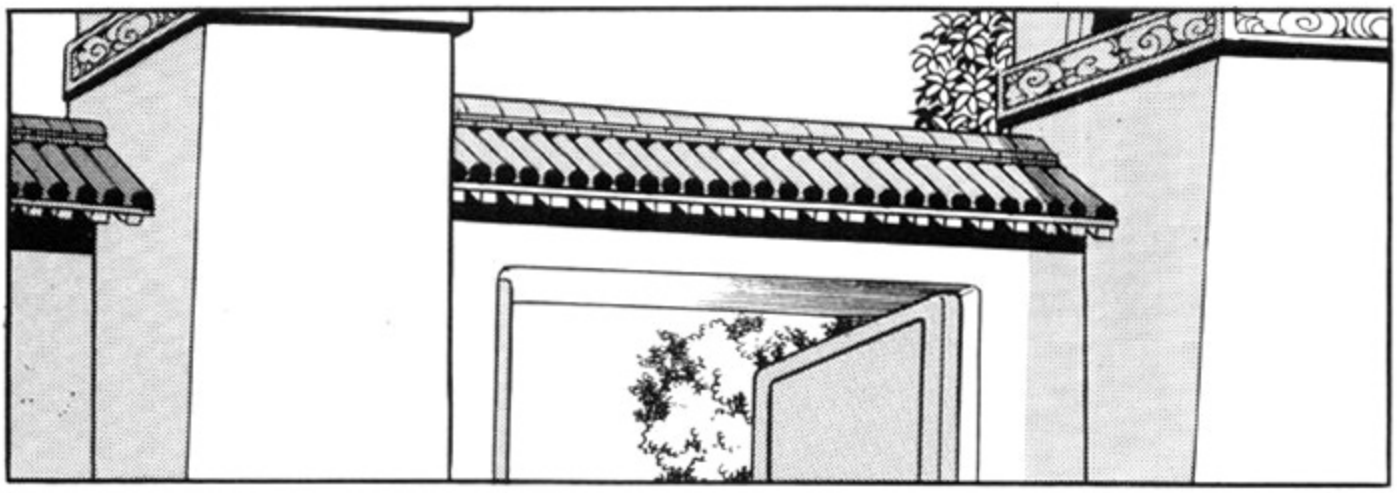
41

よし、
布令を出してくれ、
「呂氏につくす者は
右袒(右肩を脱ぐ)せよ、
劉氏につくす者は
左袒(左肩を脱ぐ)せよ」
とな。

わかりました。

42

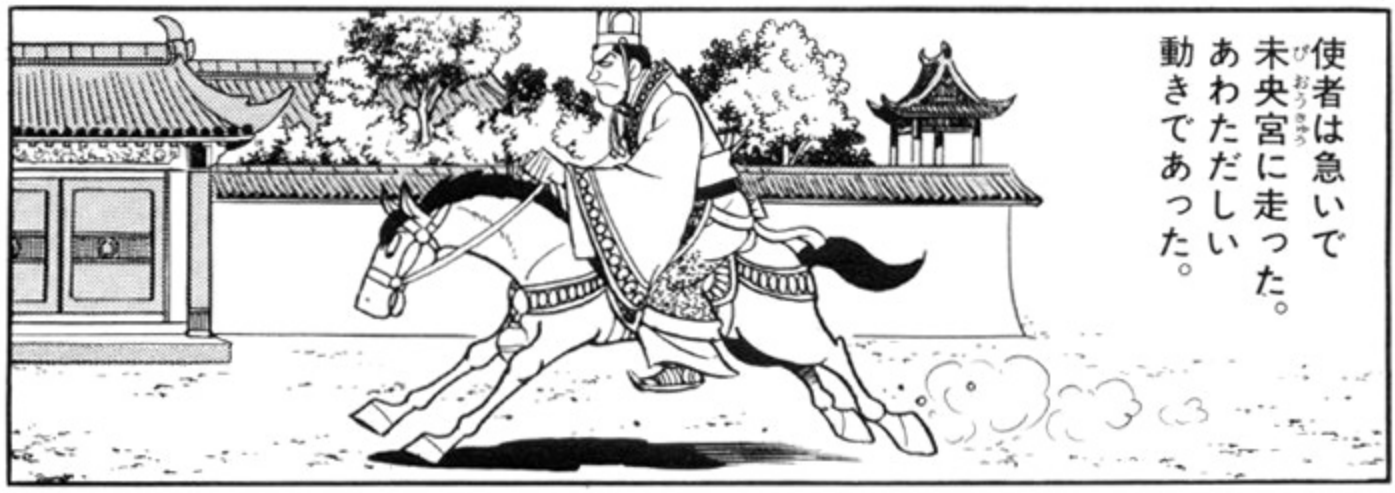
この時、北軍の
将兵全員が
左肩を脱いだ。
味方することを
「左袒する」と
いうのは、この
故事からである。



そうか、周勃どのが北軍を掌握したか。
はい。

よし、宮内護衛の窋に呂産を宮殿に入れるなと伝えてくれ。

43


使者は急いで未央宮に走った。あわただしい動きであった。

風の強い日であった。
呂産はついに
クーデターを決意した。

44

みなの者
よく聞け、
わが領国梁は
帰れぬ国となった。

こうなれば、
関中を呂氏の
手に握り、
呂朝を作る。

45

呂産は家臣を
引連れ、未央宮に
向かった。呂産の
誤算は北軍が
すでに周勃に
握られ、呂禄が
帰国したことを
知らなかった
ことであった。

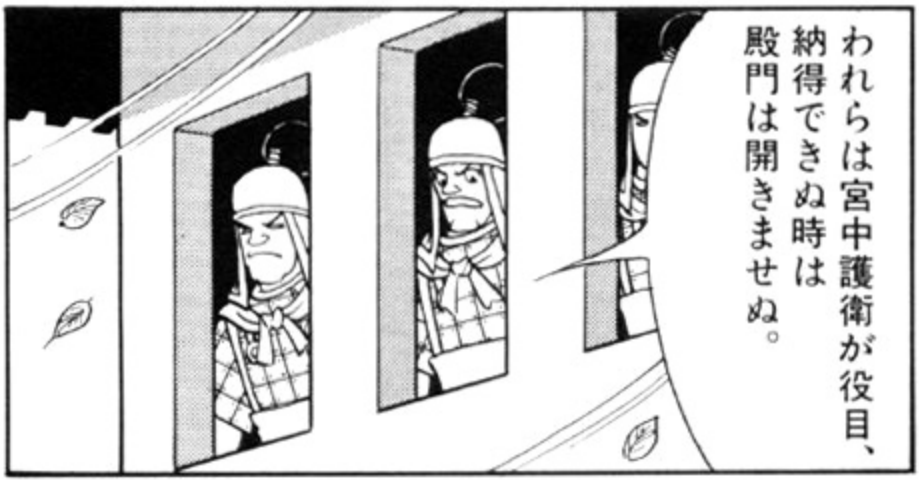
未央宮は劉邦が帝位についた時、蕭何が皇帝の権威を示すために建てた広大な宮殿で武器庫から兵糧庫まで備えられていた。

46

相国呂産である、殿門を開けられよ。

相国さまといえども、武装し、それだけの兵を引き連れての参内は解せませぬ、殿門を開けるわけには参りませぬ。

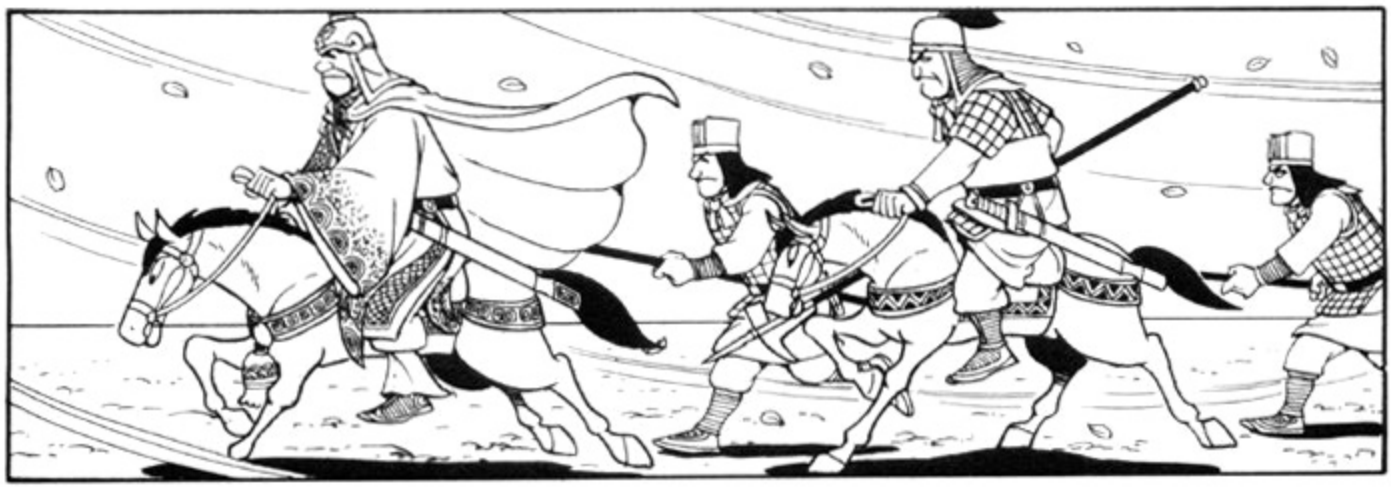
そなた、相国の命令に、さからうのか！


われらは宮中護衛が役目、納得できぬ時は殿門は開きませぬ。

ぬうう……

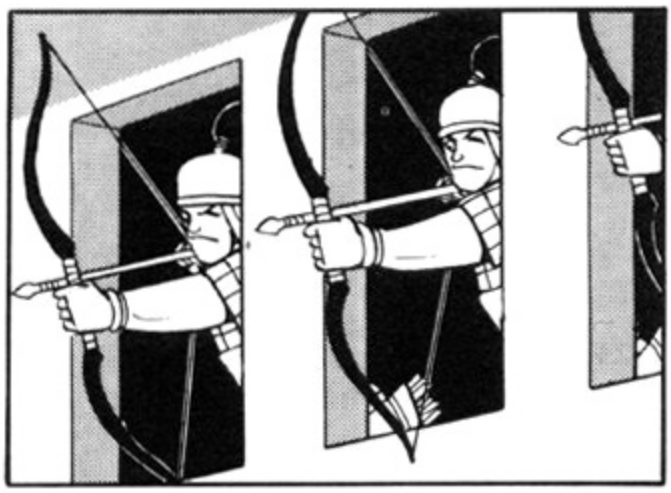
よし、他の門から入ろう。



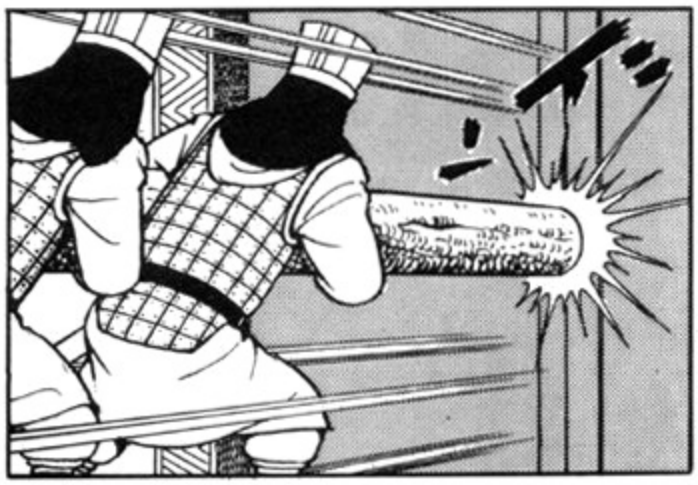


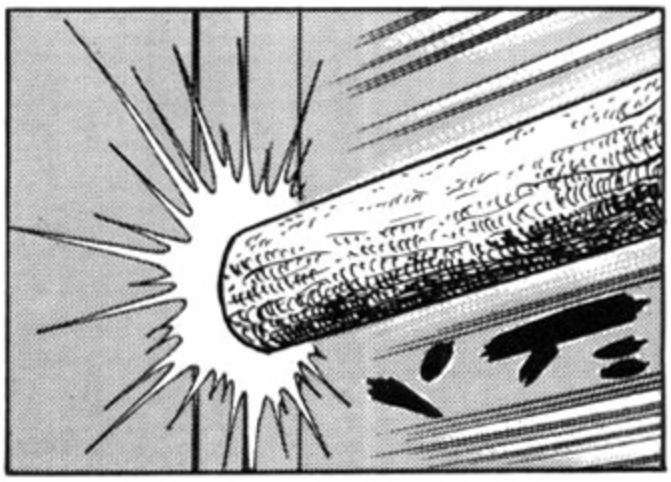
だが、どの門もしっかりと閉じられたままであった。

48

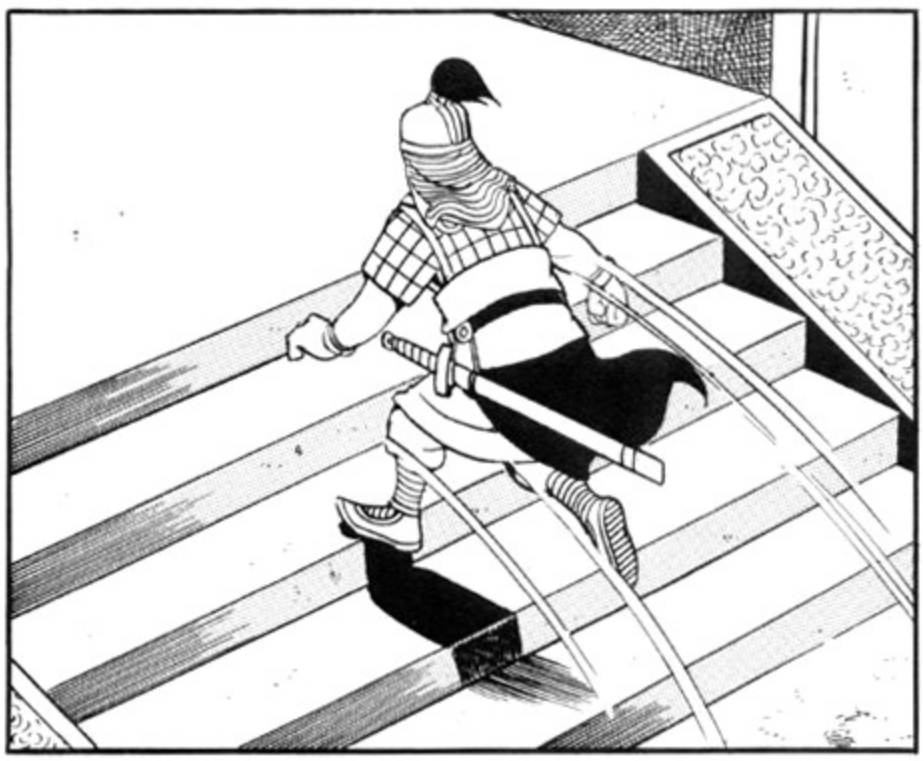


49



北軍本営



50

呂産が兵を引連れて参りました。平陽侯窋さまは宮中護衛兵だけで守りきれぬ、援軍をお願いいたしますとのお言葉です。

そうか、だが南軍の動きがつかめん。北軍で守りを固めておかねばならん。

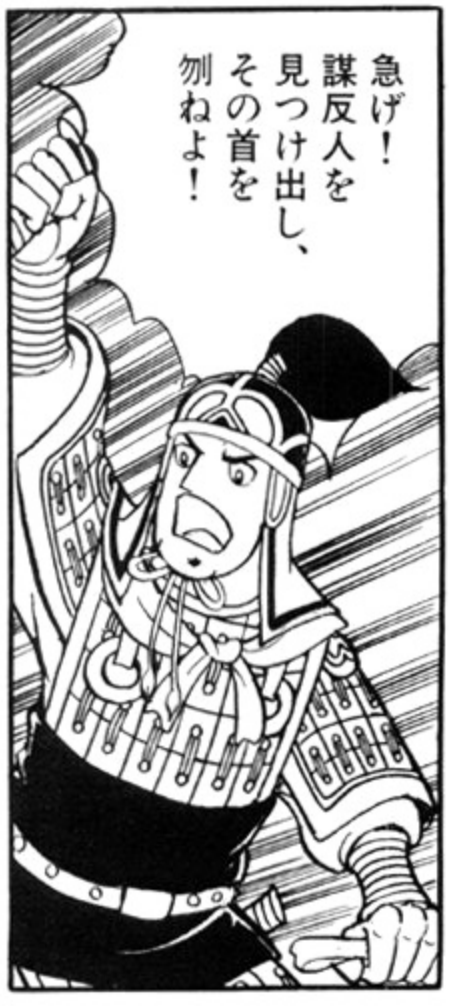
劉章よ、そなたに二千の兵を授ける、未央宮にはせ参じ、帝を守ってくれ。
はっ。

51

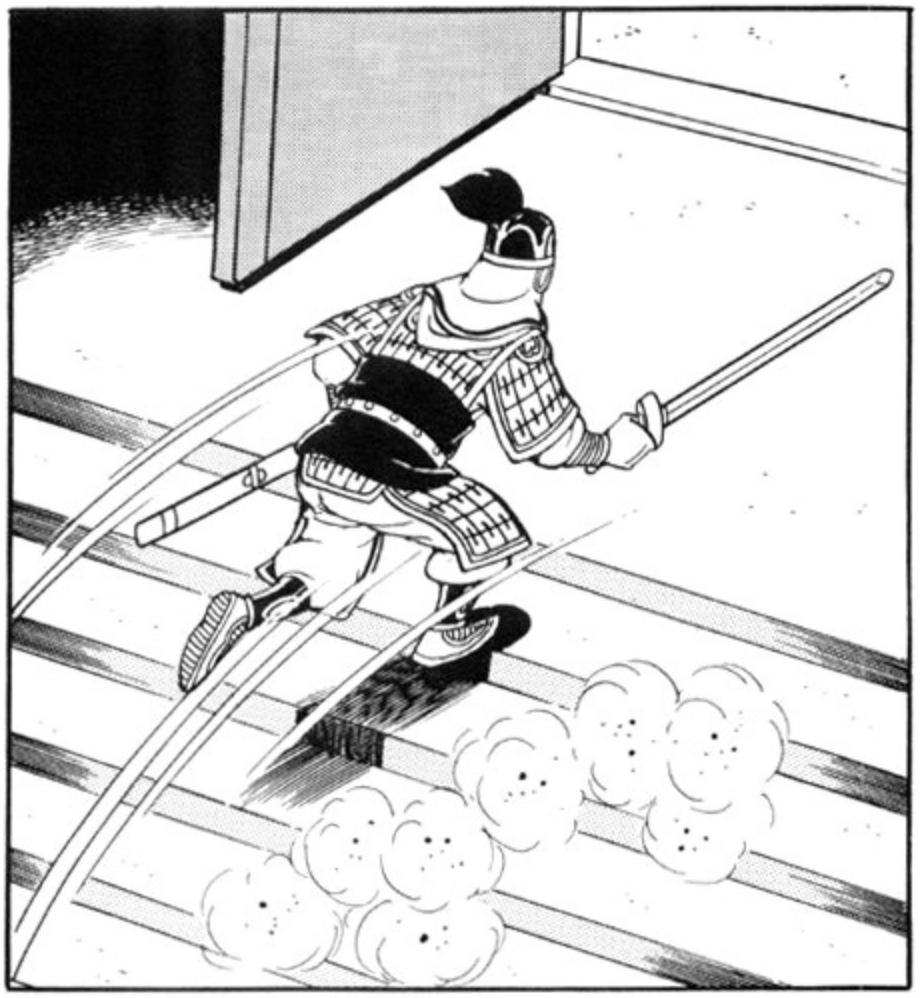
劉章は急いで宮殿に向かった。

劉章が未央宮に着いた時には、呂産軍はすでに宮廷になだれこんでいた。

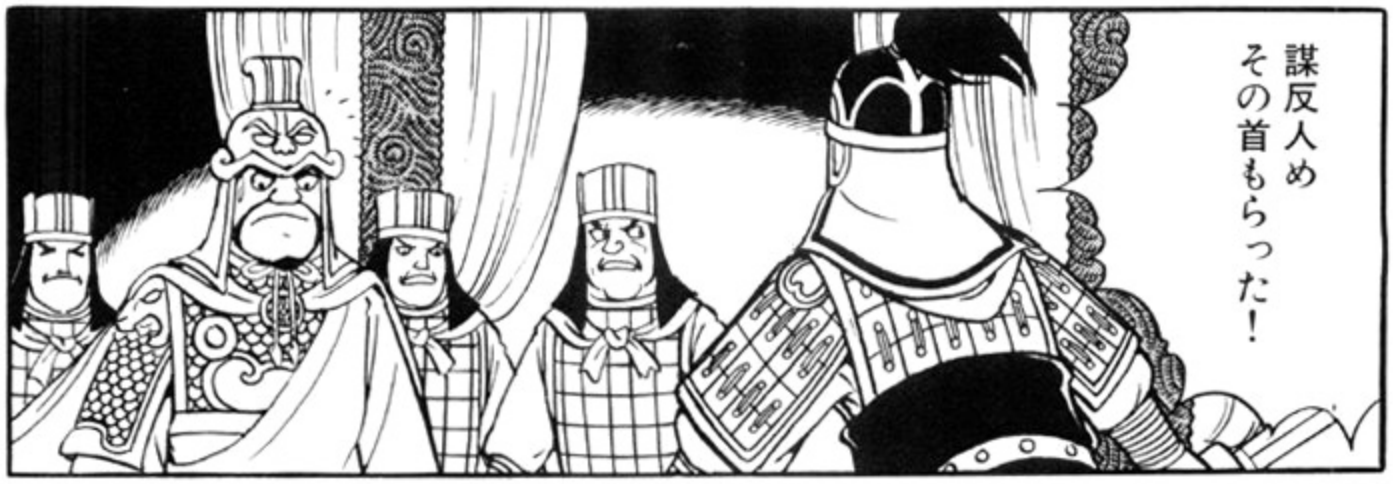
52

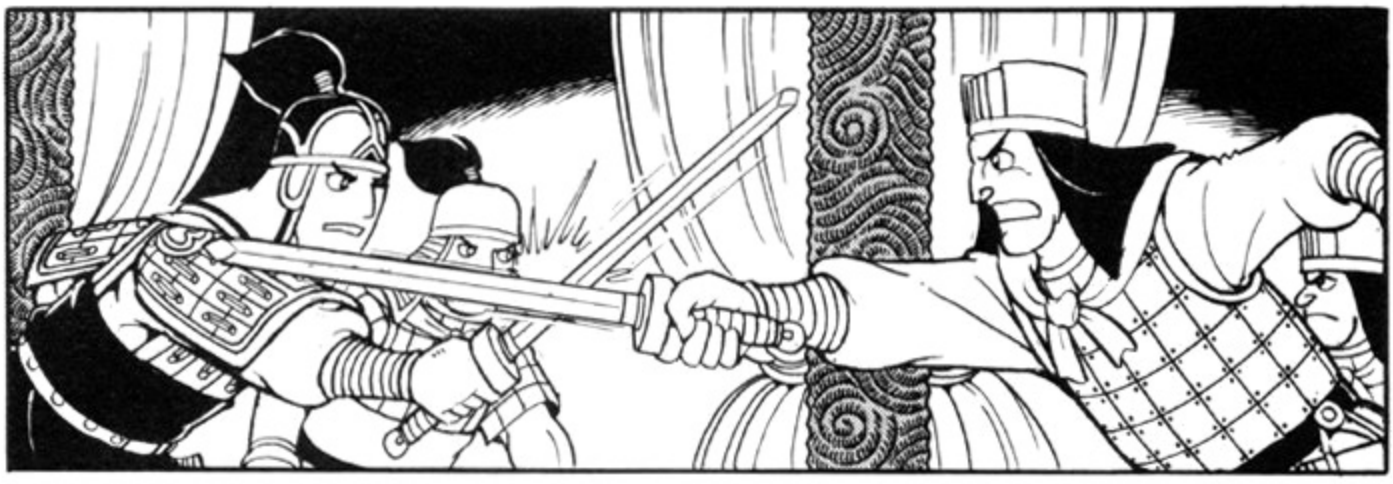


53

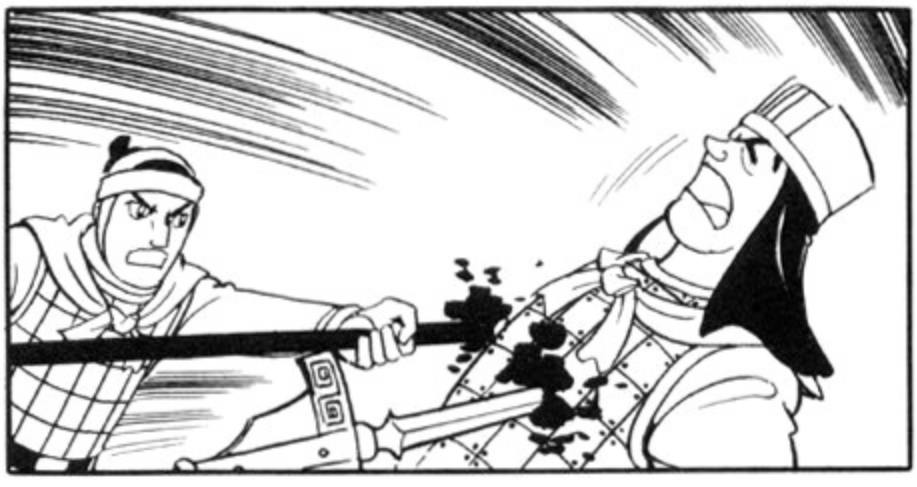


54



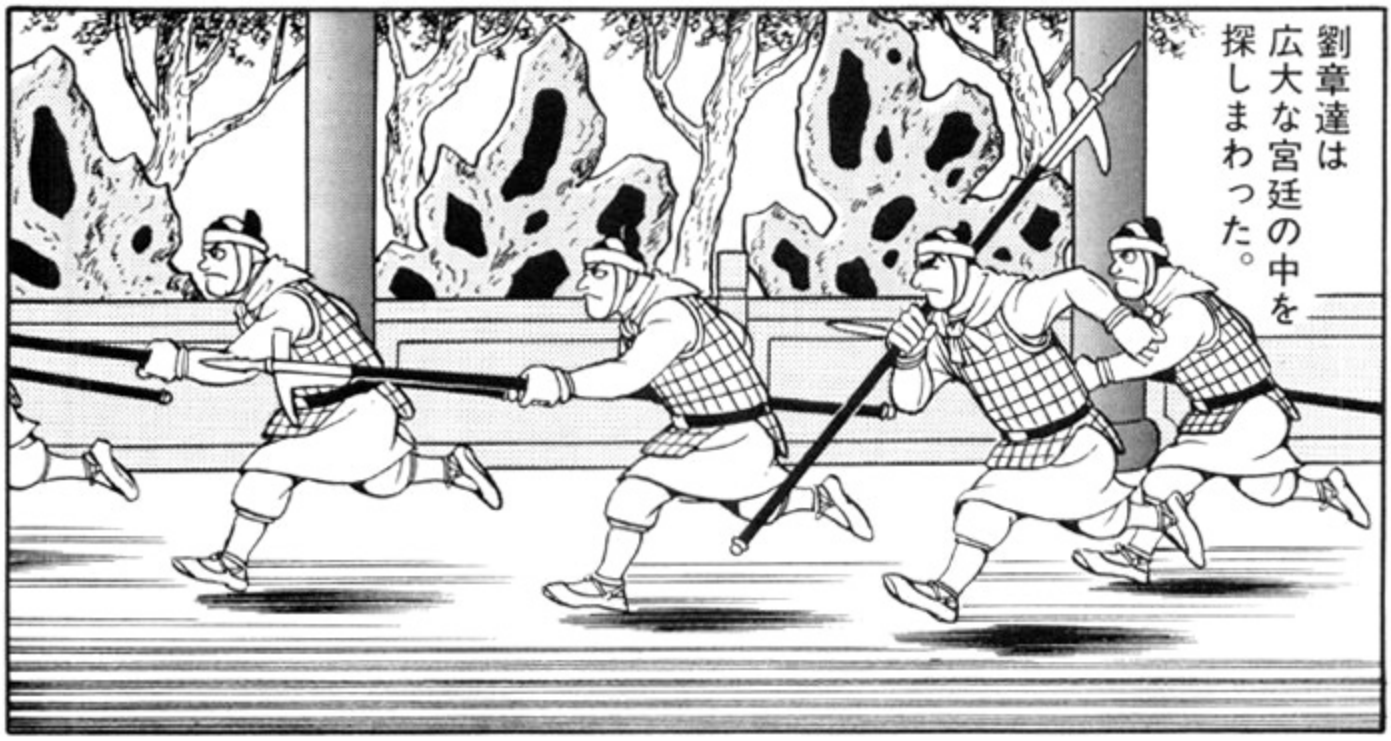


55



呂産は
どこだ!?
さきほど
あちらに
逃げました！

見つけ出せ
!!


劉章達は
広大な宮廷の中を
探しまわった。

56

そして便所に
身をかくしている
呂産を見つけた
のである。

謀反人め
思い知れ
!!

57

呂氏一族のクーデターは失敗したのである。

北軍本営

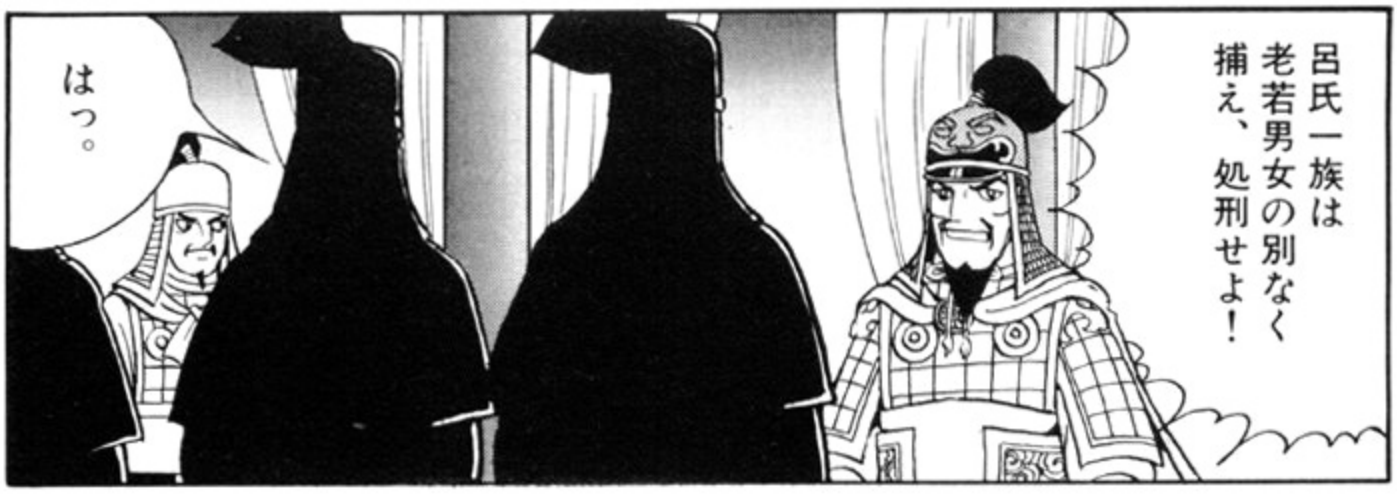
周勃将軍、これが呂産の首にございます。

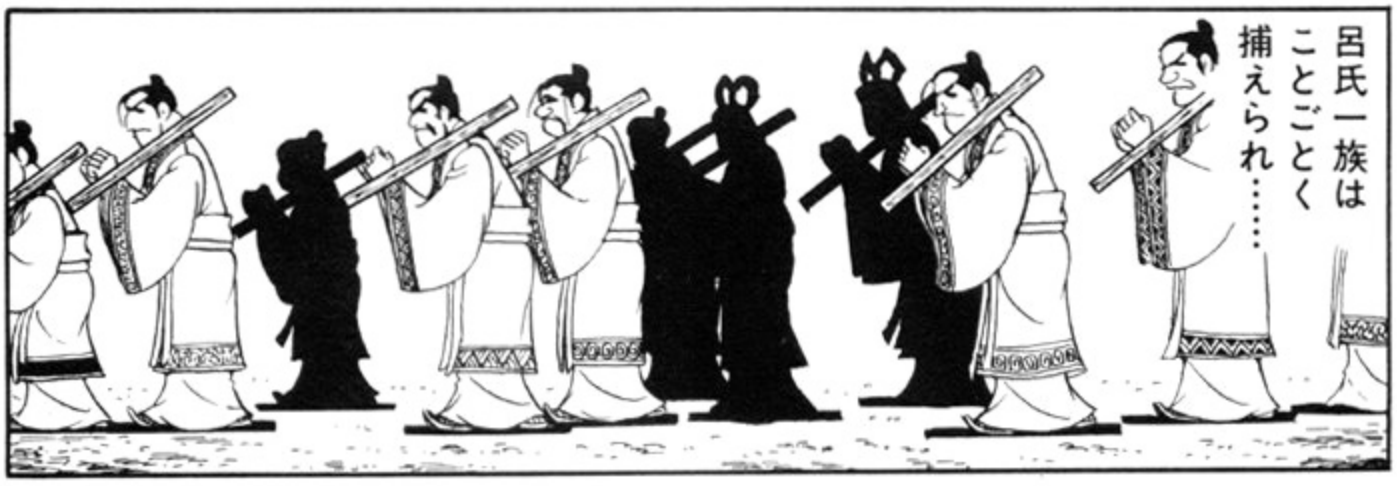
おお、劉章どのよくぞやってくだされた。

58

呂産だけが心配だったが、これで天下は安泰だ。心からお礼を申します。

何を言われます、当然のことをしたまでです。




59

60

一人の独裁者
呂后が死んで、
わずか二か月後に
呂氏一族は
ことごとく誅殺された。
いかにあわただしい
動きだったか
想像できる。
ここに漢朝は
新しい時代を
迎えていくのである。

61

# 第3話 栄光と恐怖

呂后の死を待って
いたように、陳平と
周勃は動き始め、
呂氏一族のクーデターを
食い止めた。
呂氏一族は老若男女を
問わず、処刑された。
長安にはまだ血の匂いが
漂っていた。

2

周勃どの、呂氏一族を誅滅したと思ったら、いままで息をひそめていた大臣達が頭をもたげて勝手に命令を下しはじめた。

3

このままではいずれ朝廷内で権力闘争が起こる。はやく帝を定めねばならぬ。

えっ!? 帝には弘少帝がおられるではないですか。

ところが少帝は恵帝の本当のお子でない。お子でないと秘かに報告が入っている。
なんですと!!

わたしもその報告にはびっくりした。

呂后がある日突然 後宮に連れてきたそうな。

4

恭帝や弘少帝はその実母を殺し、養育し、恵帝の実子といわせて育てたそうだ。
おそらく呂后は漢朝を乗っ取るために悪知恵を働かせたのであろう。

では呂氏一族を誅滅したといっても、恵帝のお子ということで権力の座に生き残っているのか。

それゆえ、周勃どのにお預けしてある玉璽だが、正統の帝が決定するまでしっかり守っていただきたい。

もちろんです。どう悪用されるかわからぬ。

5

考えてみれば、高祖は「劉氏以外の王を出してはならぬ」と仰せられ、重臣一同白馬の血をすすって誓いあった。その中でまだ生きているのはわれら二人だけじゃ……

さようでございますな。生きてる間は遺勅が守れてよかった。

それから
数日後、重臣達は
秘密会議を
開いた。

6

なんですと!?
少帝は
恵帝のお子で
ないといわれるか!!

噂は耳に
しますが
本当だったので
ござるか!!

呂后の誅殺を恐れ
黙っていた者が、
やっと安心して
報告してきたのじゃ。

ならば少帝の
異母弟といわれる
済川王、淮陽王、
常山王も素性が
定かでないことになる。

その通りじゃ。
もし少帝と
三王がこのまま
成長し権力を
握ったら、劉氏は
誅滅されるぞ。

その通り。
それゆえ劉氏直系の
王の中から
どなたかを選び、
帝としてお迎え
せねばならぬ。
どなたがふさわ
しいか考えて
いただきたい。

丞相、
そうなれば斉王が
よろしゅうございます。
圧倒的勢力の呂氏に
敢然と反旗を
ひるがえした
のです。

いや待たれい。
斉王の行動は
賞賛に値します。
だがわれらは
第二の呂后時代を
迎えてはなりませぬ。

第二の
呂后時代？

斉王の母方、駟家に問題があります。
当主の駟釣は野心家で腹黒い。
斉王を帝に迎えたらその権力を利用し、第二の呂氏となる恐れがあります。

その通りだ。駟家は用心した方がいい。

では淮南厲王はどうです？

淮南厲王は天下を治めるにしてはまだ年が若すぎる。
それにこちらも母方に曲者が多いのも感心できん。

8

ふむう、どなたがよいかのう。

一人ふさわしい人物がおります。
どなたじゃ。

淮南厲王の兄、代の恒王です。

高祖のお子は次々と呂后の手にかかり、今は三名しか存命していませぬ。

その中に淮南厲王長さまは、先ほど反対が出ました。残るは代王・恒王さまか、末弟の建さまにございます。だが年齢の順を考えると代王さましかおりませぬ。年齢の順で決めるのは正しく、諸王も認めるでございましょう。

9

そればかりでなく、代王さまは人柄もおだやかで情け深く、母方の薄氏一族もつつましやかな一族です。帝として迎えるに最もふさわしい人物と思いまする。

では代王さまを帝として迎えることに意見がある方は申されよ。

いやあ、代王さまの悪い噂は聞いたことがない。
そうよのう、帝にはふさわしい人物やもしれぬ。

丞相、代王さまなら異論はござらぬ。
代王さまなら尊敬される帝になられよう。

ではすぐに代に使者を送り、帝としてお迎えいたそう。

それから少帝は宮殿内に、済川王、淮陽王常山王の三王はまだ幼いので長安の屋敷にいますが、屋敷内に幽閉してはいかがと思うがいかがです!?
当然じゃ。
異議なし。

10

重臣達の意見はまとまり、使者は急いで代に走った。

代

11

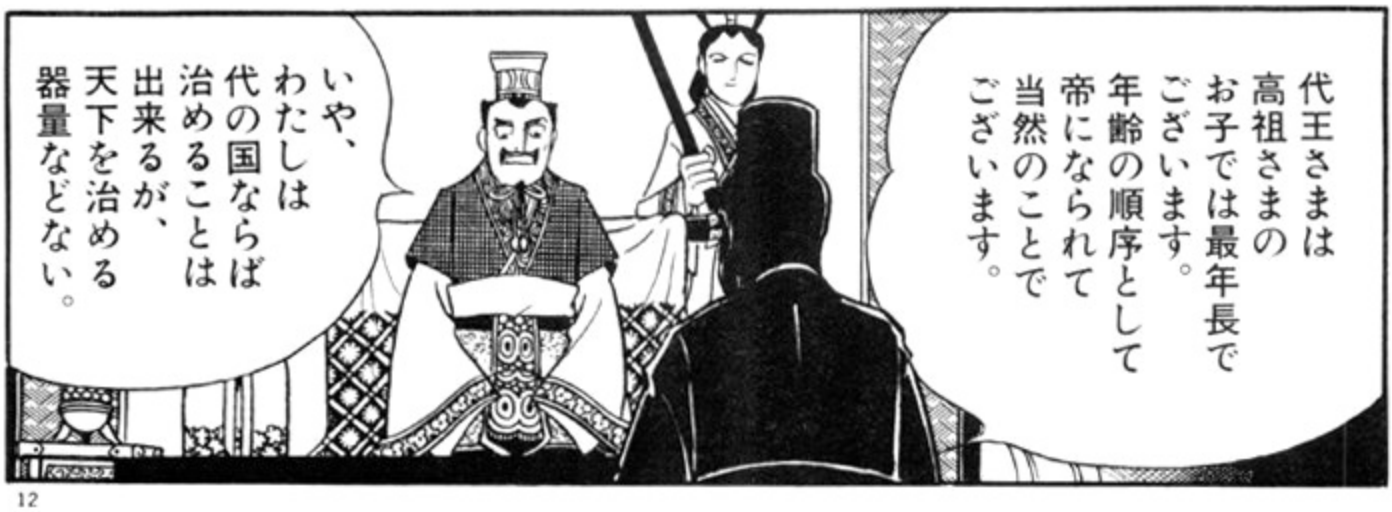
なにっ!? わたしが帝に…!?

はい、重臣一同の決定にございます。すぐに長安で即位してくださいませ。

少帝が恵帝の
お子でないと
いうのも驚きだが、
わたしに帝に
なれというのは
もっと驚きだ。

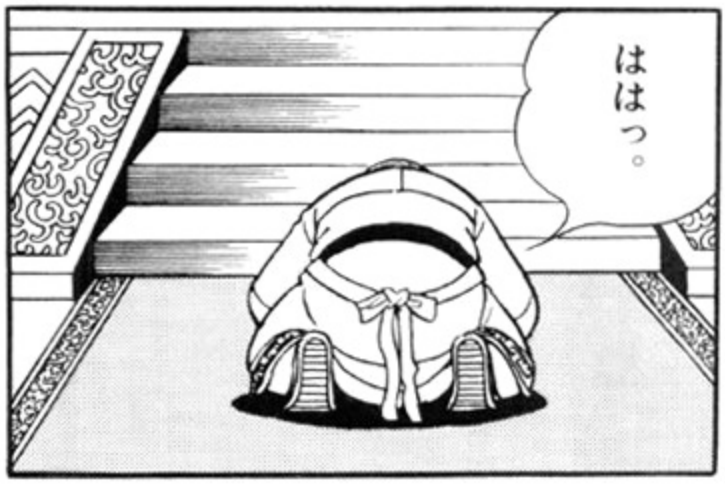
呂氏一族を誅滅
したとは申せ、
天下はまだ不安定です。
はやく帝を決めねば
天下は混乱する
恐れがあります。

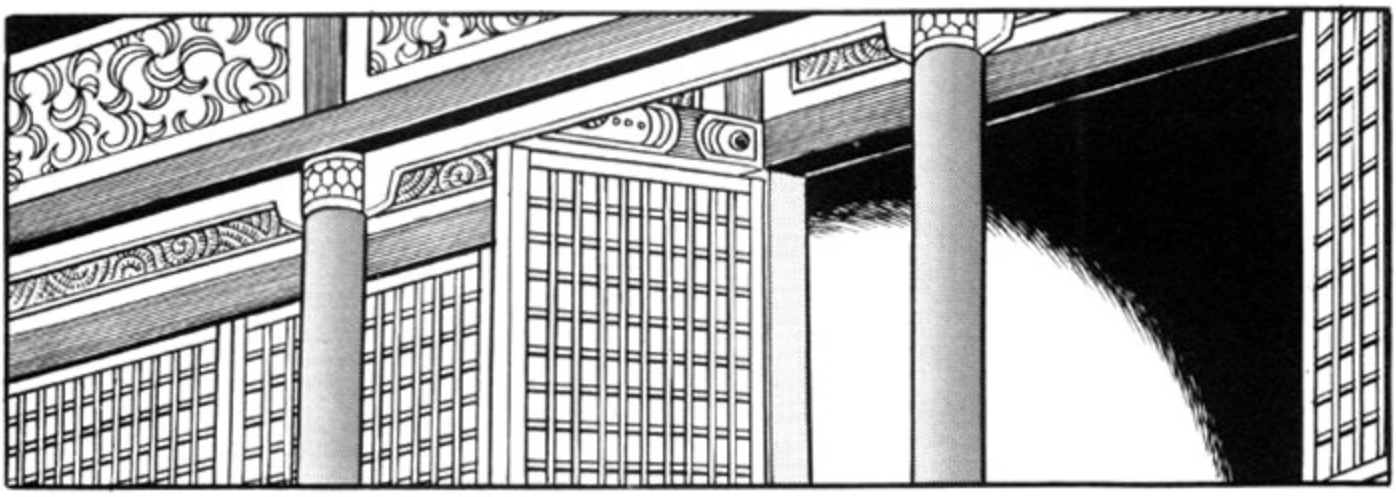
しかし直系と
いっても弟達もいる。
わたしのような
小国の王が
帝になると
いうのは気にかかる。

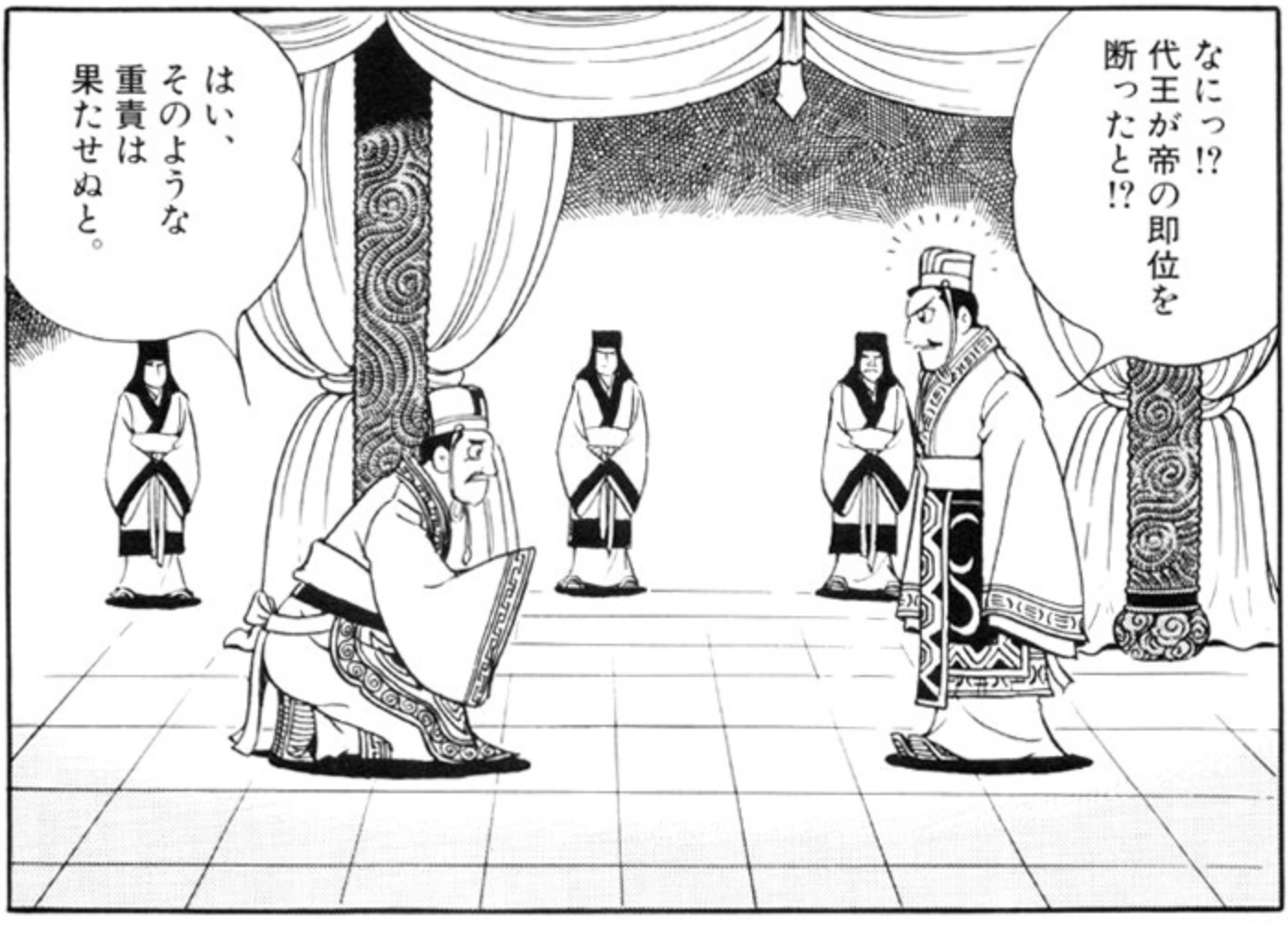

代王さまは
高祖さまの
お子では最年長で
ございます。
年齢の順序として
帝になられて
当然のことで
ございます。
いや、
わたしは
代の国ならば
治めることは
出来るが、
天下を治める
器量などない。

12

重臣達のお気持は
うれしいが、
この話は聞かなかった
ことにしてもらい
たい。


ははっ。




なにっ!? 代王が帝の即位を断ったと!?
はい、そのような重責は果たせぬと。

13

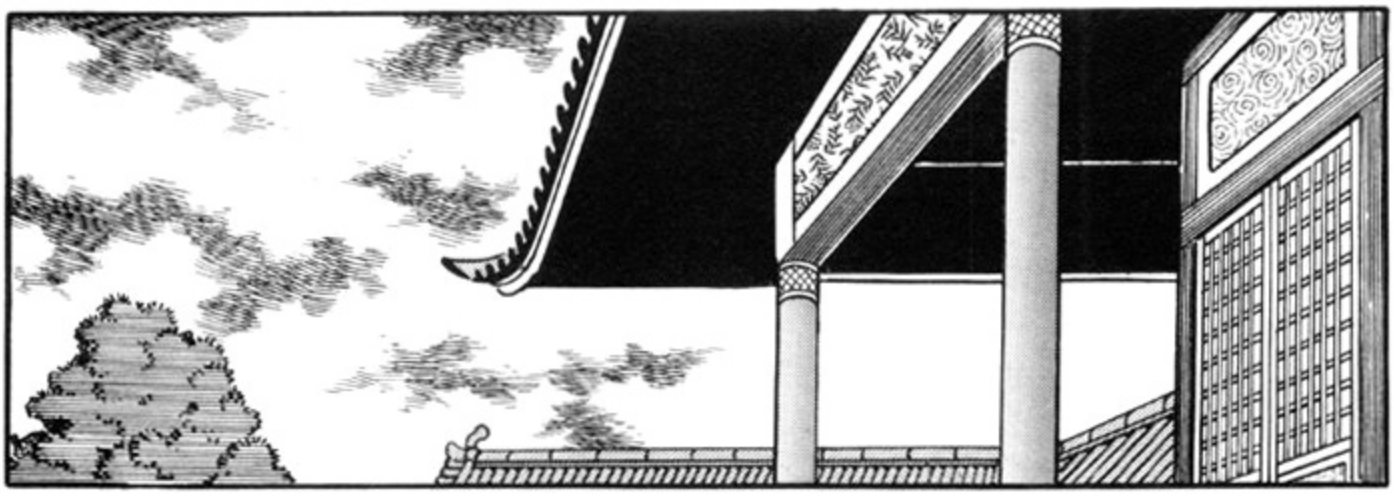
それはならぬ。もう一度代王さまを説得して参れ。

ははーっ!!

だが二度目の使者も断られ、三度目の使者も説得に失敗した。

14

四度目の使者が再び代に向かった。



代王さま、われらは秘密の使者なのです。こう度々お伺いしていてはいずれ世間の口にのぼりましょう。これは良い結果になりませぬ。
……

15

まず、呂氏一族を誅滅したといってもまだどこかに残党が身をかくしているやもしれませぬ。

いま漢朝にとって一番急がねばならぬのは、新帝をいただき、天下を安泰させ、万民を安心させることでございます。

16

代王はお忍びの形で兵士も連れず、六台の馬車だけで長安に向かった。呂氏を誅滅したとはいえ、まだまだ危険な旅であった。

長安代王邸

17

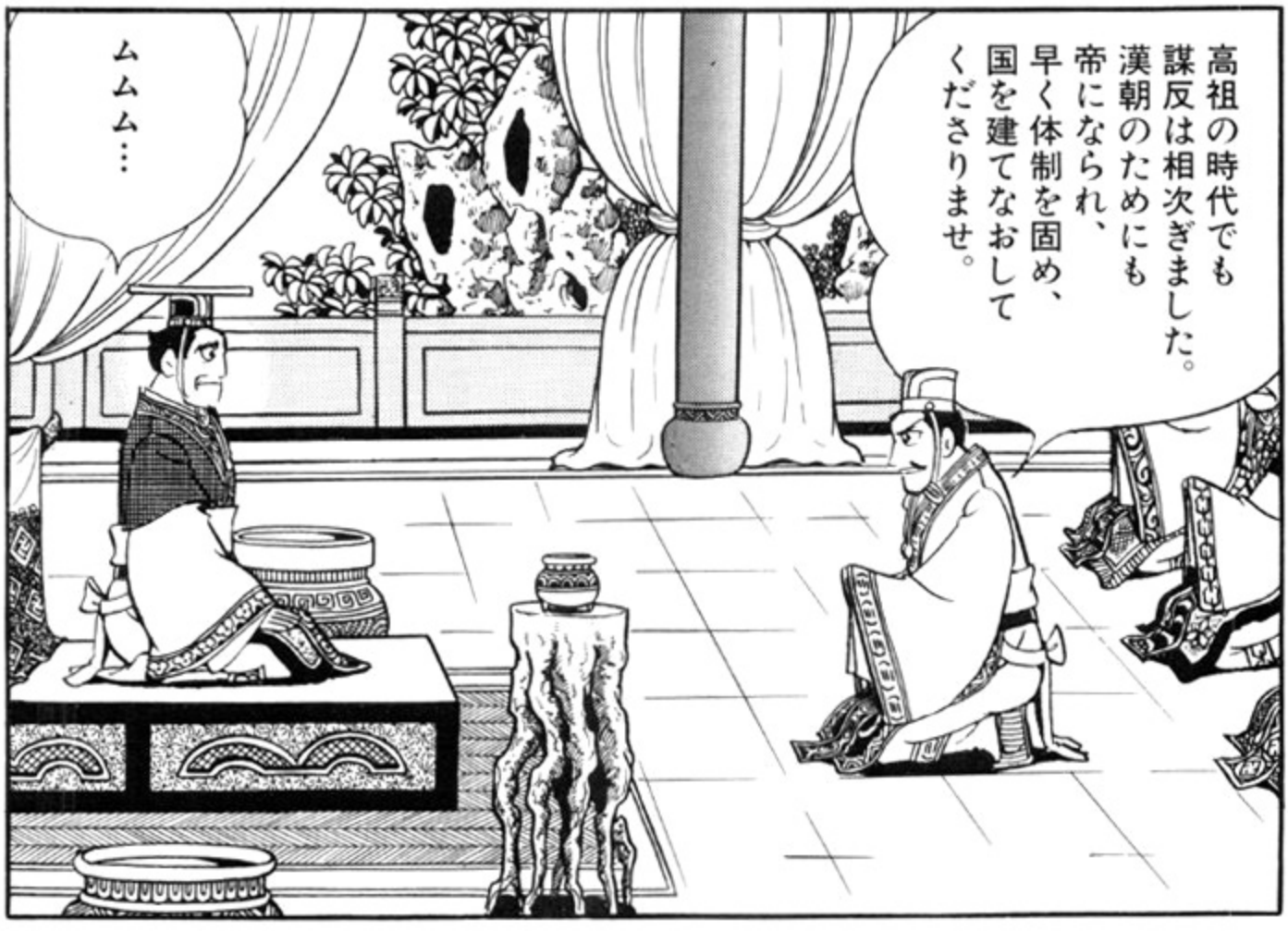
諸侯よ、先日もお断りしたように、何度 言われようとお受けは出来ませぬ。

しかし漢王は高祖がお作りになった王朝でございます。劉氏直系が帝になられるのは当然のことでございます。

代王さまは高祖のお子で一番年上でございます。帝になるお方は代王さま以外考えられませぬ。

しかし
わたしは天下の
経営などできる
器量はない。
わたしよりも
天下の経営が
出来るお方
はおらぬのか。

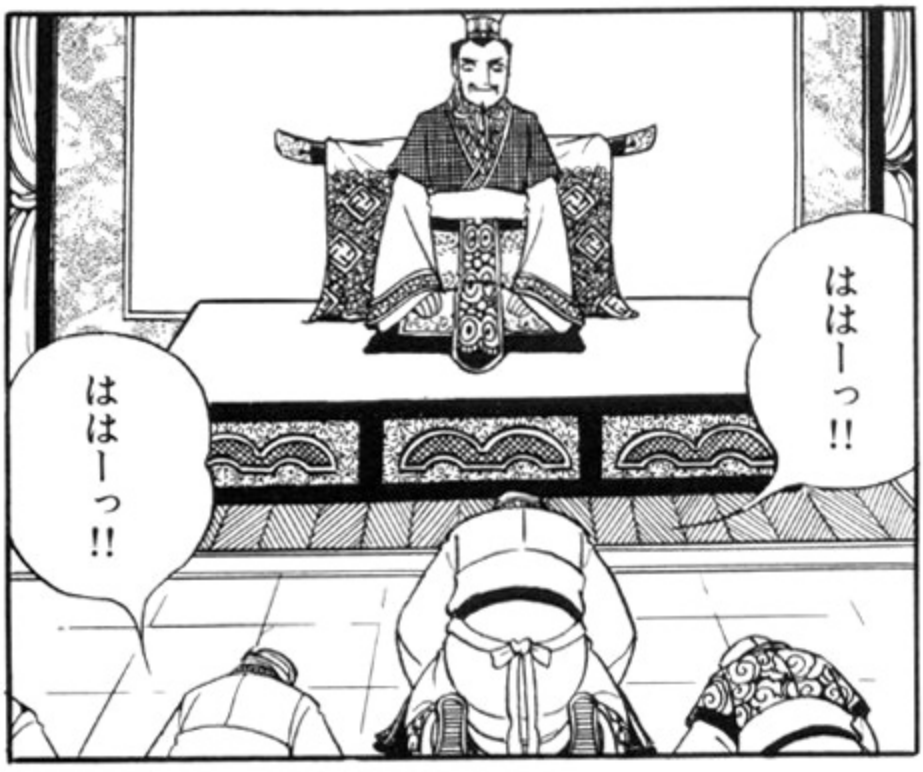
もしどなたかを
帝にいたせば、わたしも
帝になれる資格が
あると申す者が
出るは必定。
国混乱のもとと
なります。


高祖の時代でも
謀反は相次ぎました。
漢朝のためにも
帝になられ、
早く体制を固め、
国を建てなおして
くださりませ。
ムムム…

18

そち達も
協力して
くれるので
あろうな。

もちろん
です。



19

代王は帝に
即位した。
文帝である。

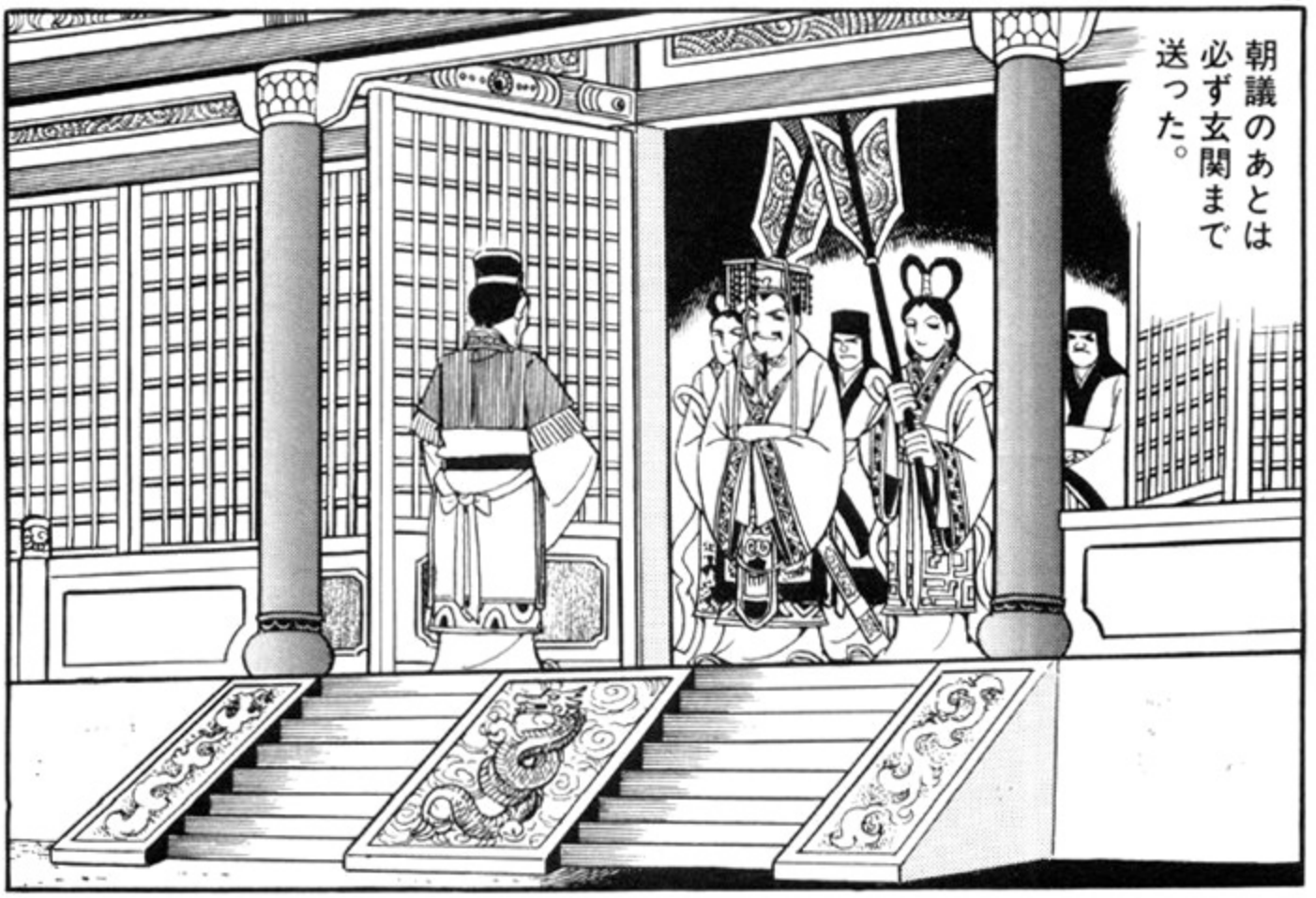
20

身に余る
お言葉、光栄に
ございます。
臣として務めを
果たしたまでの
ことでございます。

謙遜いたすな。
誰もが
認めている
ことじゃ。

文王は本気で
そう思っていた。
周勃に会えば
父親に接する
ように腰を
低くし…

21


朝議のあとは
必ず玄関まで
送った。

ふふふ、周勃も大変なご信頼を得られた。一本気な男で不器用だがまず安心できる男だ……
わしもそろそろ引退する時機がきたようだな。

なにっ!? 丞相を辞して隠居したいと申すのか。
はい。近頃は病が重く、隠居してのんびりと暮らしたいと思いまする。

22

ま、待てっ! 丞相が病気だと噂を聞いたこともないぞ。朕に不満があっての辞職か。

とんでもございませぬ。もう漢朝は大丈夫でございます。そろそろ身を退く時かと……

そなたと周勃は
わが父の代からの
功臣だ。
朕はこれから天下の
経営をせねばならぬ。
父を助けたように
朕を助けてくれ。

ありがたきお言葉、
身に余る光栄に
ございます。
ではひとつだけ
わたしの願いを
お聞き下さりませ。

おお、
なんなりと
申せ。

周勃を丞相と
してくださり
ませ。

な、なにっ？

23

たしかに高祖の側近と
して今も元気なのは
わたしと周勃だけで
ございます。
わたしが丞相になったのは
その頃はわたしの方が
周勃どのより
功績が大きう
ございましたからです。

だが呂氏誅伐では
周勃の方がはるかに
功績が上でございます。
それゆえ丞相の座を
譲りたいと思ったので
ございます。

なるほど、
そういうことで
あったか。

だがそなたにも教えてもらわねばならぬことは山ほどある。どうじゃ、周勃を右丞相(第一位)とし、そなたは左丞相(第二位)として務めてくれぬか。朕のたっての願いだ。

わかりました。その立場で陛下を補佐させていただきます。

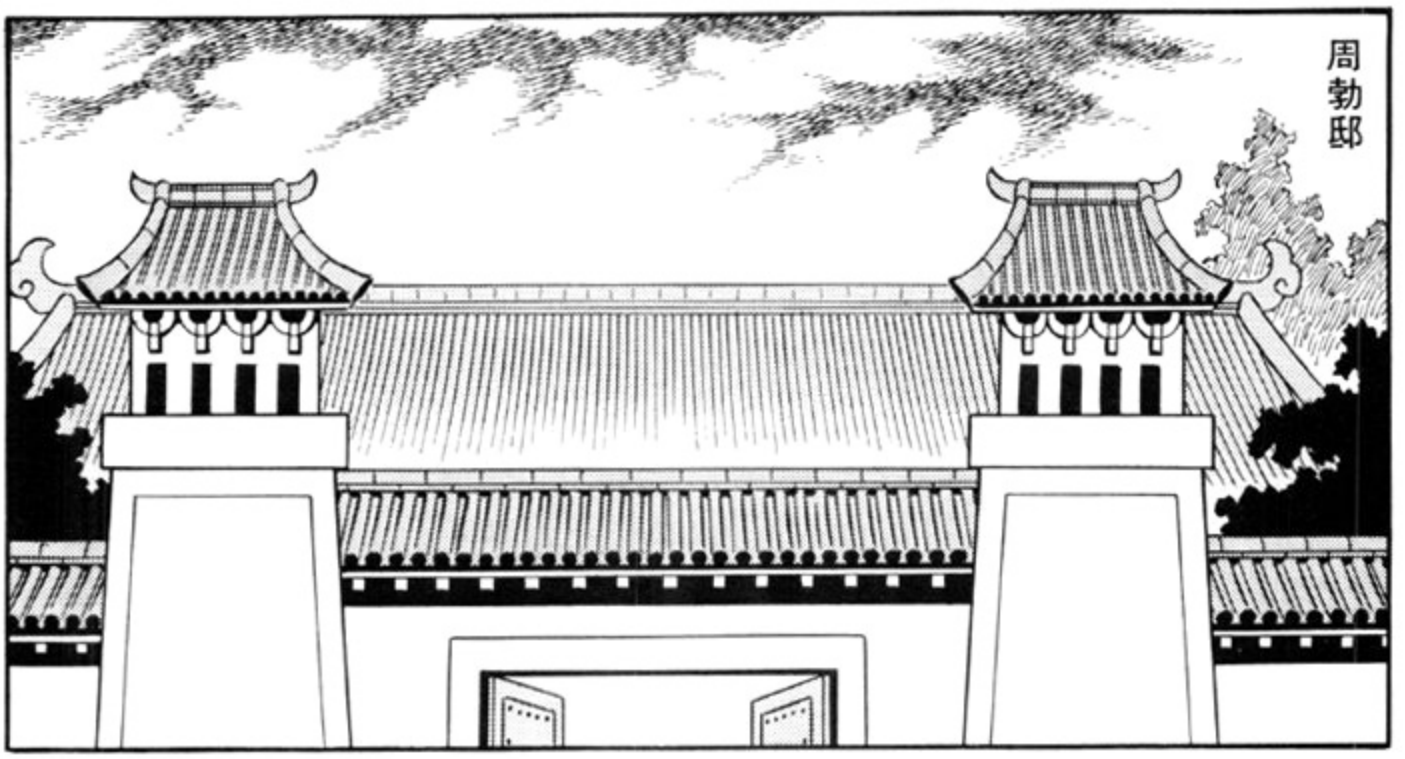
24

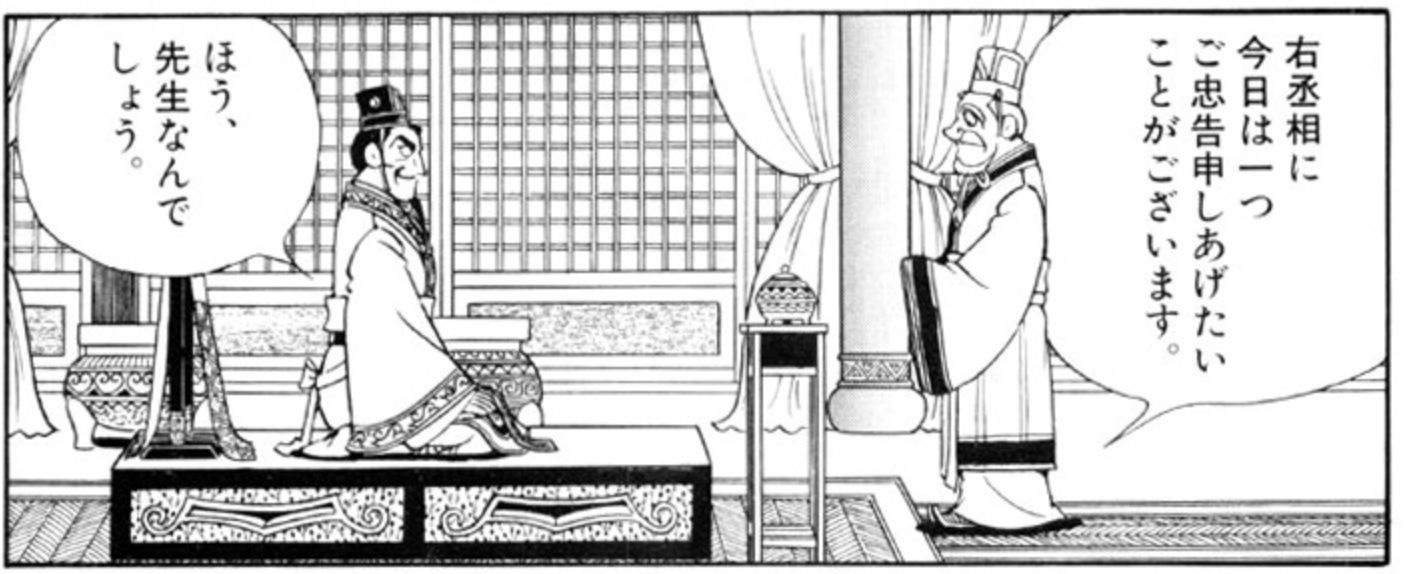
こうして周勃は、臣としては最高位の丞相となった。さらに恩賞として金五千斤(五万両)と、一万戸の領地を与えられた。陳平には金一千斤(一万両)、封地三千戸が加増された。

周勃はこの恩賞
金五千斤と一万戸の
領地を、文帝の母・
薄太后の弟・薄昭に
そっくり贈った。

25

文帝はそれからも
周勃に対しては
丁重に接した。


周勃邸


右丞相に今日は一つご忠告申しあげたいことがございます。
ほう、先生なんでしょう。

26

あなたさまは呂氏一族を誅伐した時があなたさまの人生でもっとも輝いた時なのです。

だが今、丞相の地位を得て莫大な恩賞まで賜り、陛下はあなたを特別扱いなされる。これには不満を持つ者も出てまいります。

もし一つでも落度があれば、罪は作られ誅殺される恐れがあります。わたしはあなたが丞相になられた時、災難を背負い込んだと思いました。

ムムム…

くれぐれもご用心なさってくださりませ。

先生のご忠告、肝に銘じておきまする。

27

周勃にとって、呂后時代から誅殺というものはいやというほど見てきた。その言葉はグサリと心に突き刺さった。

邪魔な人物は誅殺する。罪などどうでも作りあげられる。それが呂后のやり方だった……

それから一か月、文帝もやっと政務に慣れてきた。

丞相よ、一年間で裁判は何件くらいある？

えっ!?

28

そ、それは存じません。

では国庫の収支は年間どのくらいなのだ。

それも存じません。

左丞相、そなたは知っておるか。
それはそれぞれの責任者におたずね下さい。

責任者とは誰のことだ。

裁判については廷尉(法務長官)がおりまする。国庫については治粟内史(農政長官)がおりまする。

ほう、それぞれに責任者がいるならば丞相の仕事とはなんだ。

丞相の任務は、上は天子を補佐し、陰陽をきわめ、四季のめぐりを順調ならしめ、祭祀を行いまする。

29

また、外は四方の蛮族や諸侯を鎮撫し、万民をなつかせ、役人達にそれぞれの職務をまっとうさせることにあります。
なるほど、よくわかったぞ。

陳平どの、どうしてああいう時の答え方を教えてくれなかった。

30

ははは、君は長安の盗賊の数を聞かれたらそれを自分で答えるつもりか。
丞相というものは、国全体をみて方針を誤らぬようにすればよい。答え方などそのうちなれるさ。

ふーっ、わしの能力は陳平に遠くおよばぬ……
それにわしが丞相になったことは災難を背負い込んだのと同じだと忠告されたこともある。身をひいたほうがよい。

周勃は病気を理由に辞職を願い出て認められた。

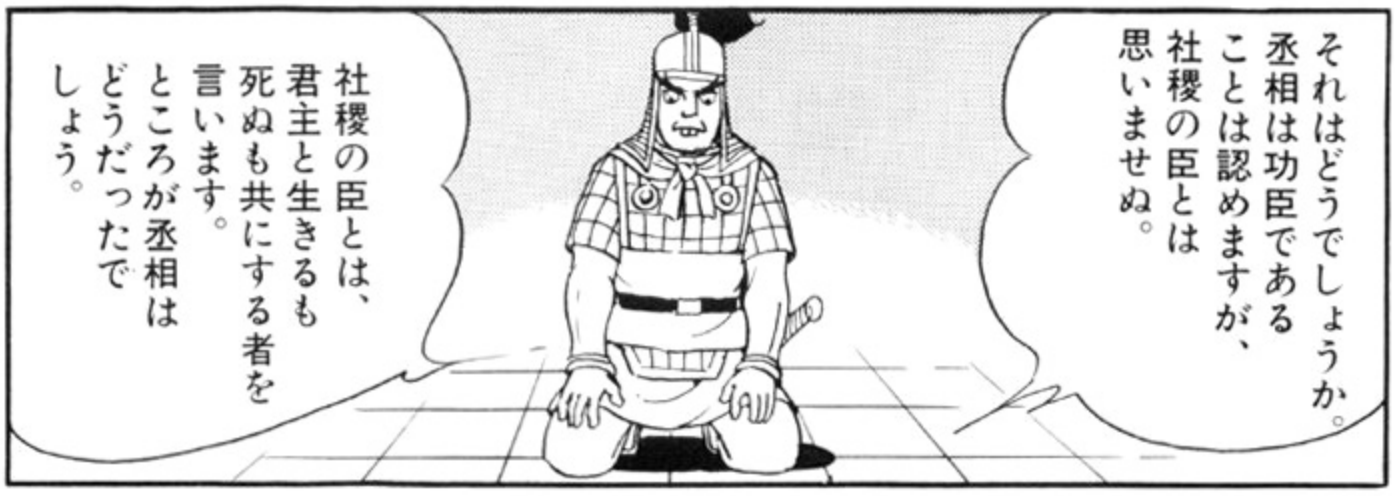
陳平が再び丞相となった。

31

だが翌年、陳平は病でこの世を去った。

このため再び周勃は
丞相として迎えられた。
文帝はあいかわらず
周勃を丁重に扱った。

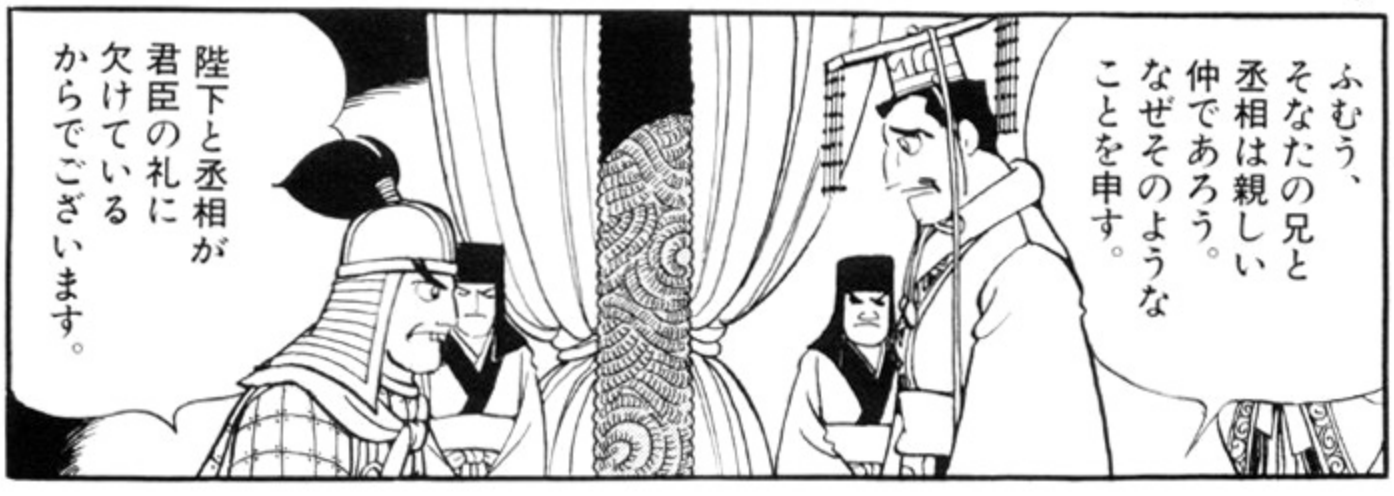
32


それはどうでしょうか。丞相は功臣であることは認めますが、社稷の臣とは思いませぬ。
社稷の臣とは、君主と生きるも死ぬも共にする者を言います。ところが丞相はどうだったでしょう。

呂后は帝のご兄弟を次々と誅殺し、自分の一族を王とし、権力をほしいままにいたしました。ところが丞相はこれを正すことは出来ませんでした。
呂后が崩じたのをきっかけに、重臣が呂氏一族に対して立ち上がり、この時丞相は兵権を握ったところから功績をあげられたのです。

これから判断いたしますれば、丞相は功臣ではありますが、社稷の臣ではありませぬ。

33


ふむう、そなたの兄と丞相は親しい仲であろう。なぜそのようなことを申す。
陛下と丞相が君臣の礼に欠けているからでございます。

陛下の丞相さまに接するお姿を見ますと、どちらが君主なのかわかりませぬ。これでは君臣ともに礼を失っており、陛下のおためにはならぬと思います。

ムムム…

これからは陛下の威厳をお保ちくださりますよう…

よくぞ申してくれた。

34

それ以後、文帝は周勃に対して君主の態度をとった。新しい官僚が育ちはじめていたのである。

それから十か月後、
周勃はていよく
辞職勧告を
受けたのである。

丞相よ、
朕は少し前から
諸侯にそれぞれ
領国に帰国
いたすよう命じたの
だが、なかなか
帰国いたさぬ。
そこで丞相が
諸侯にさきがけ
帰国し、手本を
示してほしいのだ。

は、ははっ。

35

なにか
落度は
あったか
……

次は
誅殺か？

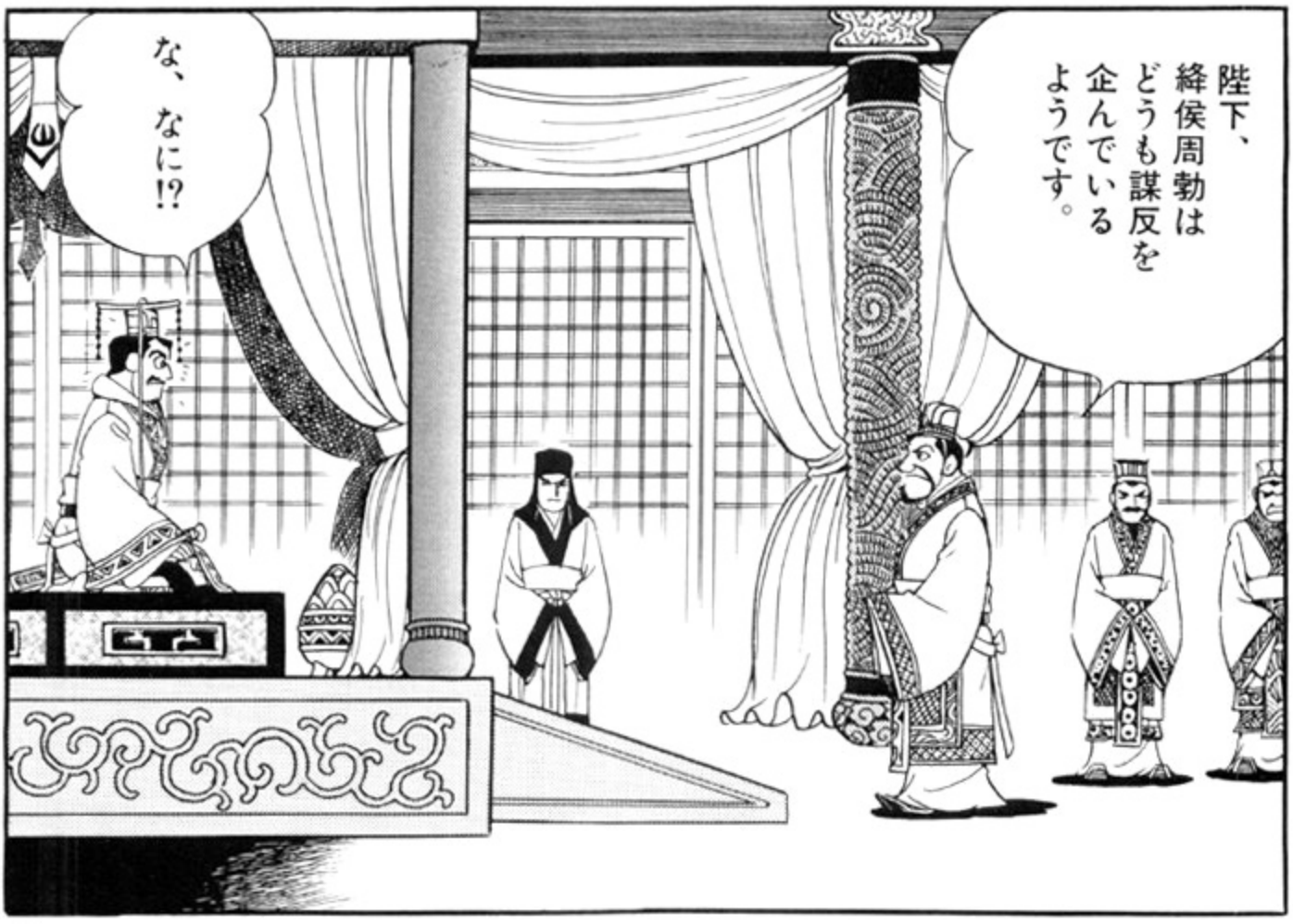
周勃は丞相を辞任し、領地の絳(こう)県に帰っていった。だがこの時から誅殺の恐怖にとりつかれたのである。

36

それから
河東郡の長官や
軍司令官が
巡察にまわって
くるたびに…

37

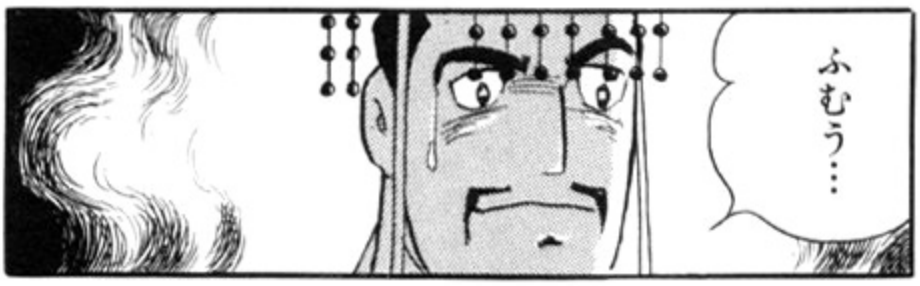
帝が自分を
誅殺するために
さし向けたと
思いこみ、
家来を武装させて
出迎えた。




38

ここ一年に
われらが巡察する
たびに周勃どのは
武装してわれらを
迎えまする。
これはただ事では
ありません。

丞相を辞めさせ
られた事を
根にもったのかも
しれませぬ。
周勃どのは
歴戦の強者です。
謀反となれば
やっかいなことに
なりまする。


ふむう…

よし、廷尉
そちが調べよ。

はっ。

39

廷尉の命で
兵はただちに
絳県にとんだ。

なにっ!?
わしが謀反を
企んだと!!
馬鹿なことを
申すな、わしは
漢朝のために
生涯をかけて
きたのじゃ!!

ならば都で
身の潔白を
証明なされば
よい。

もし同行を
断られるなら
われらは謀反と
みなします。

わかった。
都へ参り
潔白を
証明しよう。

40

みんな
心配いたすな。
わしが謀反を
企むなど
誰も信じぬわ。

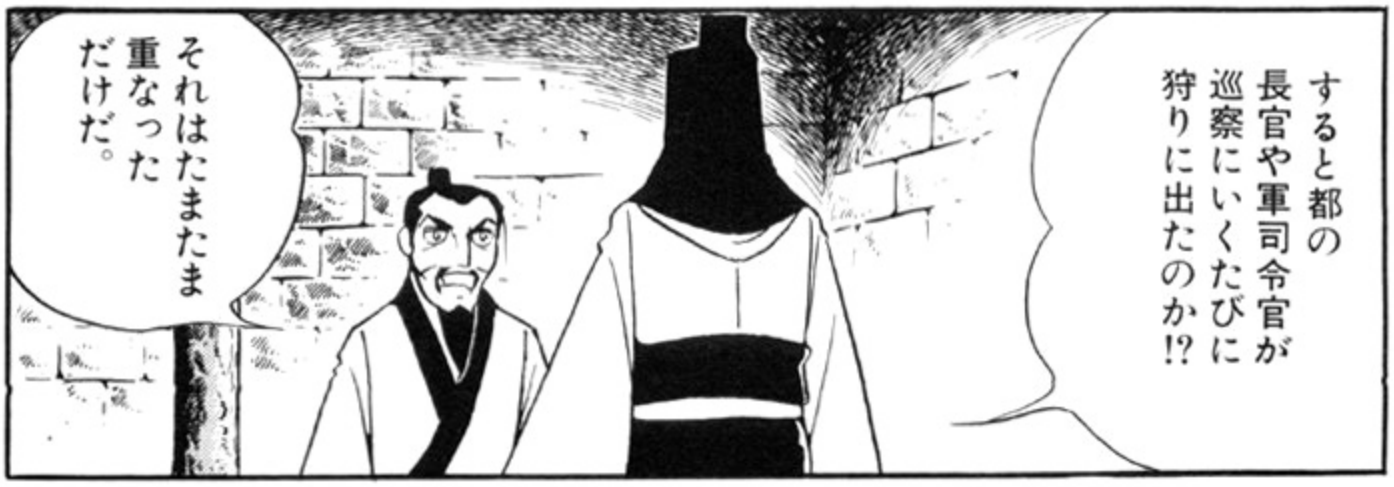
周勃はそのまま
長安に連行された。

とたんに
牢獄に投じられた。
はなから謀反人
扱いであった。

では鎧兜に
身を固めていたのは
狩りに行くため
だったと
申すか。

その通りだ。

41


すると都の
長官や軍司令官が
巡察にいくたびに
狩りに出たのか!?
それはたまたま
重なった
だけだ。

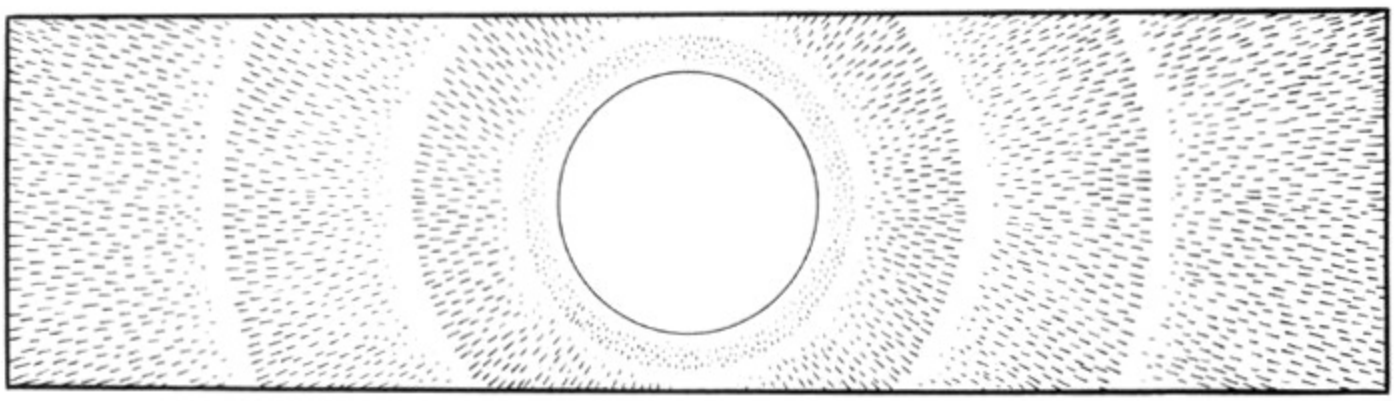
偶然が重なったにしては回数が多すぎる。

それは万一に備え家来を鍛えるために狩りはよい訓練になるからじゃ。
万一とは？

獄吏の追及は日増しに厳しくなっていった。口下手の周勃はその問いにすらすらと答えられなかった。

42

獄吏はついに周勃を拷問にかけ、謀反を認めさせようとした。



起きよ、取り調べだ。さっさと白状せねばもっと痛い目にあう。

まてっ！わしは謀反の気などない。それを証明してくれたら金千斤(一万両)をお礼に出そう。

わしの長男・勝之(しょうし)が長安にいる。一筆したためる。それを持ってわが屋敷へ行け。

周勃は一筆したためた。

長安の周勃邸から
すぐに獄吏のもとに
金千斤が
届けられた。

獄吏は調書をしたため、
調書の裏に
「公主に証言させよ」と
記した。

公主とは文帝の
娘で、周勃の長男
勝之の妻であった。

44

一方 宮中でも
周勃救援の
動きが起こっていた。
君臣ともに
礼を失していると
諫言した
袁盎(えんおう)などは、
周勃の無実を
堂々と公言
してはばから
なかった。

また、周勃が丞相となった時の恩賞をそのまま贈られた薄昭も、薄太后のもとにかけ込んだ。

45

姉上、周勃どのが謀反などとんでもない。濡れ衣です。なにとぞ帝にお口ぞえをお願いいたします。

そんなことは誰でもわかっています。周勃は無骨で口下手ゆえうまく釈明ができぬのであろう。

親孝行で有名な
文帝は、しげしげと
薄太后のもとを
訪れていたのである。

母上、
ご機嫌は
いかがですか。

機嫌など
よくありません。

46

そなたは
いつから暗君に
なられた!!

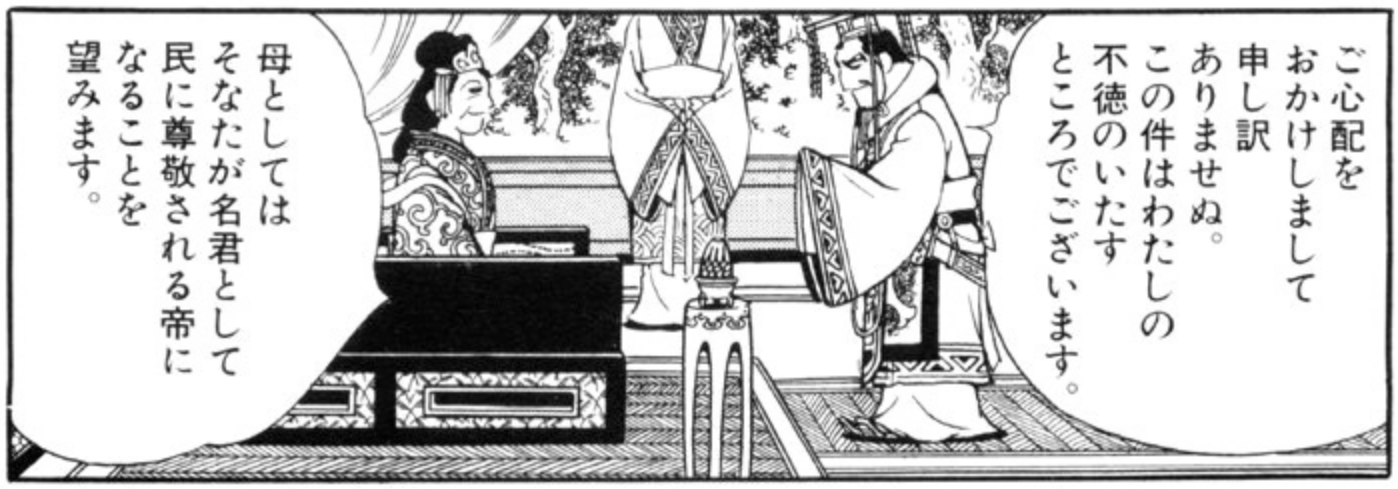
はあ!?

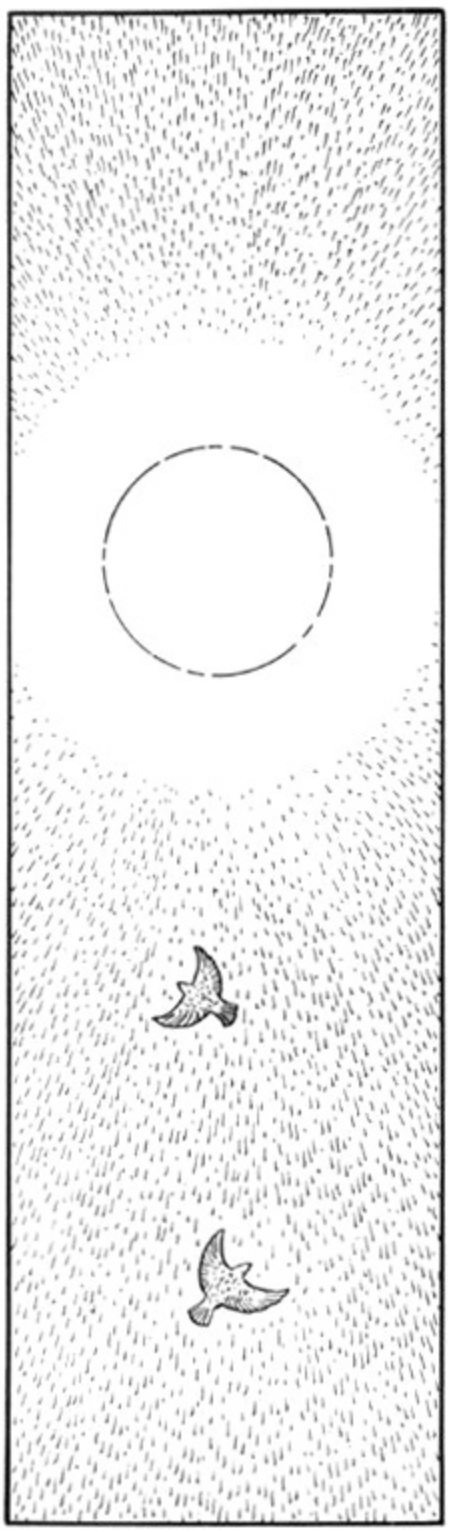
周勃どのを
謀反人として
獄につなぐなどとは
何事です!!

周勃どのは呂氏一族を誅伐したあとそなたが即位するまで玉璽を守っていたのです。しかも当時は兵権をすべて握っていたのです。謀反を起こそうと思えば簡単にできました!!

この時に謀反を起こさなかった男が、一小県にひきこもって今になって謀反を企むなど考えられますか!!

47





48

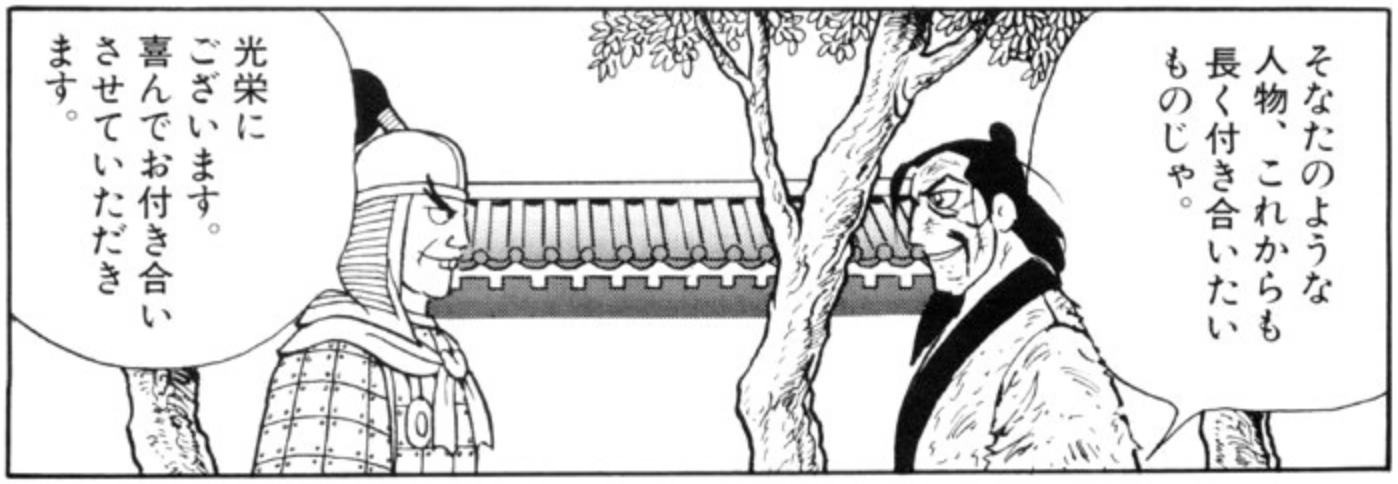
おう、袁盎ではないか。

疑いが晴れたことをお喜び申しあげます。

父上、袁盎どのはヒソヒソ……
ほう。

袁盎よ、わしの無実を宮中で説いてまわってくれたそうじゃな。感謝いたす。
いえ、わたしは正しいと思うことを説いただけでございます。




そなたのような人物、これからも長く付き合いたいものじゃ。
光栄にございます。喜んでお付き合いさせていただきます。

50

劉邦時代の最後の
功臣・周勃は、絳県で
静かに隠居暮らしを
はじめた。
これは漢朝が新しい
流れで進みはじめた
ことを示すもので
あった。

# 第4話

# 直言居士・袁盎

漢朝は文帝を迎え
新しい時代に
進みはじめた。
と、同時に、新官僚も
育ちはじめた。
袁盎もその一人である。

袁盎は字を絲、
楚の人である。
その気骨がみとめられ、
郎中将(宮中護衛長官)
として仕えていた。

文帝の三年。

淮南厲王の長が
辟陽侯審食其の
屋敷を訪れ…

審食其を
殺害したのである。

審食其は呂后と
醜聞があり、
呂后時代には
左丞相を務め、
呂氏が倒された時
その職を免ぜられた
人物であった。

4

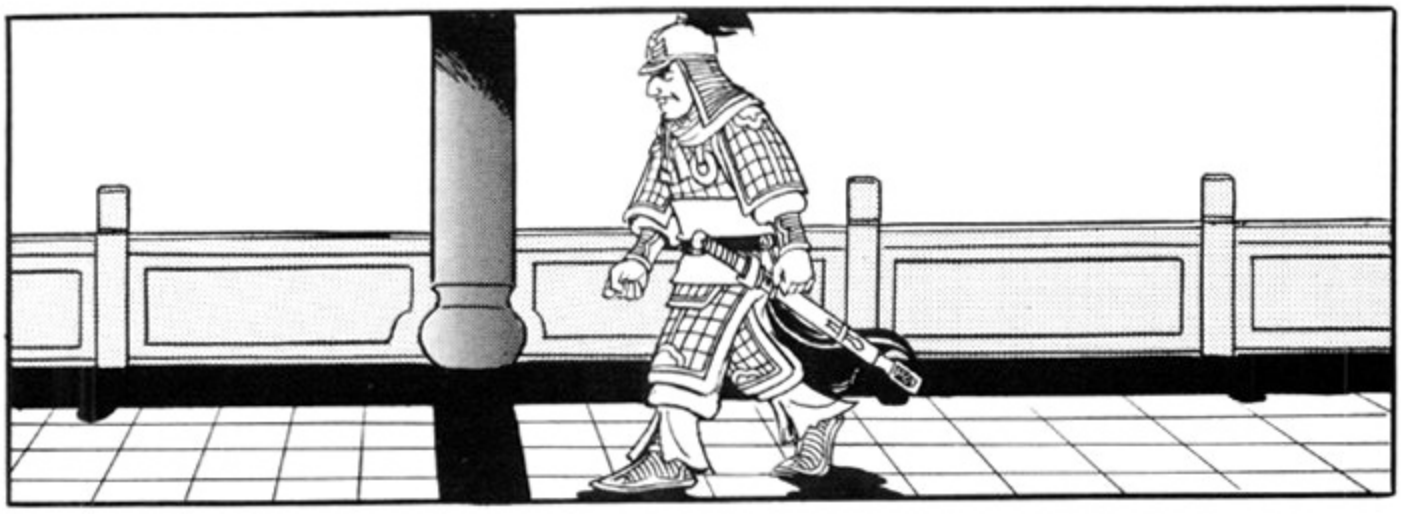
一方淮南厲王は
文帝の弟で、呂氏が
誅滅されたあと
帝の候補として
名をあげられた
一人でもある。近頃は
帝の権威をかさにきて、
その振る舞いは
目に余るものがあった。

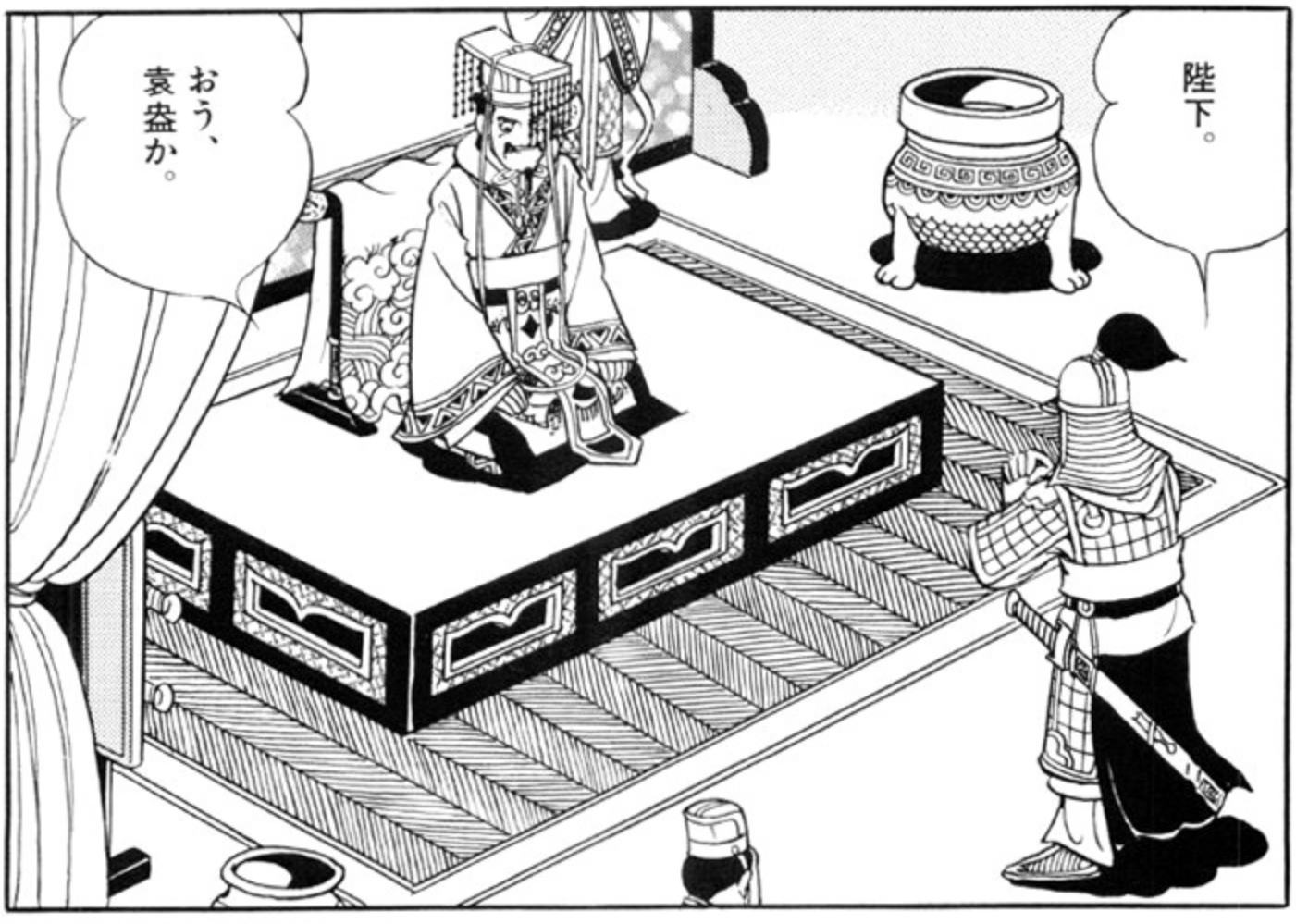
なにっ!?
淮南王さまが
審食其を
斬り殺したと！

原因はなんだ!!

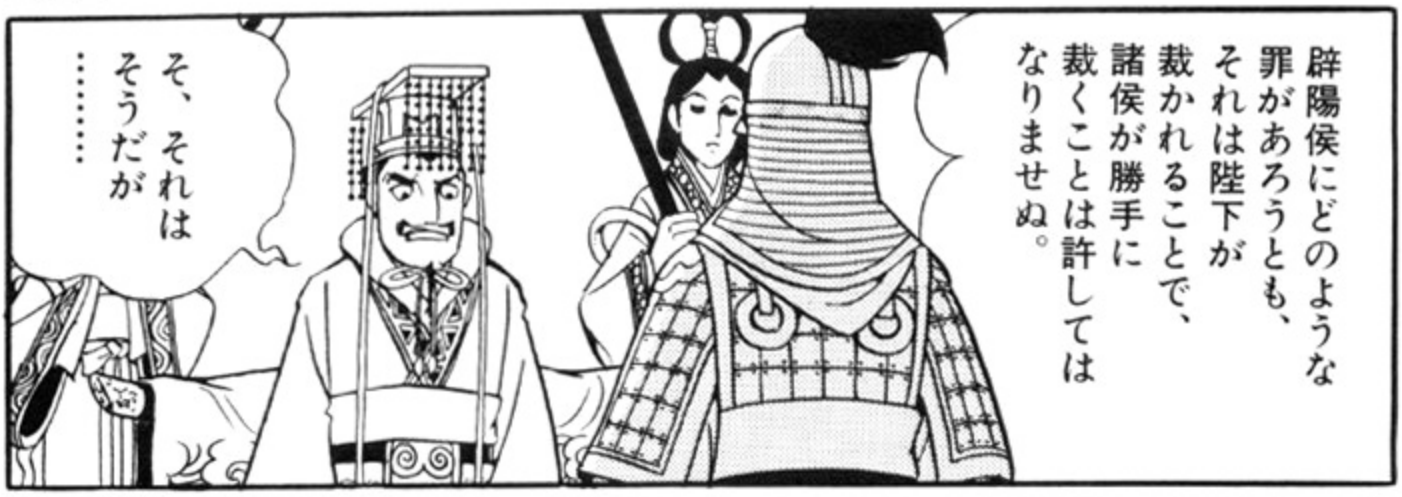
それは
われらには
よく分かりま
せぬ。

審食其どのに
落ち度があるならば、
帝が裁かれる。
一国の王が勝手に
侯を殺すなど
許されることではない。






6


辟陽侯にどのような罪があろうとも、それは陛下が裁かれることで、諸侯が勝手に裁くことは許してはなりませぬ。
そ、それはそうだが……

このような事を黙って見逃せば、諸侯は増長し、勝手な振る舞いを起こします。法と秩序を守るためにも淮南厲王を罰し、領地の半分も召し上げれば、天下諸侯も少しは身をつつしみましょう。

ま、まて。淮南厲王は朕の弟だぞ。

それは承知しております。しかし呂氏を誅滅してまだ三年です。国を安定させるためにも、弟君であろうとも秩序を乱す者は罰するという態度をお示し下さい。

しかし、弟を罰するなど朕はできぬ……

陛下、これを放置すれば後々かならず禍いのもととなります。今のうちに禍いの芽は刈り取っておくべきなのです。

袁盎よ、身分を
わきまえよ！
そのようなことは
陛下がお決め
なさることじゃ！

下がりなさい！
そなたはそなたの
職務を果たし
なされ！
はっ。

8

陛下、
何も気になされますな。
袁盎は誰かれとなく
ずけずけと物を
言う、礼儀知らずに
ございます。
う…
うむ。

長安 淮南王邸

そうか、陛下はわしのしたことは不問にしたか。

はい。

9

当たり前だ。審食其は昔は功績があったかもしれぬが、呂后の左丞相になってから、劉一族を追いつめた。兄に代わってわしが一族の仇を討ってやったのだ。

それにしても、わしが帝になっていればあんなやつ、一番最初に討っていたわ。

その通りでございます。

まあ、帝位は年の順ということで仕方がなかったがな……

しかし優しさだけでは天下は治められんぞ。

10

それから数年が過ぎて、袁盎の諫言は的中した。

素直に白状しろ！
次はこの焼きゴテを
お前の身体中に
押しつけるぞ！

お前が謀反を
企んでいたことは、
数多くの報告で
わかっているんだ！

ただわからぬことは、
棘浦侯、柴武の太子の
身分では、動かせる
軍勢の数もしれたものだ。
それで謀反が成功
できると思ったのか!?

そんなわけはない。お前ひとりで謀反など起こせるわけがない。仲間がいるはずだ！手を組んだ仲間の名を言え!!

そ、そんなお方は…おらぬ……

ぎゃあッ

次はどこを焼いてほしい!?

言う…言う……

最初から素直に答えていれば痛い目にあわなくてすんだんだ。

12

淮南厲王さまが、軍勢も兵糧も後押ししてくれることになっている……

な、なにっ!!

なにっ!!
淮南王が
後押しを
してたと!?

はい。
棘浦侯の太子は
そう白状したそうで
ございます。

13

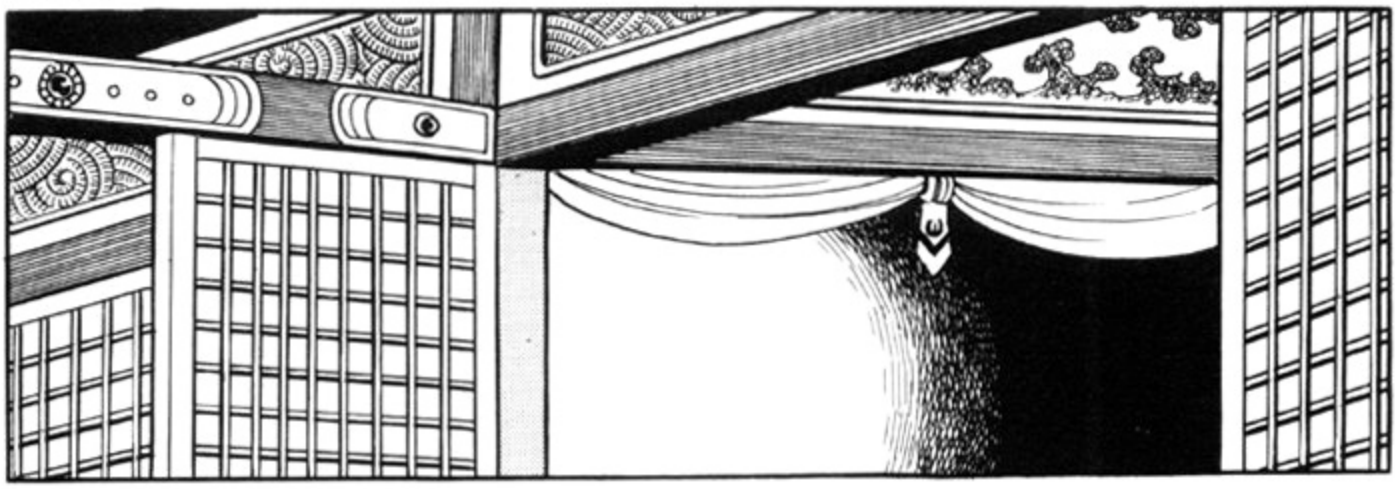
淮南厲王は、ただちに召喚された。

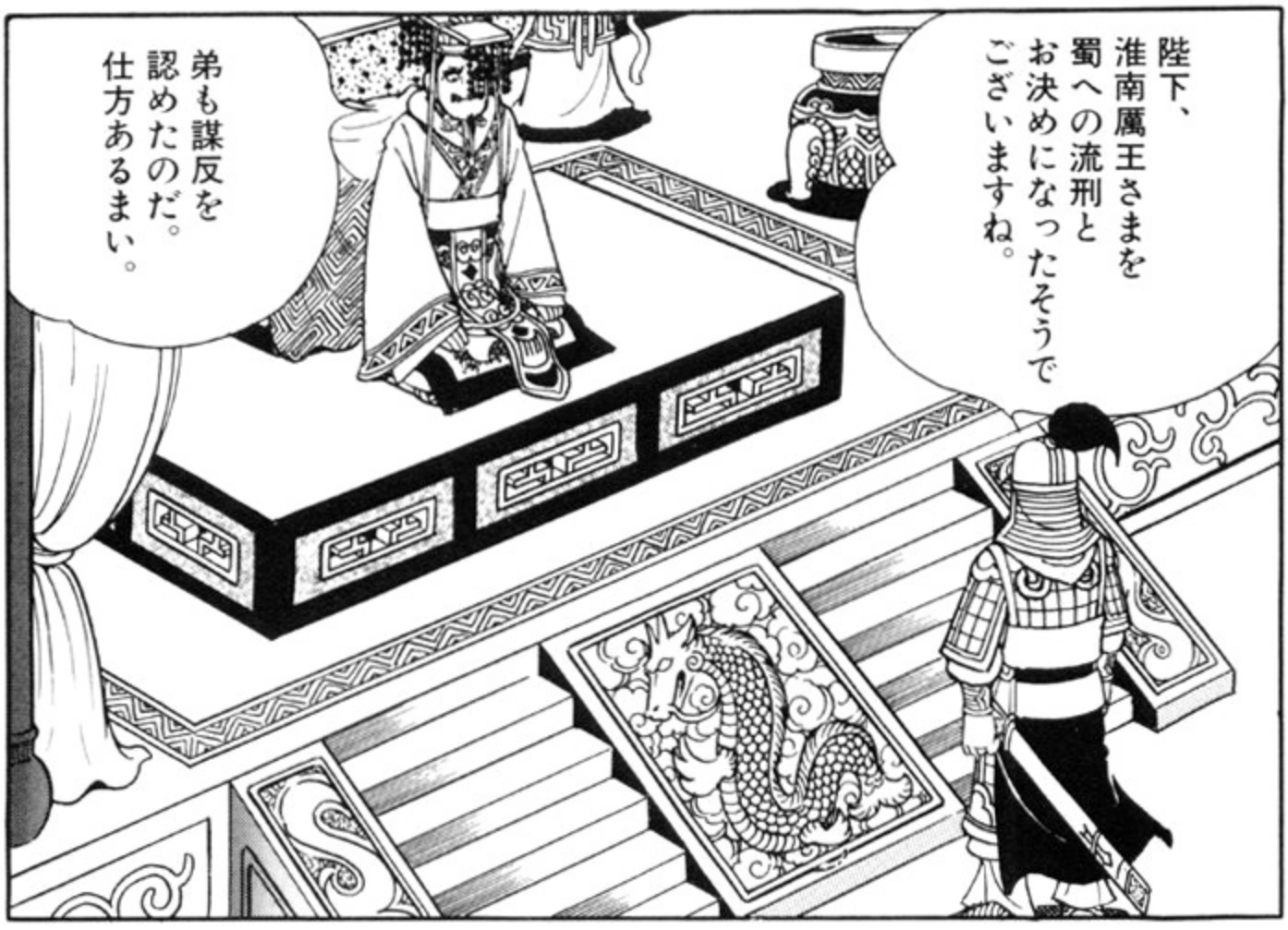
14

そこで重臣に取り調べられた。

棘浦侯の太子はすべて白状いたしました。なぜ謀反など企まれました？

淮南厲王は、審食其の時も不問にされたのでそう重い罪にはなるまいと思い、素直に認めたのであった。




陛下、淮南厲王さまを蜀への流刑とお決めになったそうでございますね。
弟も謀反を認めたのだ。仕方あるまい。

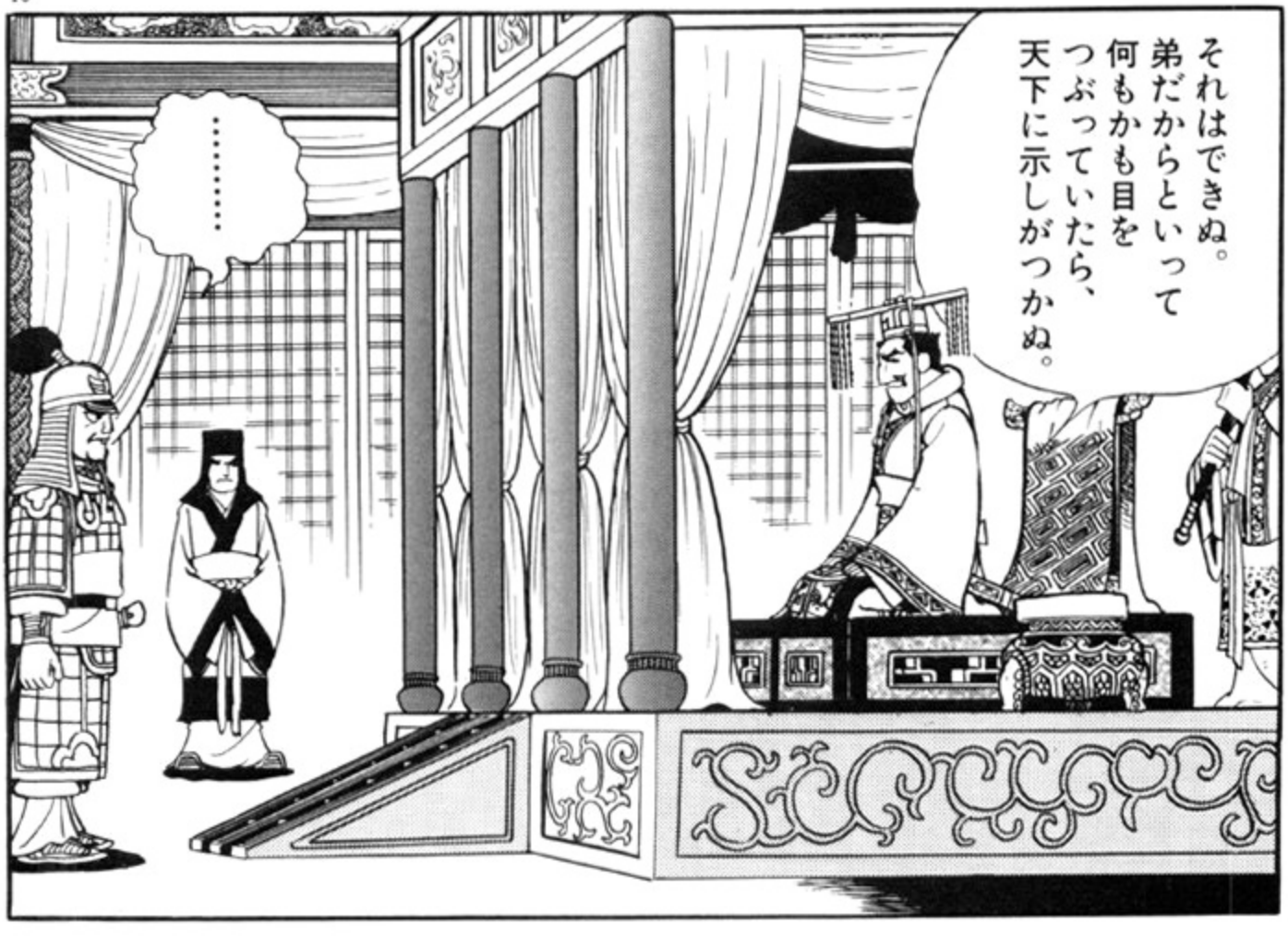
15

陛下は淮南厲王さまが事件を起こした時にもお叱りになられませんでした。それが淮南厲王さまを増長させ、この結果となったのです。ここにきて急に厳しいご成敗とはいかがなものかと思いまする。

淮南厲王さまは一本気なお方です。自決の道を選ばれるやもしれませぬ。
また、蜀までは遠い道のりです。途中で淮南厲王さまの身に万一のことがあれば、陛下は天下を治めながら弟君ひとりを包容できなかったとして、弟殺しの汚名を被ります。

陛下、ここはもう一度お考えなおしくださりませ。

16


それはできぬ。弟だからといって何もかも目をつぶっていたら、天下に示しがつかぬ。
……

罪は決定され、
淮南厲王は
囚人車に
乗せられ
蜀へ送られた。

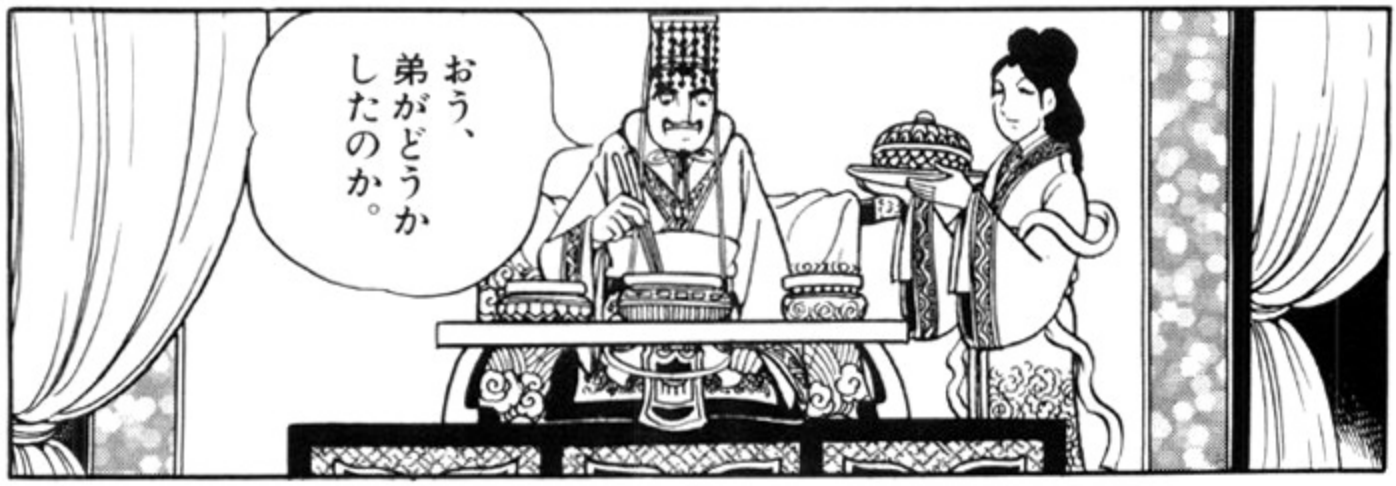
17

だが途中、
雍の地で病死
したのである。

申しあげます。

陛下はいま食事中だ。あとになされ。
それが淮南厲王さまのことについて急報が入りました。

18


おう、弟がどうかしたのか。

淮南厲王さまは、
雍の地で
病死なされました。

な、なにっ!!

弟が…
弟が死んだと
……!?

はい…

な、なんたる
ことだ……
わしは時機を見て
許してやろうと
思っていたのに
……

弟よ…さぞ
むごい兄よと
恨んだことで
あろう……
不不不

陛下、申し訳ありませぬ。それがしがもっと強く諫言しておれば、このような悲劇は避けられました。

なにをいう、わしこそそなたの言葉を素直に聞くべきだったのだ。

過ぎてしまったことでございます。あまりご自分をお責めなされますな。

陛下には、世に優れた三つの行いがございます。このくらいのことで陛下の名誉に傷はつきませぬ。

三つの行い……？それは何だ。

第一は、陛下の「孝」にございます。

20

陛下が代王の頃、母君の薄太后が三年、病で伏せっておられました。陛下は日夜 看病なされ、薬もかならず自分がなめた上でおすすめになりました。このような「孝」は他の者にはできませぬ。

第二は「勇」にございます。呂氏を誅滅したあと、陛下は六台の馬車で代から都にかけつけられました。当時は都も不安定でなにが起こるかわからぬ状態でした。その勇気はどの勇者にも勝りましょうぞ。

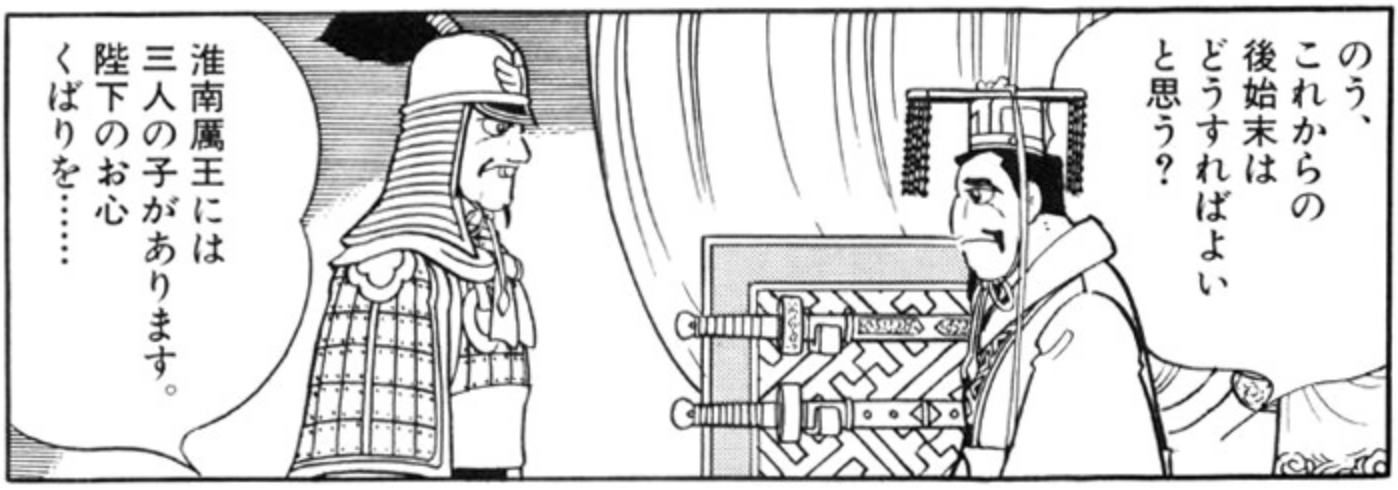
第三は「謙虚」さにございます。天子の位を五度に渡り繰り返し辞退なされました。その謙虚さは過去のどの人物も真似はできませぬ。わたしの三つの行いとは、それを指して申し上げたのです。

21

この度の弟君に対するご処置は、少し苦労をさせて過ちを改めようとのお心からでした。病死は陛下のせいではありませぬ。

そ、そう思ってくれるか。

袁盎の言葉で、文帝は少し気が楽になった。



22

この話が伝わると、袁盎の名は宮中内で高まった。厳しい中にも優しさがあったからである。

ある年、文帝は皇后と寵愛する側室慎夫人を連れ、上林苑（御猟場）行幸した。

23

それは
どなたの席だ。

はい、
慎夫人の席で
ございます。

愚か者！
その席は
後ろに下げよ！

は…？

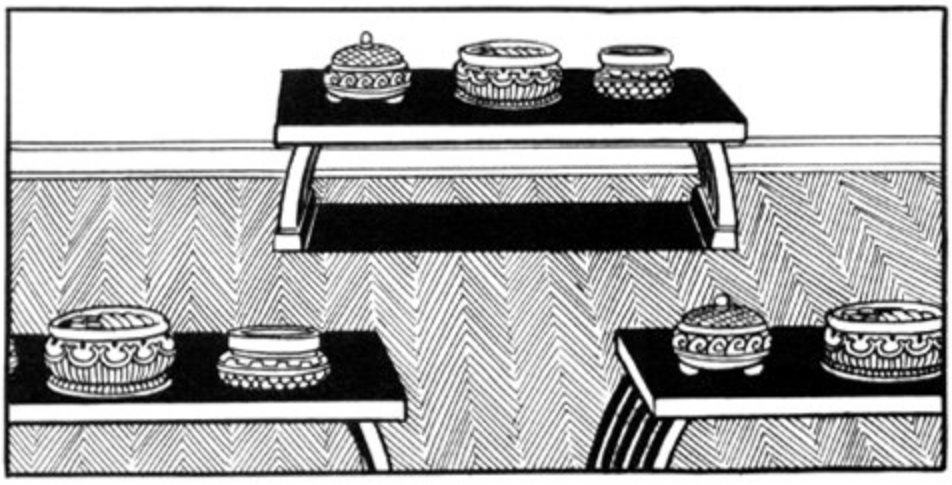
そこは
陛下と皇后の
座る席だ。

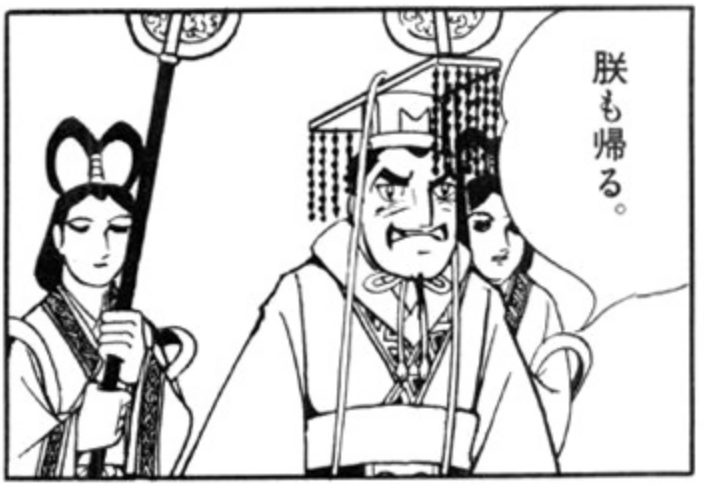
は、
はい。

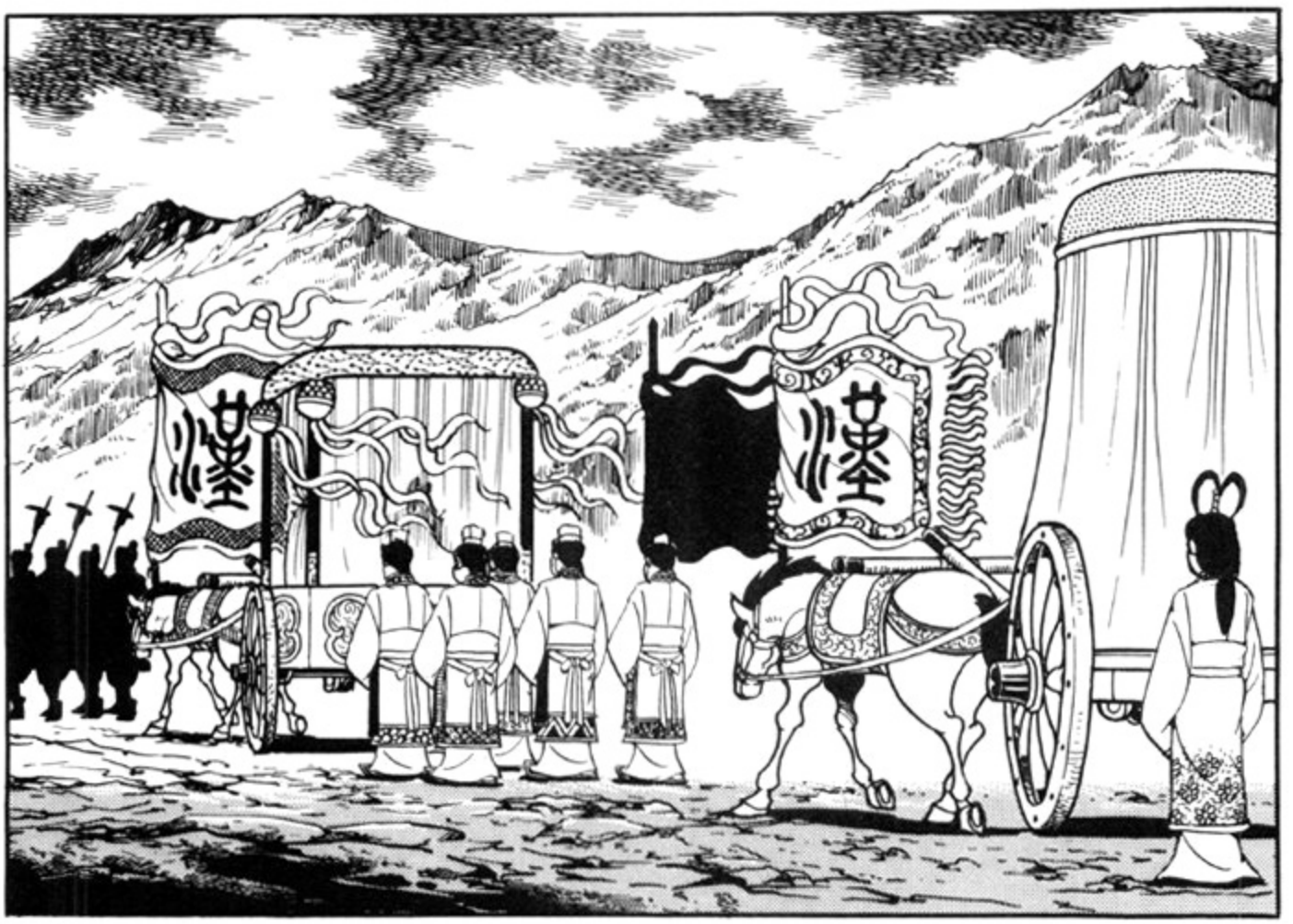
24

こんなことをして
陛下のお怒りを
買わぬかのう
……

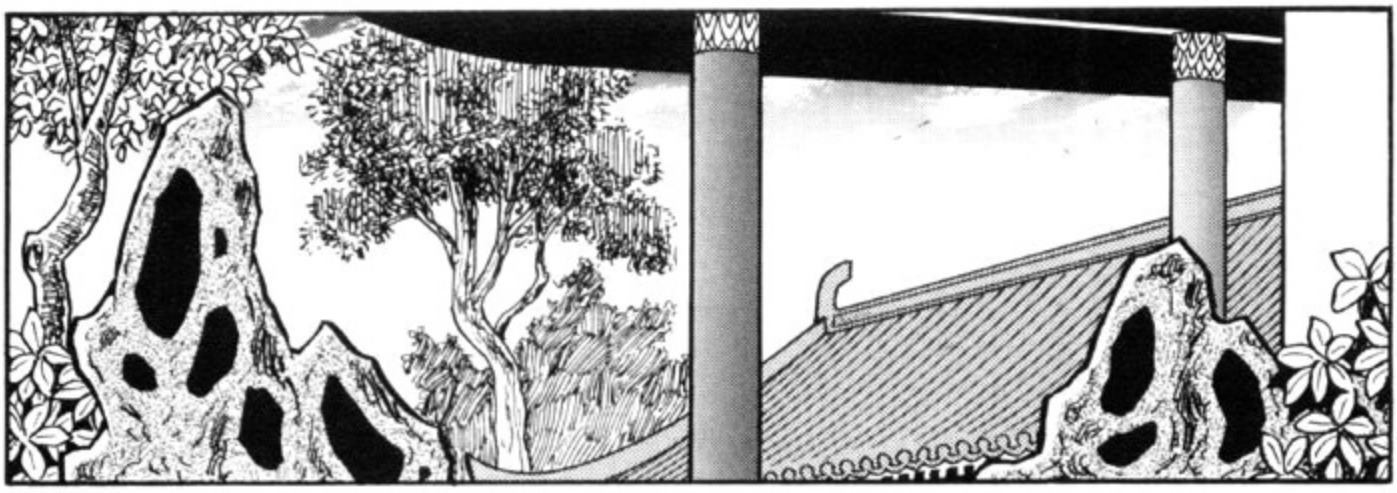
25





26



陛下、突然のご帰館、いかがなされました。

袁盎、そなたが慎姫の席を変えるように命じたそうじゃな。

はい、それがどうかいたしましたか。

慎姫は機嫌を悪くして席にも座らなかったぞ。

それで陛下もご帰館なされたのですか？

陛下、身分のけじめをつけて上下関係はうまくいくものです。陛下が皇后をお迎えになっておられる以上、慎夫人は側室です。

側室が正室と同列の席につくような事では、身分のけじめがつきません。

28

陛下がそれほど慎夫人をご寵愛ならば、他にいくらでもお気持を表わす方法はあります。金品を賜わるとか他の贈り物をするとか……

陛下がよかれと思ってなされても、かえって恨みを買うこともございます。呂后が戚夫人の目をくりぬき、両手両足を切断した「人ブタ」事件を起こされた事を、もうお忘れですか。

そうか…そうであったな。よくぞ言ってくれた。

いいえ、おわかりいただければうれしゅうございます。

29

文帝は、袁盎が席を変えた理由を、慎夫人に語って聞かせた。

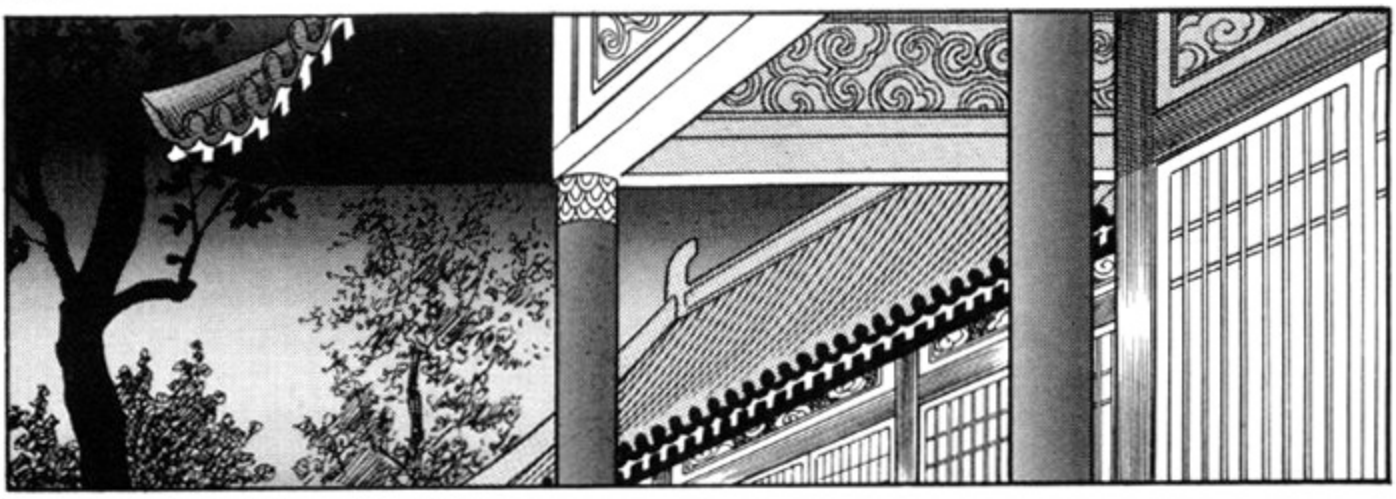
袁盎よ、
先日はわたしの
わがままで
失礼しました。
陛下から
諭されました。
そなたの申す
通りです。

わたしからの
お礼の気持ちです。
受け取って下さい。

金五十斤
(五百両)、
慎夫人の
贈り物です。

30

これからも
間違いは教えて
くださいな。
わたしも「人ブタ」には
なりたくありません
からね。
ははーっ。



ふーっ。
陛下、どうなされました。

また袁盎に諫められた。

でも袁盎は、正しいことを申します。

そうなんじゃ、だから朕も反論はできん。だが朕は聖人ではない。息がつまりそうになってくる。

といっても、あの男は漢朝には必要な男だしのう……

32

袁盎よ、そなたを隴西の都尉（都の警備長官）に封じる。匈奴の侵攻からしっかり守ってもらいたい。

ははーっ!!

隴西は中国西北にあり、たびたび匈奴の侵攻を受けていた。

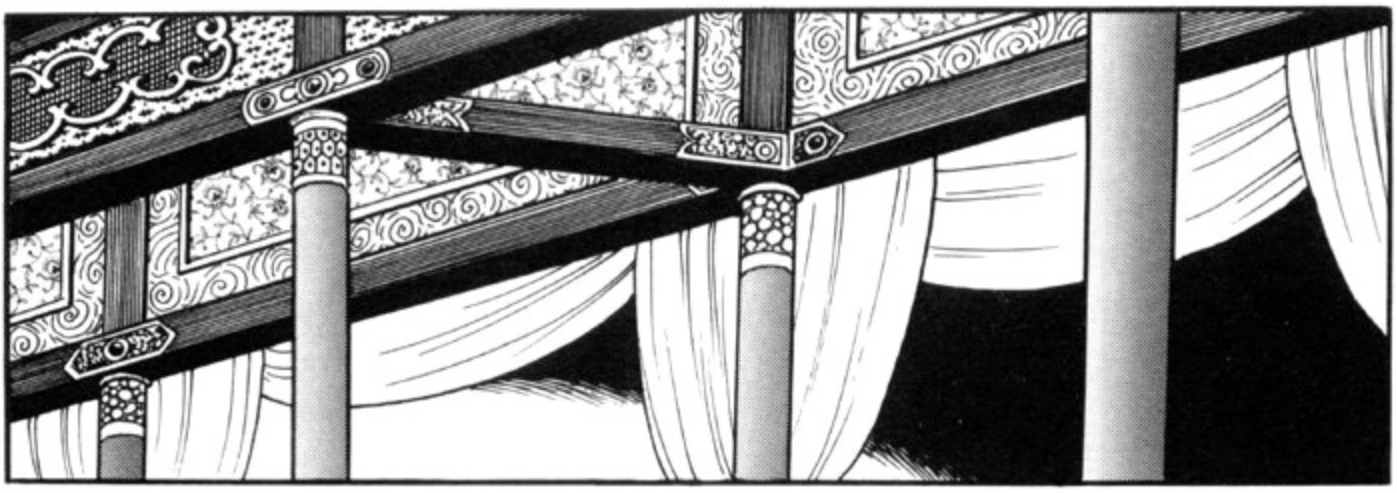
33

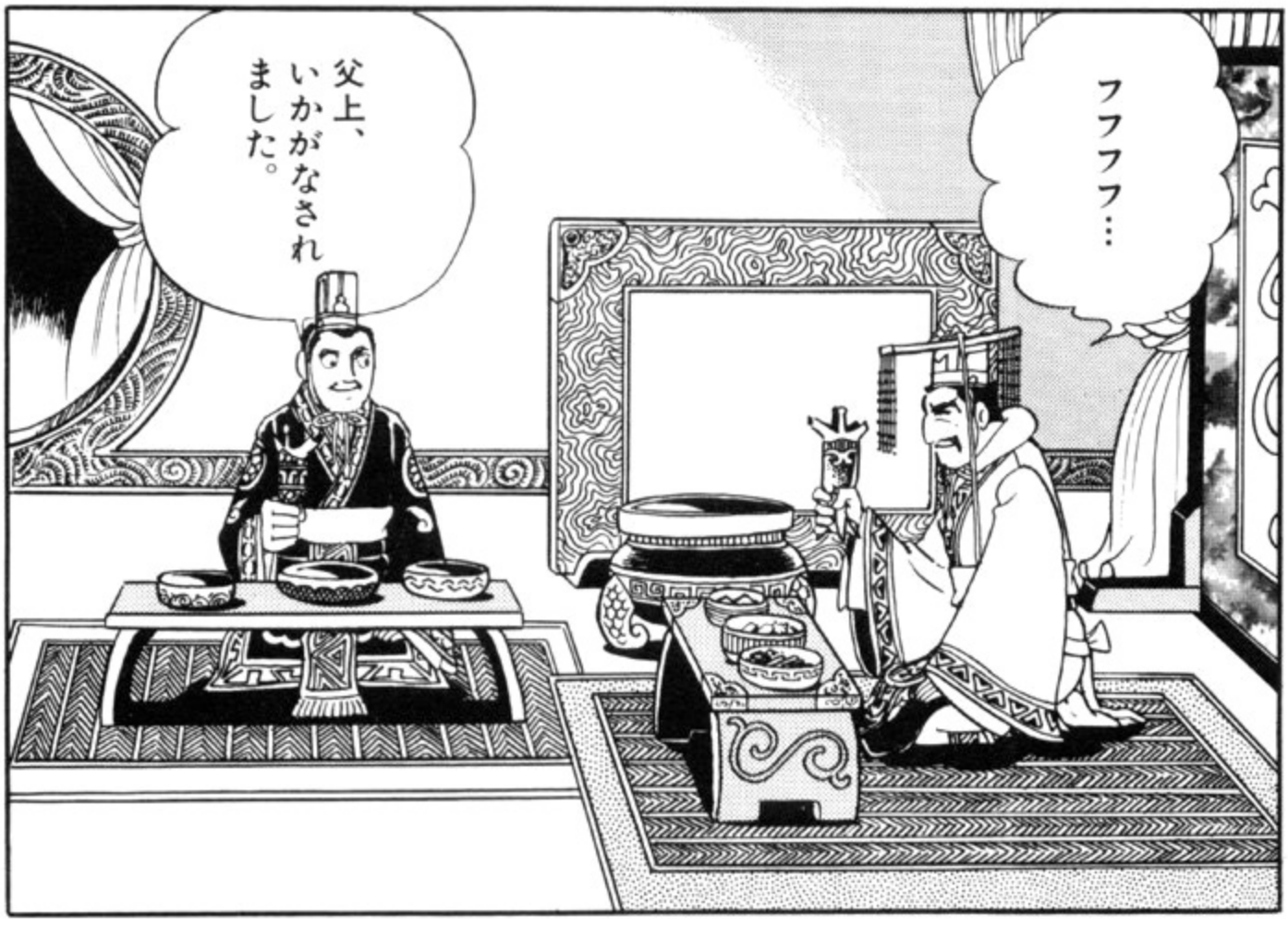
赴任した袁盎は部下をかわいがり、面倒をよく見た。

部下たちは、
袁盎のために
命を惜しまず
戦った。

34

その後、袁盎は斉の
宰相に封じられた。




フフフフ…
父上、いかがなされました。

35

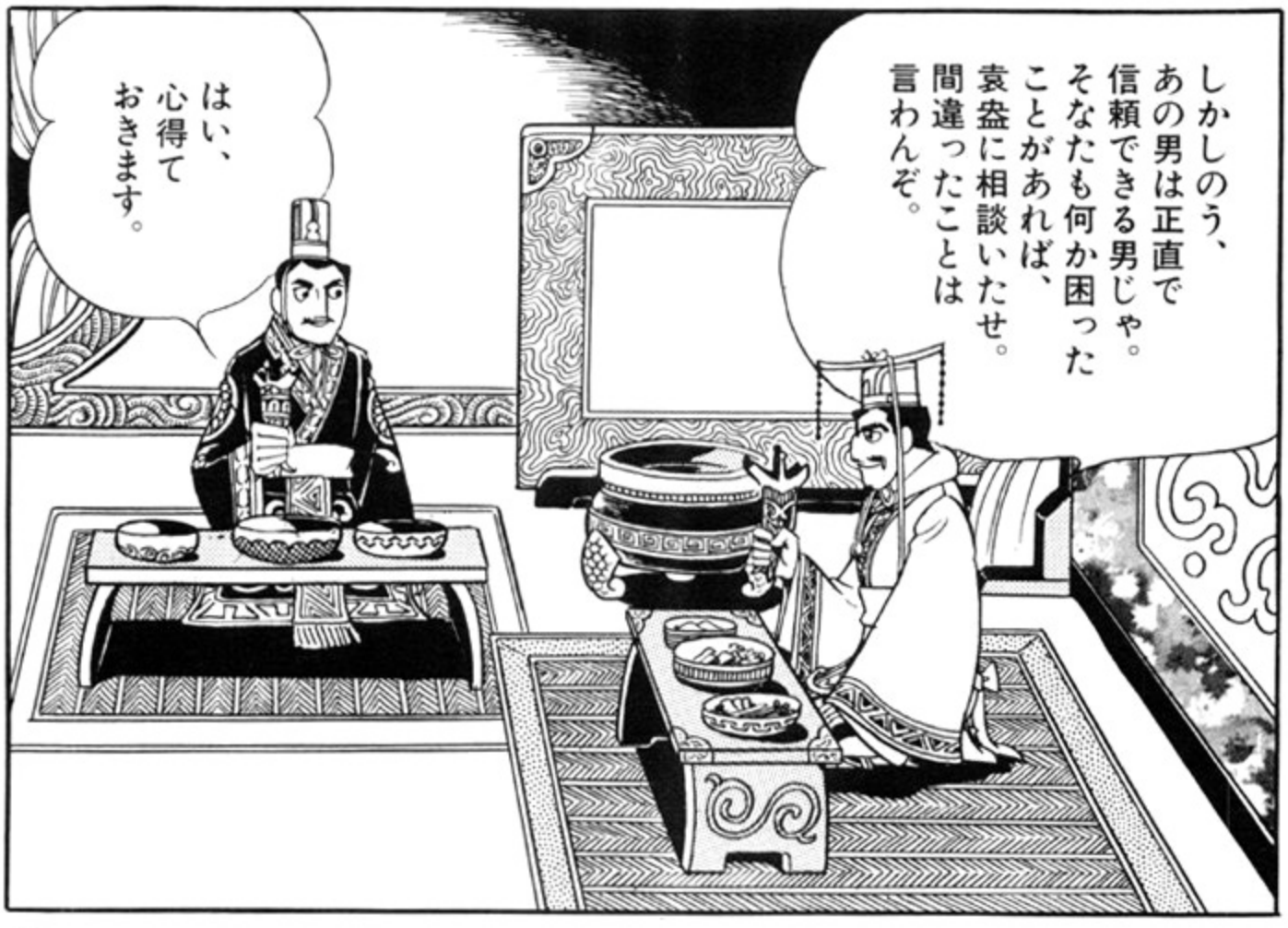
太子よ、今日 袁盎の話が持ちあがってのう。

斉の宰相の袁盎でございますか。

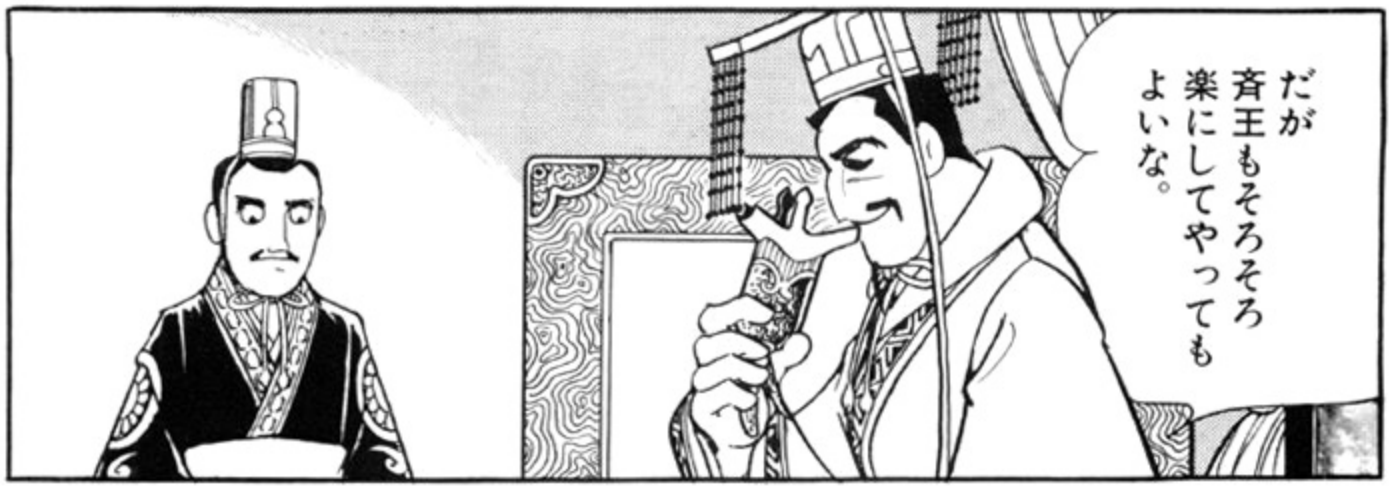
そうじゃ。斉王もさすがに悲鳴を上げてるそうな。

なぜでございます？

あの男は誰にでも遠慮なくずけずけと物を言う。だが間違ったことを言ってるわけではないので、反対できん。わしもよく諫められたものじゃが、肩がこる。


しかしのう、あの男は正直で信頼できる男じゃ。そなたも何か困ったことがあれば、袁盎に相談いたせ。間違ったことは言わんぞ。
はい、心得ておきます。

36


だが斉王もそろそろ楽にしてやってもよいな。

間もなく、袁盎は呉の宰相に任命された。

37

袁盎は、出発前に身内でささやかな宴を開いた。

叔父上、呉についたら諫言はひかえて下さいませ。

ほう…どうしてだ。

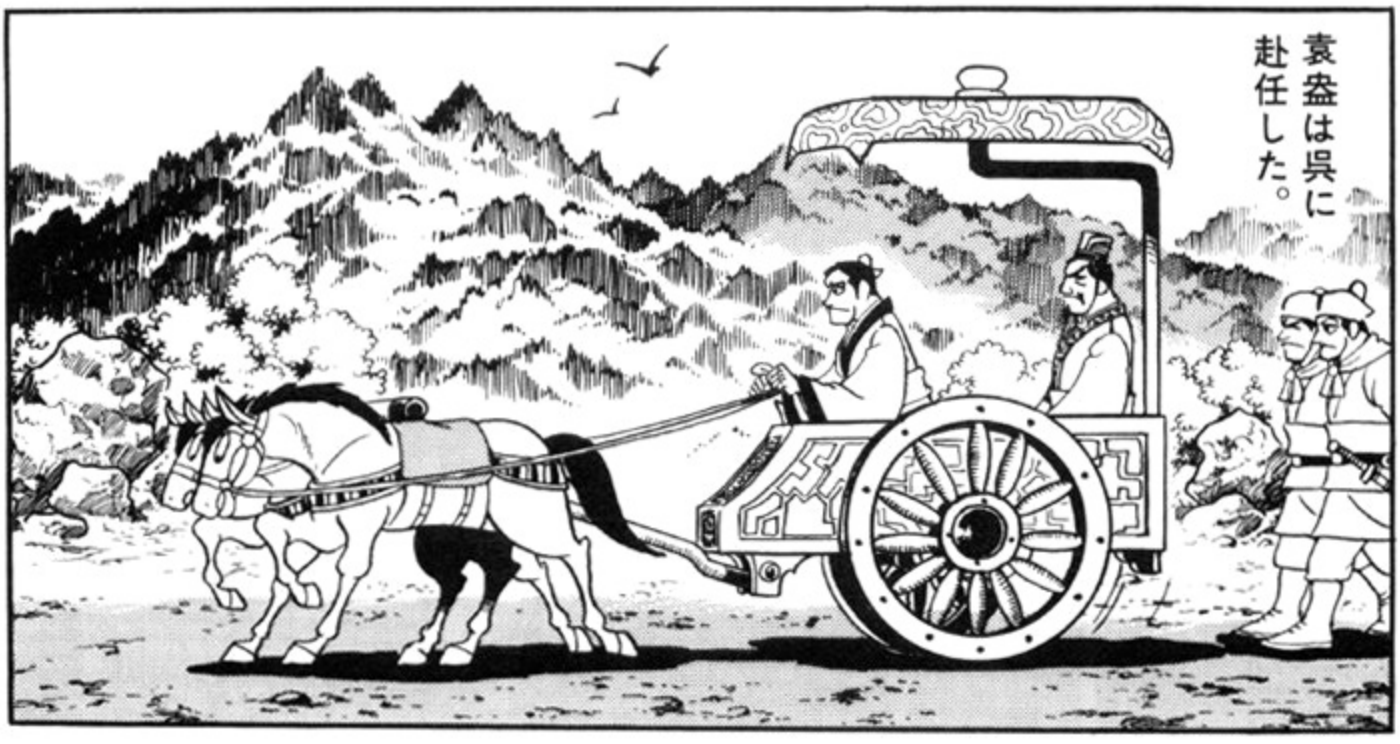
呉王はかねてより傲慢で有名な人物です。しかもまわりは奸臣、邪臣でいっぱいです。
これらの連中を糾弾したり、正道に戻そうとなされたら、たちまち暗殺されましょう。

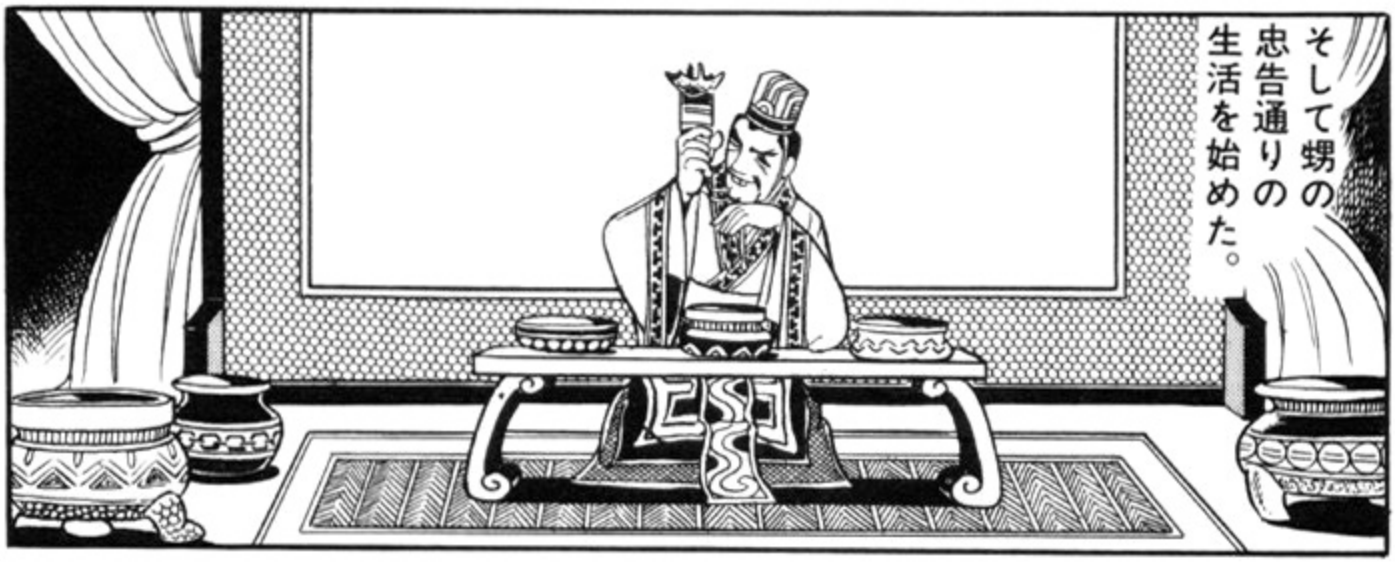
ふむ、ではわしは何をすればよい。

酒でも飲んで暮らし、時々「謀反はなさらぬように」とだけ言ってればよいでしょう。

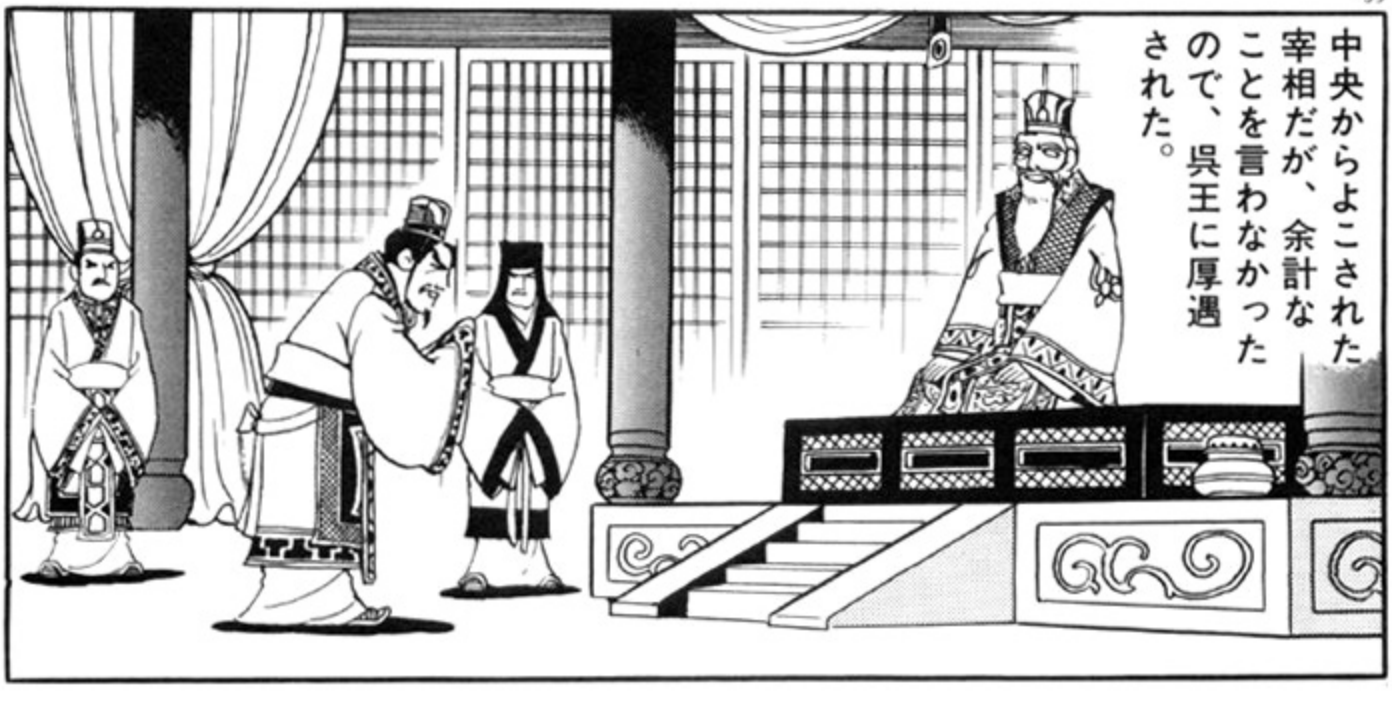
38

わかった。その忠告、覚えておこう。


袁盎は呉に赴任した。


そして甥の忠告通りの生活を始めた。

39


中央からよこされた宰相だが、余計なことを言わなかったので、呉王に厚遇された。

前一五七年、
文帝は崩じ…

40

太子が即位した。
景帝である。

帝が変わると、
側近も変わった。
その中に、袁盎と
犬猿の仲の晁錯がいた。
晁錯は景帝の
太子時代の侍従兼
教育係でもあった。

41

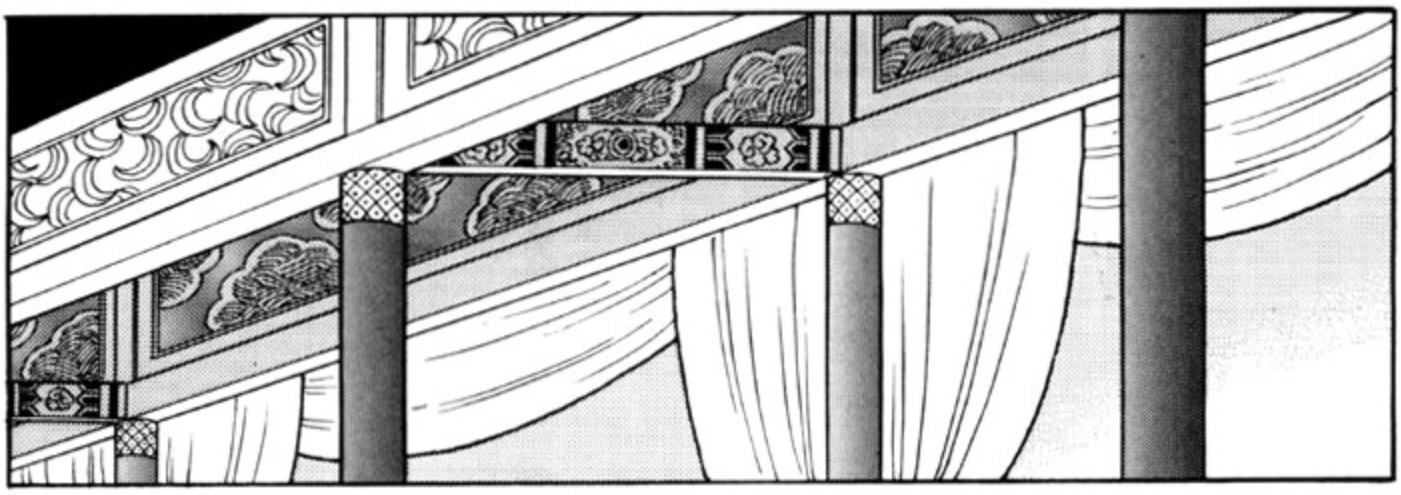
晁錯は法を厳しくし、
違反する諸王の領土を
削り、その力を弱め、
中央の権威を強く
しようと考えていた。
袁盎は、その方法は
劉氏の和を乱すもので、
かえって危険であると
反対していたのである。

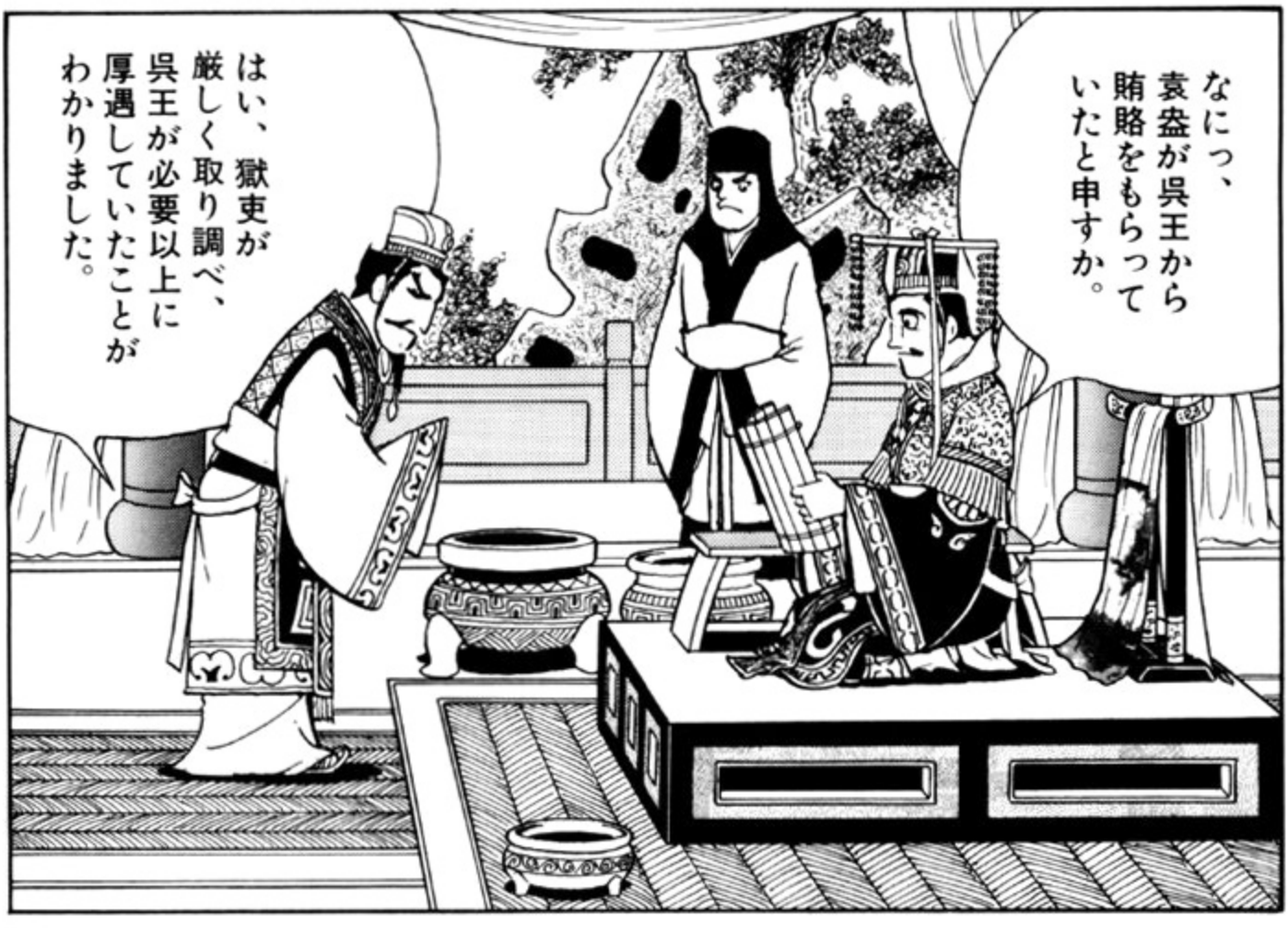
袁盎は突然
都に召還された。
晁錯はこの機に
うるさい袁盎を
罪に落とし、自分の
政策を押し通そうと
考えたのである。

42

なんですと!?
わしが呉王から
賄賂を受けて
いたと申すか!!

その通りだ!
お前が呉王から
厚遇されたのは、
都合の悪いことは
都に報告しなかった
からじゃ!




なにっ、袁盎が呉王から賄賂をもらっていたと申すか。
はい、獄吏が厳しく取り調べ、呉王が必要以上に厚遇していたことがわかりました。

43

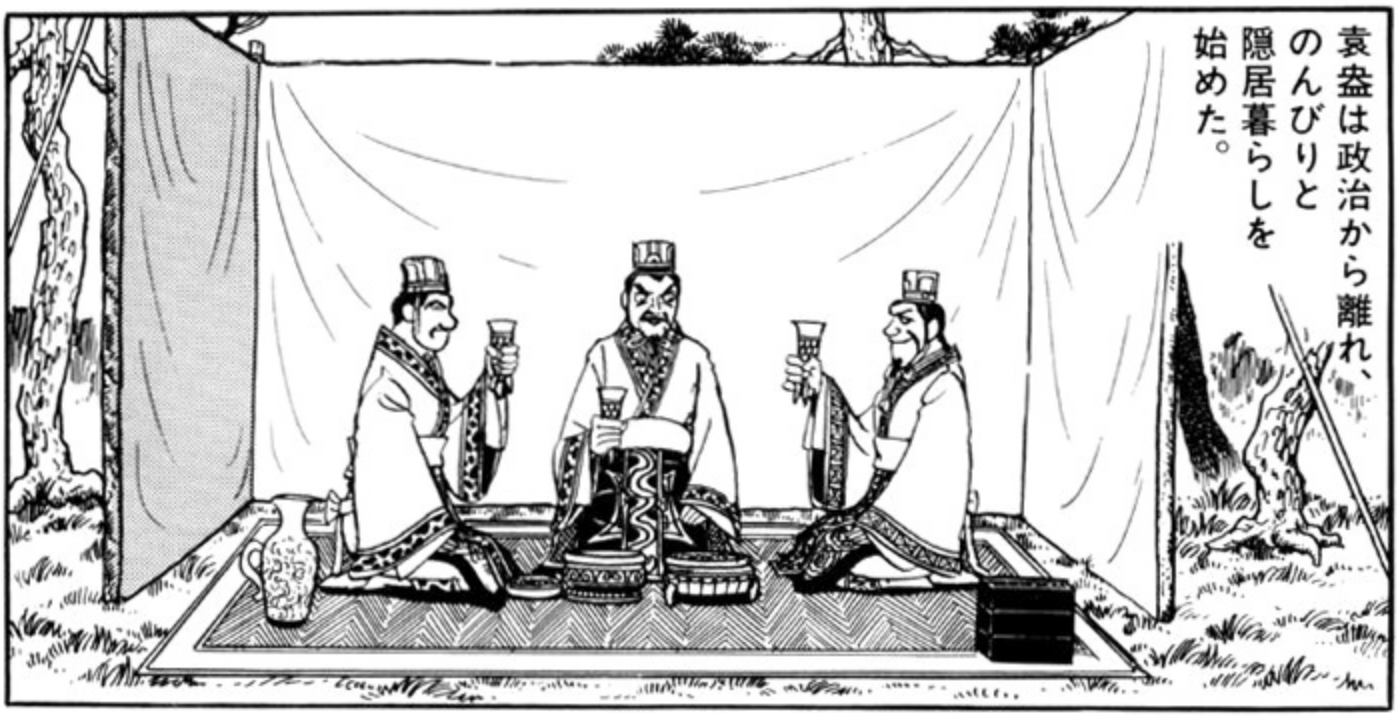
袁盎は、都合の悪いことは報告せず、握りつぶしていたのです。宰相たる地位を利用した罪は軽からず、天下に正義を示すためにも、死刑か流刑がふさわしいと考えまする。

ムムム…

この時 景帝は、文帝の言葉を思い出した。

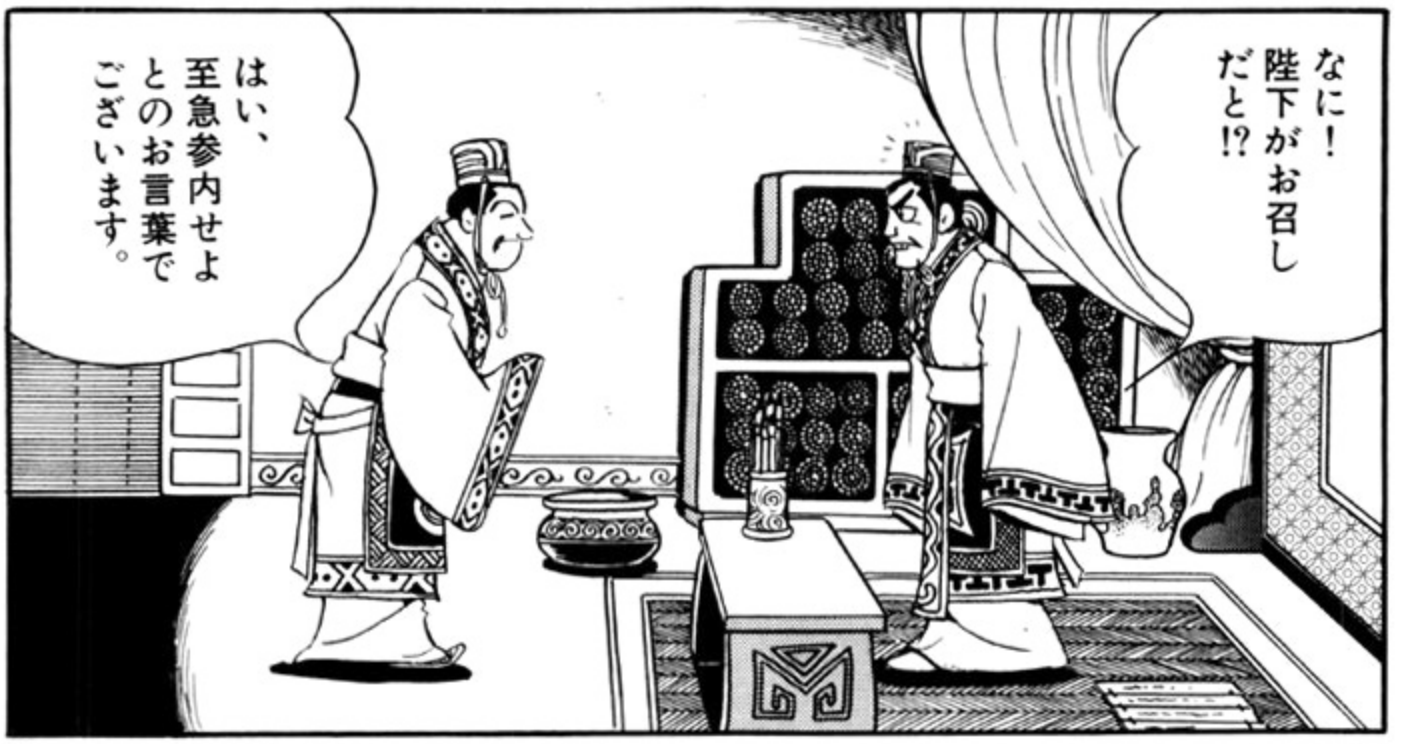
44

しかし景帝も自分が選んだ重臣晁錯の言葉を無視することはできなかった。

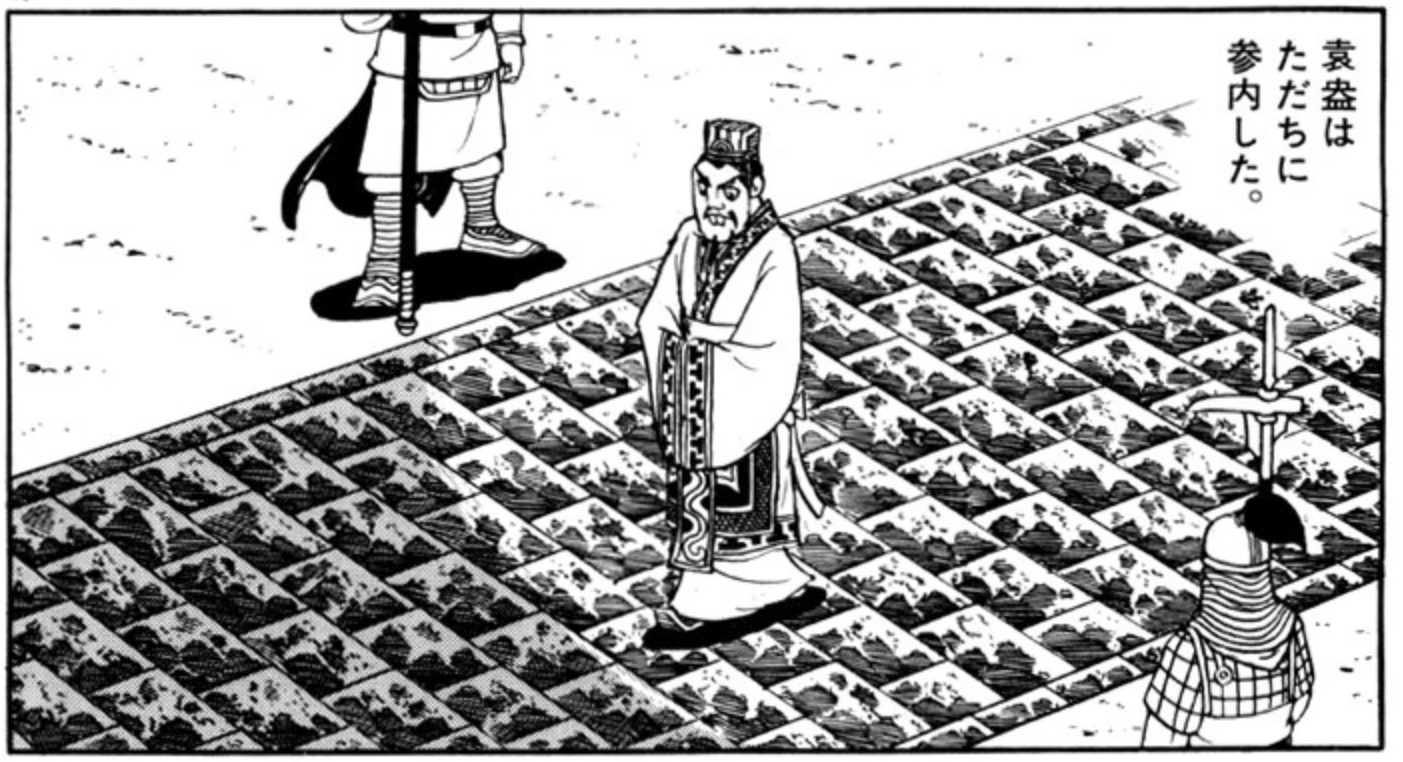

袁盎は政治から離れ、
のんびりと
隠居暮らしを
始めた。

45

この時、
呉楚七か国の
劉氏が反乱を
起こした。晁錯の
厳しい法に反発し、
晁錯を討てとの大義
名分を立てて反乱を
起こしたのである。
（くわしくは次巻）
呉
呉




46



おう、袁盎よ…
呉楚七か国は
反乱を起こした。

はい。

そなたは
呉の宰相を
務めていたゆえ、
呉にはくわしかろう。
この乱を鎮めるのに
よい知恵は
ないか。

ございます。

47

おう、
どうすれば
よいのじゃ。

これは他言を
はばかります。
お人払いを
お願いいたします。

よし、みな下がれ。

しかし国の一大事にございますれば……

よいから下がれ。

はっ。

48

さて、二人きりだ。袁盎よ、どうすればよい。

陛下、この乱の原因は晁錯どのの厳しい領地削減政策が原因です。

諸侯の大義名分は「晁錯を討つ」ということでございます。晁錯がいなくなればこの乱の大義名分はなくなり、すぐにでも鎮圧できましょう。

晁錯を殺せということか。
はい。

ムムム…

陛下、呉は国も豊かで軍事力もあります。戦さが長びけば匈奴に対する守りもできず、匈奴が牙をむきだしますぞ。
わ、わかった。

国内の乱れは外敵を利するだけである。景帝は太子時代からの側近を消す決断をせざるをえなかった。

翌日、
晁錯は参内の
途中で殺された。



新時代を迎え、
新官僚達が
新しい国造りを
はじめようとした
過程で起こった
事件であった。

『史記』第14集―完―

ビッグゴールド'97年1月号～2月号、5月号～6月号掲載作品

# ■『史記』関連年表

| 紀元前 | 中国 | 紀元前 | 世界の国々 |
|---|---|---|---|
| 2550 | 黄帝、顓頊、帝嚳、堯、舜の五帝が支配した伝説の時代。 | 4000頃 | エジプト初期王朝時代始まる。王都メンフィスを創設。 |
| 2144 | 夏、始まる。 | 2700頃 | エジプト、ピラミッドを造営。 |
| 1711 | 殷、始まる。 | 2500頃 | インダス文明はじまる。 |
| 1066 | 周、始まる。 | 2000頃 | 日本、縄文文化中期（発展期）。 |
| 1065 | 魯、燕、衛、晋、曹、蔡、呉、陳、宋、斉、楚の諸侯、成立。 | 1600頃 | クレタ文明旧宮殿時代。日本、縄文時代後期。 |
| 770 | 東周、始まる。秦、諸侯に列する。 | 955 | ソロモン（ダビデの子）イスラエル王となる。 |
| 722 | 春秋時代、始まる。 | 776 | ギリシア、オリンピアで第1回オリンピア競技会開催。 |
| | | 753 | ローマ建国。 |

| 紀元前 | 中国 |
| --- | --- |
| 686 | 斉の**襄公**、公孫無知の謀犯により死す。 |
| 685 | 斉の**桓公**、管仲を宰相に迎える。 |
| 667 | 斉の**桓公**、周王より伯（覇者）を賜る。 |
| 666 | 秦の**驪姫**、その子・奚斉を立てようとし、**重耳**らの追放をはかる。 |
| 645 | 斉の宰相**管仲**死す。 |
| 636 | 重耳、亡命19年ののち即位し、晋の文公となる。 |
| 546 | 宋の向戌の提唱で、晋、楚、魯、蔡、衛、秦など13か国間の和平成立。以降40年間休戦となる。 |
| 522 | 楚の**平王**、**伍奢**とその子伍尚を死罪に処す。伍尚の弟**伍子胥**、呉に逃げる。 |
| 515 | 呉の公子光、王、僚を討ち王位につく。名を**闔廬**と改める。 |
| 511 | 呉、**伍子胥**の計を用いて楚に侵入。 |
| 506 | 呉、楚軍を破り、楚の都**郢**に入る。 |
| 505 | 越、呉に侵入。楚の**申包胥**、秦の援軍を得て楚を救う。呉敗北。 |
| 496 | 呉王**闔廬**、越王**句践**と戦い、矢傷を負い敗死。 |
| 494 | 呉王**夫差**、**句践**を会稽山で破る。 |

| 紀元前 | 世界の国々 |
| --- | --- |
| 625 | 新バビロニア王朝はじまる。 |
| 539 | 新バビロニア王朝滅亡。ペルシア帝国隆盛期。 |
| 500 | ペルシア戦争始まる。 |
| 500頃 | 日本、縄文晩期時代。 |
| 490 | マラトンの戦いでペルシア、ギリシアに敗れる。 |

| | | |
|---|---|---|
| 484 | 呉王**夫差**、艾陵で斉軍を破る。**伍子胥**、呉王夫差より死を命ぜられ自害。 | |
| 482 | 呉王**夫差**、黄池で覇権を争う。その隙をついて越王句践、呉に侵入。呉、大敗を喫す。 | |
| 481 | **春秋時代**終わる。 | |
| 479 | 孔子死す。 | |
| 473 | 越王**句践**、呉を滅亡させ、覇者となる。 | |
| 453 | 大国・晋、韓・魏・趙の三氏に分裂される。これより三晋おこる。 | |
| 446 | 魏、文侯即位。魏の国力盛んとなる。 | 457 ギリシア、オリンピアにゼウス神殿完成。 |
| 403 | **戦国時代**始まる。 | 449 アテネ艦隊、キプロス島でペルシアを破る。ペルシア戦争終わる。 |
| 387 | 魏の文侯没す。**呉起**、楚に移り宰相となる。 | 447 ギリシア、パルテン神殿着工。 |
| 384 | 秦、殉死を禁止。 | |
| 381 | 楚の悼王没す。**呉起**、楚の貴族たちに殺される。 | |
| 367 | 周、**西周**と**東周**に分裂。 | |
| 359 | 秦の孝公、**商鞅**を左庶長に任じ、新法を公布、国内改革を断行。 | |
| 350 | 秦、咸陽へ遷都。 | |

| 紀元前 | 中国 |
| --- | --- |
| 341 | 斉の将軍田忌、孫臏の計により魏軍を破る。魏の将軍龐涓、自害。 |
| 340 | 秦の商鞅、魏軍を破り、商・於に封じられる。 |
| 338 | 秦の孝公没す。商鞅、車裂の刑に処される。 |
| 299 | 秦の昭王、斉の孟嘗君を迎える。 |
| 298 | 孟嘗君、秦より斉に逃げ帰り宰相となる。趙の恵文王、公子勝を平原君に封ずる。 |
| 293 | 秦の白起将軍、韓・魏連合軍を伊闕で破り、二十四万人を殺害。 |
| 289 | このころ孟子没。 |
| 286 | 斉、宋を滅ぼす。 |
| 284 | 燕、秦、趙、韓、魏、連合して斉を討つ。燕の将軍・楽毅、斉都臨淄に攻め入る。 |
| 280 | 秦の白起将軍、趙を破る。 |
| 279 | 秦の昭王、趙の恵文王と澠地で会談。燕の昭王死去。楽毅、趙へ亡命。 |

| 紀元前 | 世界の国々 |
| --- | --- |
| 340頃 | 日本、弥生前期時代。 |
| 336 | アレクサンドル大王即位。 |
| 331 | ペルシア帝国滅亡。 |
| 317 | インド、マウリア王朝を興す。 |
| 276 | 第一次シリア戦争始まる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 278 | 斉の田単、楽毅に奪られた七十余城を取り戻す。 | | |
| | 孟嘗君死去。 | | |
| 277 | 秦の白起将軍、楚を討ち、首都・郢を占拠。楚、東方の陳へ遷都。 | | |
| 276 | 秦の白起将軍、武安君に封じられる。 | | |
| | 魏の公子無忌、信陵君に封じられる。 | | |
| 273 | 秦の白起将軍、魏・韓・趙連合軍を破り、13万人を殺害。 | | |
| 270 | 趙の将軍・趙奢、作戦で秦軍を破る。 | | |
| 266 | 秦の昭王、范雎を宰相に任じ、応候に封じる。 | | |
| 262 | 楚の孝烈王即位。黄歇を春申君に封じる。 | | |
| 261 | 戦国時代最大の合戦、趙・秦の両軍による長平の合戦始まる。 | | |
| 260 | 趙の孝成王、廉頗将軍を罷免し、趙奢の子、趙括を総大将に任命。秦の白起将軍、趙軍を長平で大破し、捕虜四十万余を生き埋めにする。 | | |
| 257 | 秦の白起将軍自害。秦の王陵将軍、趙の都、邯鄲を包囲するも、楚の春申君、魏の信陵君の助太刀により大敗。 | | |
| 256 | 秦、西周を滅ぼす。 | | |
| | | 269 | ローマ、銀貨を初めて鋳造。 |
| | | 268 | インド、アショーカ王即位。マウリア王朝最盛期に。 |
| | | 264 | 第一次ポエニ戦争始まる。 |

| 紀元前 | 中国 |
| --- | --- |
| 255 | 秦の昭王、**范雎**を罷免する。 |
| 249 | 秦の昭王、**呂不韋**を相国とする。 |
| 247 | 秦、魏に侵攻。魏の**信陵君**、五か国の兵を率いて秦を破る。 |
| 246 | **秦王・政**（後の始皇帝）即位。呂不韋幼君政に代わって執権。 |
| 241 | 趙・楚・魏・燕・韓の5か国、連合して秦を攻め、函谷関に敗れる。 |
| 238 | 楚の李園、**春申君**を殺害。秦の長信候・**嫪毐**、謀反を起して失敗、車裂きの刑に処される。 |
| 237 | 秦の**呂不韋**、相国を解任され楚の**李斯**、秦王に登用される。 |
| 235 | 秦の**呂不韋**自害。 |
| 233 | 韓の公子・**韓非**、和平の使者として秦に送られ、後に獄中で毒を飲み自害。 |
| 230 | 秦により韓滅亡。 |
| 228 | 秦により趙滅亡。趙の公子・**嘉**、代に逃亡し代王となる。 |

| 紀元前 | 世界の国々 |
| --- | --- |
| 256 | ローマ海軍、シチリア南岸沖でカルタゴ海軍を破る。 |
| 248頃 | パルティア王国建国。 |
| 241 | 第一次ポエニ戦争終わる |
| 232 | アショーカ王没。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 227 | 燕の太子・丹、荊軻を刺客として秦王の許に送り失敗、太子丹、遼東に逃亡。秦の王翦、燕を討つ。 | | |
| 226 | 燕の太子丹、遼東で死去。 | | |
| 225 | 秦により魏滅亡。 | | |
| 223 | 秦により楚滅亡。 | | |
| 222 | 秦により燕、代滅亡。 | | |
| 221 | 秦、天下統一。秦王・政、始皇帝と改称。李斯を丞相に任命し、群県制を実施。 | | |
| 220 | 始皇帝、第一回巡幸（西方）。 | | |
| 219 | 始皇帝、第二回巡幸（東方）。霊峰・泰山にて封禅の儀式をとり行う。 | | |
| 218 | 始皇帝、第三回巡幸。韓の張良、博浪沙にて暗殺を試みるが失敗。 | | |
| 215 | 始皇帝、第四回巡幸。蒙恬将軍、匈奴を討伐。 | 215 | 第一次マケドニア戦争起こる。 |
| 214 | 万里の長城の建設始まる。 | | |
| 213 | 禁書の布令出る（世に言う「焚書」）。 | | |
| 212 | 驪山陵、阿房宮の建設始まる。儒者四百六十余人を生き埋めにする。（世に言う「坑儒」）。 | | |
| 210 | 始皇帝、第五回巡幸中、沙丘平台にて死去。驪山陵に葬る。胡亥、二世皇帝を即位。 | | |
| 209 | 陳勝・呉広、蘄県大沢郷にて挙兵。項梁・項羽、会稽にて蜂起。劉邦、沛にて蜂起。 | 205 | 第一次マケドニア戦争終る。 |

| 紀元前 | 中国 | 紀元前 | 世界の国々 |
| --- | --- | --- | --- |
| 208 | 呉広・陳勝、配下の手により刺殺される。 | | |
| 207 | 項羽、鉅鹿に秦軍を破り、諸侯を掌握。秦の李斯、趙高の謀議により刑死。趙高、秦の二世皇帝を殺害、子嬰を皇帝に立てる。子嬰、趙高を殺す。 | | |
| 206 | 秦王・子嬰、劉邦に降伏。劉邦、法三章を約す。 | | |
| 205 | 項羽と劉邦、鴻門に会す。劉邦、韓信の計を入れて漢中から出、三秦を平定。楚・漢の戦い始まる。劉邦、楚都・彭城を攻め大敗。 | | |
| 204 | 韓信、趙を破る。 | | |
| 202 | 劉邦、項羽を破り、漢王朝を興す。劉邦、皇帝・高祖を名のる。 | | |
| 201 | 高祖、楚王韓信を淮陰侯に降格。 | | |
| 196 | 淮陰侯韓信、誅殺される。 | | |
| 195 | 黥布、敗死。劉邦死去。恵帝立つ。 | | |
| 194 | 趙王如意とその母戚、呂后に殺される。 | | |
| 188 | 恵帝死去。呂后の専横始まる。 | | |
| 187 | 呂氏一族、王に封じられる。 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 180 | 呂后病死。丞相陳平、太尉周勃らと計り、呂一族を討つ。文帝立つ。 | |
| 174 | 淮南厲王、謀反し、流刑となり蜀へ送られる途中、病死。 | |
| 157 | 文帝死去。景帝立つ。 | |
| 155 | 晁錯、御史大夫になり、諸侯の領土削減政策を実施。 | |
| 154 | 晁錯、誅殺される。 | |
| 145 | 司馬遷、生まれる。（異説あり）。 | |
| 140 | 武帝、天下の大学者、董仲舒を得る。 | |
| 136 | 武帝、五経博士を置く。 | |
| 110 | 武帝、泰山で封禅を行なう。 | |
| 104 | 太初暦（陰暦）完成。 | |
| 99 | 匈奴軍に降った李陵を弁護したため、司馬遷宮刑に処される。 | |
| 96 | 司馬遷、大赦により出獄し、中書令に任命される。 | |
| 87 | 武帝死去。 | |
| 86 | 司馬遷死去。（異説あり）。 | |
| 144 | | ローマ、マルキア水道建設。 |
| 133 | | グラックス兄弟の改革。 |
| 87 | | 民衆派ローマを占領。恐怖政治始まる。 |

ビッグゴールドコミックス

# 史記

劉氏反撃

14

1997年 9 月20日　初版第一刷発行

著者
横山光輝
©1997 MITSUTERU YOKOYAMA
発行者
熊谷玄典

発行所
株式会社　小学館

振替(00180-1-200)
〒101-01東京都千代田区一ツ橋2-3-1
[編集]TEL03・3230・5481[販売]TEL03・3230・5749

印刷所
株式会社美松堂(カバー・表紙)
中央精版印刷株式会社

装幀
海野一雄
＋
Bay Bridge Studio

●本書の一部あるいは全部を無断で複製・転載・上演・放送等をすることは、
法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利侵害となります。あらかじめ小社あて許諾を求めてください。
●造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、「制作部」あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。制作部(TEL0120-336-082)
Ⓡ本書の一部または全部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。
本書から複写を希望される場合は、日本複写権センター(TEL03-3401-2382)にご連絡ください。

検印廃止

ISBN4-09-189194-2

Printed in Japan

●四六変型判●各224～288ページ
●定価(各)650円～700円〈税込〉

好評発売中!

小学館

里中満智子［アトンの娘］全③巻
近藤ようこ［心の迷宮］①～②巻
水島　新司［平成野球草子］全⑩巻
ジョージ秋山［博愛の人］全⑧巻
横山　光輝［史　記］①～⑭巻 最新刊⑭巻
松本　零士［無限海漂流記］①～②巻
松本　零士［ケースハード］①～⑥巻
水木しげる［妖怪博士の朝食］全④巻
齋藤なずな［作品集①迷路のない町］
齋藤なずな［作品集②恋愛烈伝］(上)
齋藤なずな［作品集③恋愛烈伝］(中)
竹宮　惠子［紅(くれなゐ)にほふ］全③巻

# ビッグゴールド BGC コミックス

青柳 裕介 ［作品集①男の船出］全①巻
青柳 裕介 ［作品集②男達の航海］全①巻
青柳 裕介 ［ゼンマイ仕掛けの犯罪白書］全②巻
藤子不二雄Ⓐ ［ワールド漂流記］①巻
岡崎 二郎 ［作品集①トワイライト・ミュージアム］
畑中 純 ［理想宮］全②巻
石ノ森章太郎 ［HATAGO〈旅籠〉］全②巻
石ノ森章太郎 ［石ノ森版立川文庫］①～③巻
面家 哲郎 高井研一郎 ［たらちねストリート］全②巻
戸川幸夫 矢口高雄 ［野性伝説］①～③巻
村野 守美 ［職人尽百景］①～②巻
久保田千太郎 ほんまりう ［新・藩翰譜森一族］全②巻

続刊 戸川幸夫／矢口高雄［野性伝説］④巻〈9月下旬発売!!〉